



## **Cisco DNA Center プラットフォーム リリース 2.3.7.0 および 2.3.7.3 ユーザーガイド**

初版：2023年8月11日

最終更新：2023年12月12日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ [www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

---

第 1 章	<b>新機能および変更された機能に関する情報 1</b>
	新機能および変更された機能に関する情報 1

---

第 2 章	<b>Cisco DNA Center プラットフォームについて 3</b>
	About Cisco DNA Center プラットフォーム 3
	インテント API について 4
	イベントおよび通知について 4

---

第 3 章	<b>Cisco DNA Center プラットフォームの展開 7</b>
	概要 7
	Cisco DNA Center プラットフォーム のインストール 7
	統合設定の設定 8
	API の前提条件 9
	プラットフォーム向けロールベース アクセス コントロールのサポート 10

---

第 4 章	<b>プラットフォーム概要 GUI 13</b>
	プラットフォームの概要について 13
	プラットフォーム GUI の確認 14

---

第 5 章	<b>プラットフォーム管理 GUI 15</b>
	管理について 15
	バンドルについて 16
	バンドル機能 16
	バンドルの設定：イベントを受信する宛先 18

バンドルの設定 : ServiceNow のアクセス設定	21
バンドルの設定 : ServiceNow の CMDB データ同期	25

---

**第 6 章**

<b>コンフィギュレーション</b>	<b>35</b>
設定について	35
イベント設定の構成	36
全般設定の設定 : インスタンスの編集	38
全般設定の設定 : インスタンスの追加	40
ウェブフックの宛先の設定	42
電子メールの宛先の設定	44
Syslog サーバーの宛先の設定	46
トラップ通知の設定	49

---

**第 7 章**

<b>レポート</b>	<b>53</b>
レポートの概要	53
最初のレポートの実行	54
アクセスポイントレポートの実行	57
クライアントレポートの実行	64
コンプライアンスレポートの実行	68
設定アーカイブレポートの実行	71
サポート終了レポートの実行	73
エグゼクティブ サマリー レポートの実行	76
インベントリレポートの実行	80
ライセンスレポートの実行	83
ネットワーク デバイス レポートの実行	86
不正および aWIPS レポートの実行	89
ROI レポートの実行	93
セキュリティ アドバイザリ レポートの実行	94
SWIM レポートの実行	98
フレキシブルレポートの生成	101
生成されたレポートの表示	105

---

第 8 章	<b>開発者用ツールキット GUI</b>	<b>109</b>
	開発者用ツールキットについて	109
	API での作業	109
	統合フローの使用	112
	イベント通知の使用	114
	イベント通知シミュレーションの使用	118

---

第 9 章	<b>Runtime Dashboard</b>	<b>121</b>
	Runtime Dashboard について	121
	イベントの概要の確認	121
	ITSM イベントの再試行	126
	API の概要の確認	130
	CMDB 同期の概要の確認	131
	統合フローの概要の確認	133

---

第 10 章	<b>Cisco DNA Center プラットフォーム のリソースおよびドキュメンテーション</b>	<b>137</b>
	Cisco DNA Center プラットフォーム のリソースおよびドキュメンテーション	137





# 第 1 章

## 新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

### 新機能および変更された機能に関する情報

次の表では、このリリースにおける新機能および変更された機能を要約し、その参照先を示しています。

表 1: 新機能および変更された機能

機能	説明	参照先
新しいフレキシブルレポートのエンティティ	この Cisco DNA Center プラットフォーム リリースでは、フレキシブルレポートで 2 つの新しいエンティティがサポートされます。	詳細については、 <a href="#">フレキシブルレポートの生成 (101 ページ)</a> を参照してください。
演算子ベースのフィールドフィルタ	この Cisco DNA Center プラットフォーム リリースでは、フレキシブルレポートで演算子ベースのフィールドフィルタをサポートしています。	詳細については、 <a href="#">フレキシブルレポートの生成 (101 ページ)</a> を参照してください。
電子メールの宛先を設定するための電子メール認証サポート	この Cisco DNA Center プラットフォーム リリースでは、通知を受信する電子メールの宛先を設定する際に、プライマリおよびセカンダリ SMTP サーバーの電子メール認証がサポートされます。	詳細については、 <a href="#">電子メールの宛先の設定 (44 ページ)</a> を参照してください。





## 第 2 章

# Cisco DNA Center プラットフォームについて

- [About Cisco DNA Center プラットフォーム \(3 ページ\)](#)
- [インテント API について \(4 ページ\)](#)
- [イベントおよび通知について \(4 ページ\)](#)

## About Cisco DNA Center プラットフォーム

Cisco DNA Center は、そのネイティブ機能の上に構築可能な付加価値アプリケーションを作成するために、シスコのお客様とパートナーが使用できる拡張可能なプラットフォームを提供します。Cisco DNA Center プラットフォームの次の機能を活用し、エンドツーエンドの IT プロセスを最適化し、総所有コスト (TCO) を削減し、新しい価値ネットワークを開発することで、全体的なネットワークエクスペリエンスを高めることができます。

- **インテント API** : インテント API は Cisco DNA Center プラットフォームの固有機能を公開するノースバウンド REST API です。インテント API は、ビジネス目的のポリシーベースの抽象化を提供し、成果を実装するためのメカニズムに悩まされることなく、成果に注力できるようになります。API は、REST API アーキテクチャスタイルに準拠しています。API はシンプルかつ拡張可能で安全に使用できます。また、HTTPS 経由の GET、POST、PUT および DELETE 操作を含む標準の REST メソッドをサポートしています。詳細については、『[Getting Started with the Cisco DNA Center Platform Intent API](#)』を参照してください。
- **統合フロー** : 統合機能はウエストバウンドインターフェイスの一部です。最新のデータセンターでの運用を拡張および高速化するニーズに応えるため、IT オペレータにはオープン API によるインテリジェントなエンドツーエンドのワークフローが必要です。Cisco DNA Center プラットフォームは、アシュアランスワークフローおよびデータと、サードパーティ製の IT サービスの管理 (ITSM) ソリューションを統合するためのメカニズムを提供します。詳細については、『[Integration APIs](#)』を参照してください。
- **イベントおよび通知サービス** : サポートされているサービスは、Cisco DNA アシュアランス イベントおよび Cisco DNA Center SWIM イベントをキャプチャして、サードパーティ製アプリケーションに転送するために使用できます。



- (注) SUPER-ADMIN-ROLE のユーザーは、Cisco DNA Center プラットフォームアプリケーションにアクセスできます。SUPER-ADMIN-ROLE のユーザーとしてログインすると、Cisco DNA Center プラットフォームの機能を表示し、GUI を使用してアクションを実行できます。さらに、SUPER-ADMIN-ROLE のユーザーは、さまざまなプラットフォーム機能（API、バンドル、イベント、およびレポート）に対する読み取り、書き込み、または拒否権限を持つカスタムロールを作成できます。この機能にアクセスするには、左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[System] > [Users & Roles] > [Role Based Action Access Control]** の順に選択します。

## インテント API について

インテント API は Cisco DNA Center プラットフォームの固有機能を公開するノースバウンド REST API です。インテント API は、ビジネス目的のポリシーベースの抽象化を提供し、成果を実装するためのメカニズムに悩まされることなく、成果に注力できるようになります。

API は REST API アーキテクチャスタイルに準拠しており、シンプルかつ拡張可能で安全に使用できます。また、HTTPS 経由の GET、POST、PUT および DELETE 操作を含む標準の REST メソッドをサポートしています。REST エンドポイントは、JavaScript Object Notation (JSON) ドキュメントを含む HTTPS メッセージを受信して返信します。API メソッドを含むメッセージと JSON ドキュメントの生成には、どのプログラミング言語でも使用できます。これらの API は、Cisco DNA Center のロールベースアクセスコントロール (RBAC) ルールに準拠します。セキュリティ対策として、API を使用する前にユーザーを正常に認証する必要があります。

インテント API は、Cisco DNA Center プラットフォーム GUI で確認できる API カタログに一覧表示されています。[Platform] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：> [Developer Toolkit] > [APIs] の順に選択します。



- (注) インテント API の詳細については、「[Intent APIs](#)」を参照してください。Cisco DNA Center プラットフォームが使用する API についての一般的な情報は、「[Cisco DNA Center Platform Overview](#)」を参照してください。

## イベントおよび通知について

Cisco DNA Center プラットフォームは、特定のイベントがトリガーされた場合にカスタム通知を送信する機能をサポートしています。これは、イベントタイプに基づきビジネスアクションを実行するサードパーティ製システムには役立つ機能です。たとえば、ネットワーク内のデバイスがコンプライアンスに違反している場合、カスタムアプリケーションは通知を受信して、ソフトウェアアップグレードアクションを実行することがあります。

このリリースで使用可能なイベントのリストを表示できます。[Platform]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：>[Manage]>[Configurations]の順に選択します。そのようなイベントは、ITサービスの管理（ITSM）のインシデント用にカスタマイズできます。





## 第 3 章

# Cisco DNA Center プラットフォームの展開

- [概要 \(7 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Center プラットフォーム のインストール \(7 ページ\)](#)
- [統合設定の設定 \(8 ページ\)](#)
- [API の前提条件 \(9 ページ\)](#)
- [プラットフォーム向けロールベース アクセス コントロールのサポート \(10 ページ\)](#)

## 概要

Cisco DNA Center プラットフォームを展開するには、次の手順を実行します。

1. Cisco DNA Center リリース 2.3.7 をインストールします。詳細については、[Cisco DNA Center プラットフォーム のインストール \(7 ページ\)](#) を参照してください。
2. 統合の設定を行います。詳細については、[統合設定の設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco DNA Center プラットフォームの展開後、次のタスクを実行します。

- API の前提条件を確認します。詳細については、[API の前提条件 \(9 ページ\)](#) を参照してください。
- GUI の [Overview] に進んで簡単な機能説明を確認し、Cisco DNA Center プラットフォームの理解を深めてください。詳細については、[プラットフォームの概要について \(13 ページ\)](#) を参照してください。
- GUI の [Bundles] に進み、ネットワークに必要なバンドルの有効化、設定、アクティベートを行います。詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

## Cisco DNA Center プラットフォーム のインストール

このリリースでは、Cisco DNA Center の新規インストールを実行すると、Cisco DNA Center プラットフォームもインストールされます。Cisco DNA Center プラットフォームの個別のインス

ツール手順は不要になりました。Cisco DNA Center のインストール方法については、[Cisco DNA Center 設置ガイド](#)を参照してください。

インストール後、GUI の [Navigation] slide-in pane に [Platform] オプションが表示されます。[Platform] タブをクリックし、Cisco DNA Center プラットフォームにアクセスします。SUPER-ADMIN-ROLE のユーザは、Cisco DNA Center プラットフォームにアクセスできます。SUPER-ADMIN-ROLE のユーザとしてログインすると、Cisco DNA Center プラットフォームの機能を表示し、GUI を使用してアクションを実行できます。さらに、SUPER-ADMIN-ROLE のユーザーは、さまざまなプラットフォーム機能（API、バンドル、イベント、およびレポート）に対する読み取り、書き込み、または拒否権限を持つカスタムロールを作成できます。この機能にアクセスするには、左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[System] > [Users & Roles] > [Role Based Action Access Control]** の順に選択します。

NETWORK-ADMIN-ROLE と OBSERVER-ROLE は、Cisco DNA Center プラットフォームの機能が制限されます。たとえば、それらの2つのロールでは、次のアクションは許可されません。

- レポートの生成
- イベントの登録
- イベント設定の構成
- バンドルの有効化と設定
- ユーザーとロールの設定

## 統合設定の設定

ファイアウォールなどのルールが、Cisco DNA Center と、Cisco DNA Center プラットフォームに到達する必要があるサードパーティ製アプリケーションの間に存在する場合は、[Integration Settings] を設定する必要があります。Cisco DNA Center の IP アドレスが、インターネットや外部ネットワークに接続する別の IP アドレスに内部的にマッピングされる場合には、このような事例が発生します。




---

**重要** Cisco DNA Center のバックアップおよび復元後、[Integration Settings] ウィンドウにアクセスし、（必要に応じて）次の手順を使用して [Callback URL Hostname] または [IP Address] を更新する必要があります。

---

### 始める前に

前のセクションの説明に従って Cisco DNA Center プラットフォームを導入しました。

---

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[System] > [Settings] > [System Configuration] > [Integration Settings]** の順に選択します。

**ステップ 2** [Callback URL Host Name]、または Cisco DNA Center プラットフォーム と通信するときにサードパーティ製アプリケーションが接続する必要がある [IP Address] を入力します。

(注) [Callback URL Host Name] または [IP Address] は、Cisco DNA Center に内部的にマッピングされている外部向けホスト名または IP アドレスです。3 ノードクラスタセットアップの VIP アドレスを設定します。

**ステップ 3** [Apply] をクリックします。

### 次のタスク

Cisco DNA Center プラットフォーム の API の前提条件を確認します。

## API の前提条件

Cisco DNA Center API および Cisco DNA Center プラットフォーム を使用するためには、次の API の前提条件を満たす必要があります。

### サポートされているプログラミング言語

Cisco DNA Center プラットフォーム で生成されるコードプレビューを使用するには、サポートされているプログラミング言語を使用し、生成されたコードを使用するために必要なその他の言語固有のタスクを実行する必要があります。

たとえば、Cisco DNA Center プラットフォーム によって生成された Python スクリプトを使用するには、要求ライブラリをインストールする必要があります。次の CLI コマンドを使用して、pip (Pip Installs Packages) をインストールすることができます。

```
pip install requests
```

Cisco DNA Center プラットフォーム は、GUI で次の言語のコードプレビューを生成できます。

- シェル
- ノード : **HTTP**
- ノード : **Unirest**
- ノード : **Request**
- **Python**
- **Ruby**
- **javascript**
- **JQuery**
- **PHP**
- **Go**

- Ansible

### 認証

Cisco DNA Center API はトークンベースの認証を使用し、トークンの有効期間は 60 秒です。認証スクリプト（サポートされている任意のプログラミング言語を使用）を使用して API にログインする必要があります。たとえば、次の Python スクリプトを実行してログインします。

```
def get_token():
    token = requests.post(
        'https://<cluster IP>/api/system/v1/auth/token',
        auth=HTTPBasicAuth(
            username=<username>,
            password=<password>
        ),
        headers={'content-type': 'application/json'},
        verify=False,
    )
    data = token.json()
    return data['Token']
```

## プラットフォーム向けロールベース アクセスコントロールのサポート

Cisco DNA Center プラットフォーム ロールベース アクセス コントロール (RBAC) をサポートしています。これにより、SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザーは、特定のプラットフォーム機能へのユーザーアクセスを許可または制限するカスタムロールを定義できます。

カスタムロールを定義し、定義したロールにユーザーを割り当てるには、次の手順を実行します。



(注) SUPER-ADMIN-ROLE のユーザーは、Cisco DNA Center プラットフォームにアクセスできます。SUPER-ADMIN-ROLE のユーザーとしてログインすると、Cisco DNA Center プラットフォームの機能を表示し、GUIを使用してアクションを実行できます。NETWORK-ADMIN-ROLE と OBSERVER-ROLE は、Cisco DNA Center プラットフォームの機能が制限されます。たとえば、それらの2つのロールでは、次のアクションは許可されません。

- レポートの生成
- イベントの登録
- イベント設定の構成
- バンドルの有効化と設定
- ユーザーとロールの設定

詳細については、『Cisco Digital Network Architecture Center Administrator Guide』の「Manage Users」の章を参照してください。

### 始める前に

SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザーのみがこの手順を実行することができます。

### ステップ 1 カスタムロールを定義します。

- a) 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Users and Roles] > [Role Based Access Control] の順に選択します。
- b) [Create New Role]  をクリックします。

[Create a Role] ウィンドウが表示されます。これが RBAC の最初のイテレーションである場合、新しいロールを作成した後に、ユーザーを新しいロールに割り当てるように求められます。

- c) [Let's Do it] をクリックします。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

[Create a New Role] ウィンドウが表示されます。

- d) ロール名を入力し、[Next] をクリックします。

[Define the Access] ウィンドウにオプションのリストが表示されます。

- e) [Platform] の横にある [>] をクリックして展開します。

次のオプションが表示されます。このオプションを使用して、新しいロールに対して [Deny] (デフォルト)、[Read]、[Write] 権限を設定できます。

- [APIs] : API を表示および試すことができます。
- [Bundles] : バンドルと ITSM の統合設定を設定してアクティブ化できます。

- [Events] : 電子メール、REST API エンドポイント、および SNMP トラップのイベント設定を設定できます。
  - [Reports] : レポートをスケジュール、表示、およびダウンロードできます。
- f) [Next] をクリックします。  
[Summary] ウィンドウが表示されます。
- g) サマリーを確認します。サマリーの情報が正しい場合は、[Create Role] をクリックします。誤りがある場合は、[Edit] をクリックして適切な変更を行います。  
[Done, Role-Name] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 作成したカスタムロールにユーザーを割り当てるには、[Add Users] をクリックします。

[User Management] > [Internal Users] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、カスタムロールを既存のユーザーまたは新規ユーザーに割り当てることができます。

- 既存のユーザーにカスタムロールを割り当てるには、次の手順を実行します。
  1. [Internal Users] ウィンドウで、カスタムロールを割り当てるユーザーの横にあるオプションボタンをクリックし、次に [Edit] をクリックします。  
[Update Internal User] slide-in paneが表示されます。
  2. [Role List] ドロップダウンリストから、カスタムロールを選択し、[Save] をクリックします。
- カスタムロールを新規ユーザーに割り当てるには、次の手順を実行します。
  1.  Add をクリックします。  
[Create Internal User] slide-in paneが表示されます。
  2. 表示されるフィールドに氏名とユーザー名を入力します。
  3. [Role List] ドロップダウンリストから、新規ユーザーに割り当てるカスタムロールを選択します。
  4. 新しいパスワードを入力し、確認のために再度入力します。
  5. [Save] をクリックします。

**ステップ 3** 既存のユーザーがログイン中に、管理者がそのユーザーのアクセス権限を変更した場合、新しい権限設定を有効にするには、ユーザーが Cisco DNA Center からログアウトして、ログインし直す必要があります。



## 第 4 章

# プラットフォーム概要 GUI

- [プラットフォームの概要について \(13 ページ\)](#)
- [プラットフォーム GUI の確認 \(14 ページ\)](#)

## プラットフォームの概要について

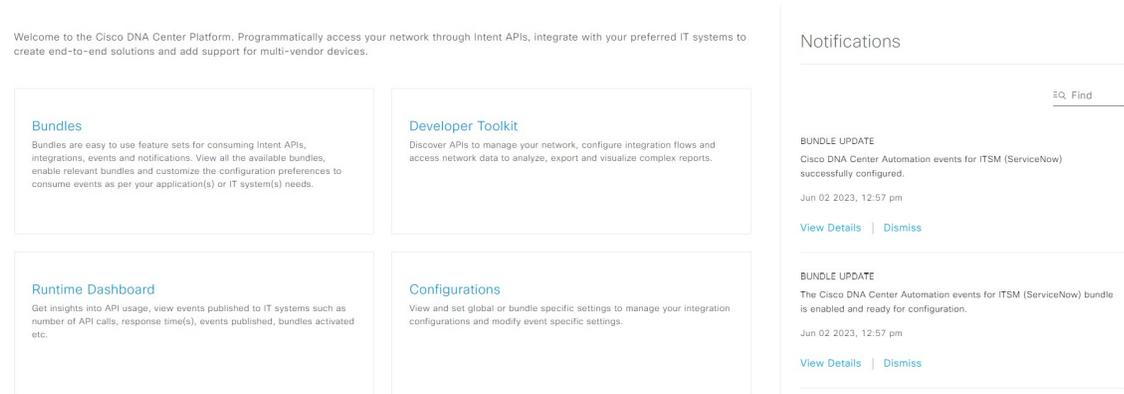
[Overview] ウィンドウにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択 **[Platform]** > **[Overview]** の順に選択します。[Overview] ウィンドウでは次の機能がサポートされます。

- 次のような Cisco DNA Center プラットフォームの GUI 機能の概要と直接リンクが表示されます。
  - **[Bundles]** : 独自のアプリケーションを Cisco DNA Center と統合するために使用できる、または Cisco DNA Center 自体のパフォーマンスを高めるために使用できるバンドルへのアクセスを提供します。バンドルは、API、DNA イベント、統合フロー、データサービス、またはアプリケーションのグループ化として定義されます。さらに、一般設定またはイベントグローバル設定や複数のバンドルに関する設定を指定できる GUI (**[Configurations]**) へのアクセスも提供します。
  - **[Developer Toolkit]** : Cisco DNA Center にアクセスしたり Cisco DNA Center を他のアプリケーションと統合したりするためのツール (API および統合フロー) を提供します。
  - **[Runtime Dashboard]** : メトリックが収集されるダッシュボードを提供します。また、API、統合フロー、およびイベントサマリーを確認できます。
  - **[Configurations]** : ネットワークのイベントのカテゴリ、シビラティ (重大度)、およびタイプを設定したり、インスタンスをバンドルに追加して編集したりすることができるダッシュボードを提供します。
- **[Notifications]** slide-in paneにアクセスします。ここには Cisco DNA Center プラットフォームの最新の通知 (バンドルの更新など) が示されます。[View Details] をクリックすると、**[Bundles]** タブにバンドルに関する詳細データが表示されます。[Dismiss] をクリックするとバンドル通知が消去されます。

# プラットフォーム GUI の確認

この手順を実行すると、Cisco DNA Center プラットフォームの機能と使用可能な機能を確認できます。Cisco DNA Center GUI の [Overview] ウィンドウを使って、これらの機能を確認できます。

図 1: Cisco DNA Center プラットフォームの概要ウィンドウ



**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します: [Platform]>[Overview]の順に選択します。

**ステップ 2** このウィンドウで使用可能なオプションを確認します。

**ステップ 3** Cisco DNA Center プラットフォームの個別の機能に直接アクセスするには、リンクをクリックします。

**ステップ 4** [Notifications] slide-in paneを使って、バンドル更新情報を確認します。

(注) バンドルの更新情報は、バンドルのステータスに関する情報（有効、無効、正常に設定済み、または設定可能）です。



## 第 5 章

# プラットフォーム管理 GUI

---

- [管理について \(15 ページ\)](#)
- [バンドルについて \(16 ページ\)](#)
- [バンドル機能 \(16 ページ\)](#)
- [バンドルの設定：イベントを受信する宛先 \(18 ページ\)](#)
- [バンドルの設定：ServiceNow のアクセス設定 \(21 ページ\)](#)
- [バンドルの設定：ServiceNow の CMDB データ同期 \(25 ページ\)](#)

## 管理について

Cisco DNA Center プラットフォーム GUI には、次の機能にアクセスできる [Manage] ドロップダウンメニュー オプションがあります。

- [Bundles] : Cisco DNA Center を独自のアプリケーションと統合するために使用できる、または Cisco DNA Center 自体のパフォーマンスを高めるために使用できるバンドルにアクセスします。バンドルは、API、イベント、統合フロー、データサービス、またはアプリケーションのグループ分けで構成されます。



---

(注) バンドルのコンポーネントを表示するには、メニューアイコンをクリックして選択 **[Platform] > [Developer Toolkit] > [APIs]** または **[Platform] > [Developer Toolkit] > [Integration Flows]** の順に選択します。

---

- [Configurations] : カスタムプラットフォームエクスペリエンスを実現するために、単一のバンドルまたは複数のバンドルに及ぶグローバル設定を設定できます。

## バンドルについて

Cisco DNA Center プラットフォームは、Cisco DNA Center をユーザー独自のアプリケーションと統合したり、Cisco DNA Center 自体のパフォーマンスを向上させたりするために使用できるバンドルへのアクセスを提供します。

GUI を使用して、Cisco DNA Center プラットフォームの次の情報にアクセスできます。

- バンドル名、ベンダー、バージョン、バージョンリリース日、タグ、および説明
- バンドルのステータス：
  - [NEW] : Cisco DNA Center プラットフォームで利用可能であるものの、まだ有効になっていないバンドル。[Enable] をクリックして、設定とその後のアクティブ化のためにバンドルを有効にしてください。
  - [ENABLE] : 有効になっているものの、まだ設定されていないバンドル。有効になっているバンドルの統合フローと API コードは、[Contents] タブで確認できます。[Configure] をクリックして、バンドルレベルで設定します。  
通常、ビジネスマネージャがビジネス上の意思決定として特定のバンドルを有効にするため、バンドルの有効化と設定は2つの個別の手順になります。バンドルの後続の設定は、通常、IT 管理者またはネットワーク管理者によって行われます。
  - [DISABLED] : バンドルの以後の実行が停止されています。
  - [ACTIVE] : バンドルの確認や設定（バンドル固有値の設定）の後に、[Activate] をクリックしてネットワーク内のバンドルをアクティブ化できます。
  - [UPDATE] : あるバージョンの Cisco DNA Center プラットフォームをより新しいバージョンの Cisco DNA Center プラットフォームにアップグレードする場合。
  - [ERROR] : バンドルに問題があり、ネットワーク内でアクティブ化できません。

## バンドル機能

Cisco DNA Center GUI の [Bundles] ウィンドウを使用して、バンドルの確認、有効化、および設定をすることができます。

図 2: Cisco DNA Center プラットフォーム [Bundles] ウィンドウ

Bundle	Status	Description
<b>A</b> <b>AI Endpoint Analytics</b> Cisco Systems, Inc. v1.2.0   Cisco DNA Center 2.2.3.0+ Version Dated Jan 19, 2023	NEW	API bundle to access various services provided by AI Endpoint Analytics application. AI Endpoint Analytics package must be installed on Cisco DNA Center, before this bundle can be used.
<b>B</b> <b>Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization</b> Cisco Systems, Inc. v1.15.1   Cisco DNA Center 1.2.5+ Version Dated Mar 30, 2023	ENABLED	You can schedule a synchronization or trigger an update between Cisco DNA Center's device inventory and your ITSM(ServiceNow) configuration management database(CMDB). These activities integrate Cisco DNA Center's processes into the IT System Management processes of incident, change or problem management. Note: If your network...

GUI のバンドルにアクセスして、次のタスクを実行します。

- サポートされている Cisco DNA Center API を確認し、試してください。詳細については、[API での作業 \(109 ページ\)](#) を参照してください。
- 有線およびワイヤレスの脅威（不正アクセスポイントを含む）を検出するには、不正管理および Cisco Advanced Wireless Intrusion Prevention System（aWIPS）を有効にします。詳細については、[API での作業 \(109 ページ\)](#) を参照してください。
- ServiceNow のイベントを受信するには、宛先（イベント管理または REST API エンドポイント）を設定します。GUI を使用して宛先を設定する方法については、[バンドルの設定：イベントを受信する宛先 \(18 ページ\)](#) を参照してください。
- Cisco DNA Center から ServiceNow へのアクセス設定（ホスト名、ユーザー名、パスワードなど）を設定します。GUI を使用して ServiceNow へのアクセス設定を設定する方法については、[バンドルの設定：ServiceNow のアクセス設定 \(21 ページ\)](#) を参照してください。
- Cisco DNA Center と ServiceNow の間のデータ同期設定（動作や送信元の識別子を設定するオプションなど）を設定します。GUI を使用してデータ同期を設定する方法については、[バンドルの設定：ServiceNow の CMDB データ同期 \(25 ページ\)](#) を参照してください。

次のバンドルを使用できます。

- [Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization] : Cisco DNA Center のデバイスと ServiceNow CMDB システムの間の同期をトリガーまたはスケジュールします。ServiceNow CMDB は、IT のレコードの 1 つのシステムを提供します。



(注) 統合フローと ServiceNow の例については、「[ServiceNow Integration](#)」を参照してください。

- [Cisco DNA Center REST API]：Cisco DNA Center でサポートされている REST API を含みます。この API は、ネットワークの知識のクエリ、およびネットワークプログラミングを開始するための豊富な機能を提供しています。
- [Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)]：詳細なエンドポイント情報を取得し、1 回または定期的なスケジュールで Cisco DNA Center に公開します。このアクティビティでは、既存の ITSM (ServiceNow) ツールの CI は変更または削除されません。
- [Network Issue Monitor and Enrichment for ITSM (ServiceNow)]：アシュアランスとメンテナンスの問題に対応するためにネットワークを監視する Cisco DNA Center コンポーネントを含み、ServiceNow システムにイベントの詳細を発行します。ネットワークの豊富なコンテキストデータにアクセスする API も含みます。
- [Rogue and aWIPS]：Cisco DNA Center for Rogue Management と aWIPS でサポートされている REST API が含まれています。この API は、有線およびワイヤレスの脅威（不正アクセスポイントを含む）を検出するために使用されます。このバンドルとその API を使用するには、**Rogue および aWIPS** パッケージを Cisco DNA Center にインストールする必要があります。
- [Cisco DNA Center Automation events for ITSM (ServiceNow)]：コンプライアンス、セキュリティ、デバイスのプロビジョニング アクティビティ、またはその他の操作トリガーで、ServiceNow システムのソフトウェアイメージの更新が必要なイベントを監視して発行します。
- [Disaster Recovery API]：ディザスタリカバリでサポートされる REST API が含まれており、ディザスタリカバリシステムをモニターするためのサポートが提供されます。
- [AI Endpoint Analytics]：AI エンドポイント分析アプリケーションによって提供されるさまざまなサービスにアクセスできます。このバンドルを使用するには、**AI Endpoint Analytics** パッケージを Cisco DNA Center にインストールする必要があります。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、GUI に表示されたバンドルを調整することができます。

## バンドルの設定：イベントを受信する宛先

ServiceNow のイベント（ネットワークおよび SWIM）を受信するようにバンドル内の宛先を設定するには、次の手順を実行します。

次のバンドル内で ServiceNow のイベントを受信するように宛先を設定します。

- [Network Issue Monitor and Enrichment for ITSM (ServiceNow)]
- [Cisco DNA Center Automation events for ITSM (ServiceNow)]

### 始める前に

Cisco DNA Center から ServiceNow への統合を設定する場合、より大きなワークフローにおけるこの手順の位置付けを理解するには、最新の『[Cisco DNA Center ITSM Integration Guide](#)』を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform]** > **[Manage]** > **[Bundles]** の順に選択します。

**ステップ 2** **[Network Issue Monitor and Enrichment for ITSM (ServiceNow)]** または **[Cisco DNA Center Automation events for ITSM (ServiceNow)]** バンドルリンクまたはアイコンのいずれかをクリックします。

次の情報が表示されます。

- **[General information]**：四角いアイコンの下に、ベンダー、バージョン、プラットフォーム、タグが表示されます。
  - (注) タグは、どの Cisco DNA Center コンポーネントが使用され、バンドルによって影響を受けるかを示します。
- **[Information]**：一般的な情報（バンドルの目的、ネットワーク内のバンドルのしくみ）、サンプルスキーマ、マッピングメモ、設定メモ、およびバンドルに関するその他のデータを表示するタブです。
- **[Contents]**：バンドル内の統合フローに関する情報にアクセスするタブです。
- **[Release Notes]**：自身のバージョンを含む、バンドルに関する最新のリリース情報を表示するタブです。

**ステップ 3** 前述の各タブをクリックし、バンドルに関する情報を確認します。

**ステップ 4** **[Enable]** をクリックしてバンドルを有効にします。

**ステップ 5** **[Information]** フィールドで、**[Enable]** をクリックして、バンドルの有効化を確認します。

**ステップ 6** 成功メッセージの中の **[Okay]** をクリックします。

**ステップ 7** **[Configure]** をクリックして、バンドルレベルで設定します。

**ステップ 8** 構成 slide-in pane で、**[Destination to receive events]** をクリックし、宛先インスタンスを設定します。

図 3: [Destination to receive events] 設定フィールドの例

(注) REST API エンドポイントでネットワークイベントと Cisco DNA Center 自動化イベントの詳細を受信し、Cisco DNA Center でユーザーが選択した構成に基づいてインシデント、問題、または変更チケットを作成するには、ServiceNow 用の [Destination to receive events] 構成オプションを使用します。ServiceNow を使用してこれを設定する方法の詳細については、『Cisco DNA Center ITSM Integration Guide』を参照してください。

**ステップ 9** ラジオボタンをクリックして、既存の宛先インスタンスを設定するか、または新しいインスタンスを設定します。

既存の宛先インスタンスを設定するには、ウィンドウのドロップダウンリストでインスタンスを選択し、[Activate] をクリックします。

**ステップ 10** 新しい宛先インスタンスを設定するには、次の情報を入力します。

- [Instance Name] : インスタンスの名前。
- [Description] : インスタンスの説明テキスト。
- [Destination to receive events] : 次のいずれかを選択します。
  - [Event Management] : Cisco DNA アプリを使用せずに Cisco DNA Center と ServiceNow の統合を設定する場合は、[Event Management] オプションを選択します。[Event Management] オプション

を選択する場合、ServiceNow インスタンス内でイベント管理プラグインを設定する必要もあります。

- [REST API Endpoint] : [REST API Endpoint] オプションは、Cisco DNA アプリで使用できます。データは、[REST API Endpoint] オプションを使用して Cisco DNA アプリ内の REST API エンドポイントに送信されます。
- [Generic REST Endpoint in ServiceNow] : [Generic REST Endpoint in ServiceNow] オプションの場合、ServiceNow の別のステージングテーブルにデータを送信できます。

Cisco DNA Center と ServiceNow の統合の詳細については、『*Cisco DNA Center ITSM Integration Guide*』を参照してください。

- [Destination URI] : [Generic REST Endpoint in ServiceNow] オプションの宛先 Uniform Resource Identifier (URI) を入力します。このオプションでは、このフィールドは必須です。

この情報を入力して、次のステップに進みます。

**ステップ 11** [Activate] をクリックし、変更を保存してバンドルを有効化するか、[Cancel] をクリックして設定をキャンセルし、slide-in pane を閉じます。

- (注) [Activate] をクリックすると、バンドルに加えた変更が有効になり、変更は直ちに実施されます。さらに、バンドルのステータスは [ENABLED] から [ACTIVE] に変更されます。

### 次のタスク

設定を確認するには、[Manage] > [Configurations] > [General Settings] の順に選択し、[Filter] または [Find] ツールを使用して、この手順で設定された特定の宛先インスタンスを探します。

必要であれば、今後は、[General Settings] ウィンドウで、インスタンスの編集、更新、削除ができるようになります。詳細については、[全般設定の設定 : インスタンスの編集 \(38 ページ\)](#) を参照してください。

## バンドルの設定 : ServiceNow のアクセス設定

バンドル内の ServiceNow のアクセス設定を設定するには、次の手順を実行します。

次のバンドル内で ServiceNow のアクセス設定を設定します。

- [Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)]
- [Network Issue Monitor and Enrichment for ITSM (ServiceNow)]
- [Cisco DNA Center Automation events for ITSM (ServiceNow)]

### 始める前に

Cisco DNA Center から ServiceNow への統合を設定する場合、より大きなワークフローにおけるこの手順の位置付けを理解するには、最新の『[Cisco DNA Center ITSM Integration Guide](#)』を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Platform]** > **[Manage]** > **[Bundles]** の順に選択します。

**ステップ 2** **[Network Issue Monitor and Enrichment for ITSM (ServiceNow)]**、**[Cisco DNA Center Automation events for ITSM (ServiceNow)]**、または **[Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)]** バンドルリンクまたはアイコンをクリックします。

(注) ここでは、例として **[Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)]** を選択しています。

次の情報が表示されます。

- **[General information]** : 四角いアイコンの下に、ベンダー、バージョン、プラットフォーム、タグが表示されます。
  - (注) タグは、どの Cisco DNA Center コンポーネントが使用され、バンドルによって影響を受けるかを示します。
- **[Information]** : 一般的な情報 (バンドルの目的、ネットワーク内のバンドルのしくみ)、サンプルスキーマ、マッピングメモ、設定メモ、およびバンドルに関するその他のデータを表示するタブです。
- **[Contents]** : バンドル内の統合フローに関する情報にアクセスするタブです。
  - (注) **[Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)]** の場合、**[Scheduler for ServiceNow Asset Sync]** へのアクセスが提供されます。
- **[Release Notes]** : 自身のバージョンを含む、バンドルに関する最新のリリース情報を表示するタブです。

**ステップ 3** 前述の各タブをクリックし、バンドルに関する情報を確認します。

**ステップ 4** **[Enable]** をクリックして、リンクを有効化します。

**ステップ 5** **[Information]** フィールドで、**[Enable]** をクリックして、バンドルの有効化を確認します。

**ステップ 6** 成功メッセージの中の **[Okay]** をクリックします。

**ステップ 7** **[Content]** タブをクリックします。

**[Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)]** の場合、**[Scheduler for ServiceNow Asset Sync]** へのリンクが表示されます。リンクをクリックして、次のタスクを実行します。

- **[Description]**、**[Tags]**、**[How to Use this Flow]**、およびスケジューラを確認します。
- **[Run Now]** (スケジューラをすぐに実行する場合)、**[Run Later]** (後で実行するようにスケジュールする場合)、または **[Recurring]** (反復スケジュールを設定する場合) をクリックします。

[Run Later] を選択した場合は、日付、時刻、およびタイムゾーンを選択する必要があります。  
[Recurring] を選択した場合は、繰り返しの頻度（毎日または毎週）、間隔（分または時間）、開始日と終了日を設定する必要があります。

- [Schedule] をクリックしてスケジューラを有効にします。

**重要** 次の手順に従い、バンドル自体の設定が完了した後にのみ、統合フローのスケジュールを設定および有効化します。統合フローのスケジュールを設定して有効にするには、このビューに戻って [Schedule] をクリックするか、**[Platform] > [Developer Toolkit] > [Integration Flows] > [Scheduler for ServiceNow Asset Sync]** の順に選択します。

他のバンドル（[Network Issue Monitor and Enrichment for ITSM (ServiceNow)] と [Cisco DNA Center Automation events for ITSM (ServiceNow)]）には、統合フローへのリンクはありません。統合フローに関する情報のみが表示されます。

- ステップ 8** ウィンドウの右上にある [X] アイコンをクリックして閉じ、前のバンドルウィンドウに戻ります。
- ステップ 9** [Configure] をクリックして、バンドルレベルで設定します。
- ステップ 10** 設定 slide-in pane で、[ServiceNow Access Settings] をクリックして、ServiceNow のインスタンスを設定します。
- ステップ 11** ラジオボタンをクリックして、既存の ServiceNow のインスタンスを設定するか、または新しいインスタンスを設定します。

図 4: ServiceNow インスタンスの設定フィールドの例

Configure Endpoint Attribute Retrieval with ITSM (ServiceNow)

Configure your bundle

This bundle has additional configurations for its Schedule-Based Integration Flows. [View Flows](#)

- Scheduler for ServiceNow Asset Sync - Unscheduled

ServiceNow Access Settings

>> [Back to Select Instance](#)

INFORMATION

Instance Name \*

Description

SERVICENOW ACCESS SETTINGS

Host Name \*

`https://<servicenow-host-name>`

Username \*

`<username-for-servicenow-host>`

Password \*

..... [SHOW](#)

[Hint](#)

[Check connectivity](#)

[Cancel](#) [Activate](#)

既存の ServiceNow のインスタンスを設定するには、ウィンドウのドロップダウンリストでそのインスタンスを選択し、[Activate] をクリックします。

**ステップ 12** 新しい ServiceNow インスタンスを設定するには、次の情報を入力します。

- [Instance Name] : インスタンスの名前。
- [Description] : インスタンスの説明テキスト。
- [Host name] : ServiceNow システムのホスト名。
- [Username] : ServiceNow システムへのアクセスに必要なユーザー名。
- [Password] : ServiceNow システムへのアクセスに必要なパスワード。

**ステップ 13** [Check Connectivity] をクリックして、エンドポイントが設置されたサーバーへの接続が可能かどうかテストします。

サーバーへの接続テストが成功したら、次の手順に進みます。

**ステップ 14** [Activate] をクリックし、変更を保存してバンドルを有効化するか、[Cancel] をクリックして設定をキャンセルし、slide-in pane を閉じます。

- (注) [Activate] をクリックすると、バンドルに加えた変更が有効になり、変更は直ちに実施されます。さらに、バンドルのステータスは [ENABLED] から [ACTIVE] に変更されます。

### 次のタスク

設定を確認するには、[Manage] > [Configurations] > [General Settings] の順に選択します。  
[Filter] または [Find] ツールを使用して、この手順で設定された ServiceNow インスタンスを探します。

必要であれば、今後は、[General Settings] ウィンドウで、インスタンスの編集、更新、削除ができるようになります。詳細については、[全般設定の設定 : インスタンスの編集 \(38 ページ\)](#) を参照してください。

## バンドルの設定 : ServiceNow の CMDB データ同期

バンドル内の Cisco DNA Center と ServiceNow の間のデータ同期設定（動作や送信元の識別子を設定するオプションなど）を設定するには、次の手順を実行します。

**Basic ITSM (ServiceNow) CMDB 同期** バンドル内で、データ同期を設定し、ServiceNow の操作制限と識別子を設定します。

### 始める前に

Cisco DNA Center から ServiceNow への統合を設定する場合、より大きなワークフローにおけるこの手順の位置付けを理解するには、最新の『[Cisco DNA Center ITSM Integration Guide](#)』を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Platform] > [Manage] > [Bundles] の順に選択します。

**ステップ 2** [Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization] バンドルリンクまたはアイコンをクリックします。

次の情報が表示されます。

- [General information] : 四角いアイコンの下に、ベンダー、バージョン、プラットフォーム、タグが表示されます。

(注) タグは、どの Cisco DNA Center コンポーネントが使用され、バンドルによって影響を受けるかを示します。

- [Information] : 一般的な情報（バンドルの目的、ネットワーク内のバンドルのしくみ）、サンプルスキーマ、マッピングメモ、設定メモ、およびバンドルに関するその他のデータを表示するタブです。
- [Contents] : バンドルを構成する統合フローにアクセスするか、バンドルを構成する統合フローに関する情報を提供するタブです。

- [Release Notes] : 自身のバージョンを含む、バンドルに関する最新のリリース情報を表示するタブです。

**ステップ 3** [Information] タブでバンドルデータを確認し、[Contents] タブをクリックします。

**ステップ 4** [Integration Flows] ヘッダーをクリックします。

ヘッダーの下で使用可能な統合フロー（リンク）のリストを確認します。統合フローとその目的の詳細については、[統合フローの使用（112 ページ）](#) を参照してください。

**ステップ 5** [Enable] をクリックして、リンクを有効化します。

**ステップ 6** [Information] フィールドで、[Enable] をクリックして、バンドルの有効化を確認します。

**ステップ 7** 成功メッセージの中の [Okay] をクリックします。

**ステップ 8** 統合フローのリンクをクリックして、下記のタスクを実行します。

- [Description]、[Tags]、[How to Use this Flow]、およびスケジューラを確認します。
- [Run Now]（スケジューラをすぐに実行する場合）、[Run Later]（後で実行するようにスケジュールする場合）、または [Recurring]（反復スケジュールを設定する場合）をクリックします。  
  
[Run Later] を選択した場合は、日付、時刻、およびタイムゾーンを選択する必要があります。  
[Recurring] を選択した場合は、繰り返しの頻度（毎日または毎週）、間隔（分または時間）、開始日と終了日を設定する必要があります。
- [Schedule] をクリックしてスケジューラを有効にします。

**重要** 次の手順に従い、バンドル自体の設定が完了した後にのみ、統合フローのスケジュールを設定および有効化します。統合フローのスケジュールを設定して有効にするには、このビューに戻って [Schedule] をクリックします。または、[Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization slide-in pane] の [View Flows] リンクをクリックします（次の手順を参照）。あるいは、メニューアイコンをクリックして選択 **[Platform]>[Developer Toolkit]>[Integration Flows]>[Schedule to Publish Inventory Details-ServiceNow Connector]** の順に選択します。

**ステップ 9** ウィンドウの右上にある [X] アイコンをクリックして閉じ、前のバンドルウィンドウに戻ります。

**ステップ 10** [Configure] をクリックして、バンドルレベルで設定します。

設定 slide-in pane が表示されます。CMDB 同期情報を確認します。

**ステップ 11** オプションボタンをクリックして、CMDB 同期の ServiceNow アクセス設定（既存または新規）を設定します。

## 図 5 : [ServiceNow Access Settings]

Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization

Configure your bundle

This bundle has additional configurations for its Schedule-Based Integration Flows. [View Flows](#)

- Schedule to Publish Inventory Details - ServiceNow Connector - Unscheduled

ServiceNow Access Settings

This is used to specify the connection settings to a ServiceNow instance

Select an existing instance  Create a new instance

Instance Name \*

Description

Exit Next

既存の設定を設定するには、ウィンドウのドロップダウンメニューで設定を選択し、[Next] をクリックします。

**ステップ 12** 新しいアクセス設定を設定するには、次のインスタンス情報を入力します。

- [Instance Name] : インスタンスの名前。
- [Description] : インスタンスの説明テキスト。

[Next] をクリックします。

**ステップ 13** 新しいアクセス設定を設定するには、次の追加の設定情報を入力します。

## 図 6 : [ServiceNow Access Settings]

Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization

Configure your bundle ×

---

## ServiceNow Access Settings

Host Name \*

Username \*

Password \*

[Check connectivity](#)

---

[Exit](#) [Back](#) [Next](#)

- [Hostname] : ServiceNow サーバーのホスト名または IP アドレス。
- [Username] : ServiceNow サーバーにアクセスするためのユーザー名。
- [Password] : ServiceNow サーバーにアクセスするためのパスワード。

[Check Connectivity] をクリックして、ServiceNow サーバーへのアクセスを確認します。

[Next] をクリックします。

**ステップ 14** オプションボタンをクリックして、CMDB インベントリ設定に対して既存のインスタンスを設定するか、または新しいインスタンスを設定します。

図 7: CMDB インベントリ設定

既存のインスタンスを設定するには、ウィンドウのドロップダウンメニューでインスタンスを選択し、[Configure] をクリックします。

**ステップ 15** 新しいインスタンスを設定するには、次の追加情報を入力します。

- [Instance Name] : インスタンスの名前。
- [Description] : インスタンスの説明テキスト。

[Next] をクリックします。

**ステップ 16** [Select Destination] ウィンドウで、次の情報を入力します。

- [Destination Type] : 次の 2 つの検出ソースオプションから選択できます。
  - [Synchronize device inventory directly with CMDB]
  - [Post device inventory details to a staging table]

(注) ステージングテーブルを使用すると、テーブルから値を取得して ServiceNow CMDB にマッピングできます。

- [Destination URL] : ServiceNow サーバー (CMDB) またはステージングテーブルの Uniform Resource Indicator (URI) 。

図 8 : [Select Destination] ウィンドウ

The screenshot shows a web-based configuration window titled "Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization". Below the title bar, there is a subtitle "Configure your bundle" and a close button (X). The main content area is titled "Select Destination" and contains two input fields: "Destination Type \*" with a dropdown arrow, and "Destination Uri \*" with a placeholder text "Enter a Custom Endpoint". At the bottom of the window, there is an "Exit" button with a back arrow icon, and two buttons labeled "Back" and "Next".

[Next] をクリックします。

**ステップ 17** [Select Inventory Data Fields] ウィンドウで、同期するインベントリ データ フィールドを選択します。

(注) インベントリ データ フィールドは、CMDB または ステージング テーブル に同期される属性 または 参照 として 指定 できる、シスコ が作成 した データ タイプ です。

[Select Inventory Data Fields] ウィンドウの上部のチェックボックスをクリックすると、同期するすべてのインベントリ データ フィールドが選択されます。すべてのインベントリ データ フィールドを同期する場合は、この上部のチェックボックスをクリックします。すべてを同期しない場合は、チェックボックスを1つずつ確認してオンにし、同期するインベントリ データ フィールドの小さなサブセットを作成します。

図 9 : [Select Inventory Data Fields] ウィンドウ

Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization  
Configure your bundle

### Select Inventory Data Fields

<input type="checkbox"/>	Name	Description	Is Attribute / Is Reference	
<input checked="" type="checkbox"/>	Host Name	Hostname of the device	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input checked="" type="checkbox"/>	MAC Address	MAC Address of the Device	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input checked="" type="checkbox"/>	Device Id	Id of the Device	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input checked="" type="checkbox"/>	IP Address	Management IP Address of the device	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input checked="" type="checkbox"/>	Serial Number	Serial Number of the device	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input type="checkbox"/>	Upgrade Failure Reason	Upgrade Failure Reason	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input type="checkbox"/>	CurrentSMU Upgrade Date	CurrentSMU Upgrade Date	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input type="checkbox"/>	CurrentSMU	CurrentSMU	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input type="checkbox"/>	Prior Upgrade Date	Prior Upgrade Date	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference
<input type="checkbox"/>	Code Upgrade Date	Code Upgrade Date	<input checked="" type="radio"/> Attribute	<input type="radio"/> Reference

[Exit](#) [Back](#) [Next](#)

[Select Inventory Data Fields] ウィンドウは、次の列で構成されています。

- [Name] : インベントリ データ フィールドの名前。
- [Description] : インベントリ データ フィールドの簡単な説明。
- [Is Attribute/Is Reference] : インベントリ データ フィールドが属性または参照のどちらであるか。参照データフィールドは、データベース内の2つのテーブル間の関係を作成するために使用されます。属性データフィールドは、データベースのテーブルにデータを追加するために使用されます。

**ステップ 18** 前のステップで同期対象として選択したデータフィールドについて、デフォルトが属性または参照のどちらで設定されているか確認します。

データフィールドのデフォルトの設定を変更するには、目的のデータフィールドの設定 ([Attribute] または [Reference]) をクリックします。

同期するデータフィールドと、データフィールドを属性または参照のどちらにするか選択したら、[Next] をクリックします。

**ステップ 19** [Update Transforms] ウィンドウで、Cisco DNA Center デバイスファミリと ServiceNow CI クラス間の ServiceNow 変換マッピングを受け入れるか、更新します。

図 10: [Update Transforms] ウィンドウ

Device Family	CI Class
Routers	cmdb_ci_ip_router
Switches and Hubs	cmdb_ci_ip_switch

デバイスファミリーは Cisco DNA Center デバイスの分類（ユニファイド AP、ルータ、ワイヤレスコントローラ、スイッチ、ハブなど）であり、ServiceNow へのインベントリ属性/参照マッピングは ServiceNow の既存の Cisco DNA Center アプリケーションですでに使用できます。デバイスファミリーのタイプと数は、ユーザーのネットワーク内のシスコデバイスによって異なります。

(注) Cisco DNA Center プラットフォームは、ユーザーの Cisco DNA Center ネットワーク内のすべてのデバイスファミリーを自動的に取得し、この GUI ウィンドウに表示できます。

CI クラスは ServiceNow のデータベーステーブルです（cmdb\_ci\_wap\_network、cmdb\_ci\_ip\_router、cmdb\_ci\_ip\_switch、x\_caci\_cisco\_dna\_wireless\_lan\_controller など）。上記の GUI ウィンドウの [CI Class] 列は、CI クラスをそれぞれのデバイスファミリーにマッピングするために使用されます。

次の表に、Cisco DNA Center のデフォルトの CI クラスをデバイスファミリーごとに示します。デフォルトの CI クラスは、ユーザーが変更できます。以下にリストされていない他のデバイスファミリーの場合、シスコでは [CI Class] 列にデフォルト値を示しません。ServiceNow アプリケーションユーザーは、対応する CI クラスおよび属性/参照マッピングを手動で作成するか、既存の CI クラスを「親」CI クラスとして使用する必要があります。

表 2: デフォルトのデバイスファミリーから CI クラスへのマッピングリスト

デバイス ファミリー	対応する CI クラス
ユニファイド AP	cmdb_ci_wap_network
ワイヤレスコントローラ	x_caci_cisco_dna_wireless_lan_controller
ルータ	cmdb_ci_ip_router

デバイス ファミリ	対応する CI クラス
スイッチおよびハブ	cmdb_ci_ip_switch
Meraki アクセスポイント	cmdb_ci_wap_network
Meraki カメラ	cmdb_ci_netgear
Meraki ダッシュボード	cmdb_ci_netgear
Meraki MX セキュリティアプライアンス	cmdb_ci_netgear
Meraki スイッチ	cmdb_ci_ip_switch

このウィンドウの情報を受け入れるか、更新したら、[Next] をクリックします。

**ステップ 20** [Set Source Identifier and Operational Limit] ウィンドウで、データソースと最大制限を設定します。

図 11 : [Set Source Identifier and Operational Limit] ウィンドウ

次の値を設定します。

- [Enter Discovery Source] : 以前に選択した値と同じ値を入力するか、デフォルトの [Other Automated] のままにします。
  - [Synchronize device inventory directly with CMDB]
  - [Post device inventory details to a staging table]

(注) [Other Automated] は、OOB ServiceNow インスタンスの検出リソース属性の事前設定値です。これは、ServiceNow CI が検出されたデータソースを示す値です。デフォルトで、シスコは既存の事前設定値の 1 つを統合に使用します。

- [Enter Max Limit] : 反復（単一の API コール）で同期できるデバイスの最大数。

上記の情報を入力したら、[Next] をクリックします。

**ステップ 21** [Summary] ウィンドウで、設定の概要を確認します。

情報を確認した後、[Configure] をクリックします。

設定が正常に完了すると、「**Done!Bundle Configured**」メッセージが表示されます。

---

### 次のタスク

前述のいずれかの方法を使用して、このバンドル ([Schedule to Publish Inventory Details - ServiceNow Connector]) の統合フローを設定します。

設定を確認して、[Manage] > [Configurations] > [General Settings] の順に選択し、[Filter] または [Find] ツールを使用して、この手順で設定されたインスタンスを探します。必要であれば、今後は、[General Settings] ウィンドウで、インスタンスの編集、更新、削除ができるようになります。詳細については、[全般設定の設定 : インスタンスの編集 \(38 ページ\)](#) を参照してください。

次のタスクを実行して、CMDB の同期をテストできます。

- Cisco DNA Center プラットフォームの GUI で、メニューアイコンをクリックして選択 [Platform] > [Runtime Dashboard] > [Event Summary] の順に選択します。GUI ビューをリフレッシュするには、[Refresh] をクリックします。ウィンドウの個々のイベントをクリックして、イベントデータを表示し、ServiceNow へのリンクにアクセスします。
- ServiceNow に移動し、同期されたデバイスを検索します。そのデバイスのレコードの同期されたデータの [Configuration] タブと [Other Attributes] タブを確認します。



## 第 6 章

# コンフィギュレーション

- [設定について \(35 ページ\)](#)
- [イベント設定の構成 \(36 ページ\)](#)
- [全般設定の設定：インスタンスの編集 \(38 ページ\)](#)
- [全般設定の設定：インスタンスの追加 \(40 ページ\)](#)
- [ウェブフックの宛先の設定 \(42 ページ\)](#)
- [電子メールの宛先の設定 \(44 ページ\)](#)
- [Syslog サーバーの宛先の設定 \(46 ページ\)](#)
- [トラップ通知の設定 \(49 ページ\)](#)

## 設定について

Cisco DNA Center プラットフォーム が提供する [Configurations] を使用すると、次のオプションにより、カスタマイズされたネットワーク エクスペリエンスを設定できます。

- **[Event Settings]** : Cisco DNA Center プラットフォームは、ネットワーク内で発生する特定の Cisco DNA アシユアランス イベント (またはインシデント) をサポートします。これは、Cisco DNA Center プラットフォームがこれらのイベントを認識できることを意味します。また、設定により、それらのイベントを Cisco DNA Center がレポートするタイプ、カテゴリ、およびシビラティ (重大度) をカスタマイズできます。この情報を GUI で設定することにより、Cisco DNA Center が ServiceNow などの外部システム (または、多くの場合、ユーザーが設定できる 1 つ以上の REST エンドポイント) に送信する情報をカスタマイズすることもできます。
- **[General Settings]** : 1 つまたは複数のバンドル内の REST および ITSM エンドポイントインスタンスを追加または編集できます。



(注) また、各種の宛先を設定して、Cisco DNA Center プラットフォームからイベントを配信することもできます。ウェブフック、電子メール、syslog、SNMP トラップ、または ITSM 宛先を設定するため、GUI ウィンドウにアクセスするには、左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] の順に選択します。

## イベント設定の構成

ネットワーク内で発生する可能性があるプリセット番号の問題（またはイベント）が、[Configurations] ウィンドウの [Event Settings] にあります。これらのイベントのタイプ、カテゴリ、シビラティ（重大度）、およびワークフローを設定できます。



(注) [Event Settings] ウィンドウの機能は、ITSM (ServiceNow) の統合にのみ適用され、一般的なイベント通知には適用されません。Cisco DNA Center と ServiceNow の間の ITSM 統合を設定する一連のより大きな手順におけるこの手順の使用法のガイダンスについては、『Cisco DNA Center ITSM Integration Guide』を参照してください。このウィンドウの上部のテキストに表示されるリンク ([here]) をクリックすると、プラットフォームの [Events] ウィンドウにアクセスし、イベントを登録して電子メール、ウェブフック (REST API)、SNMP トラップ、または Syslog サーバーで通知を受け取ることができます。

図 12: [Event Settings] ウィンドウ

Event Name	Domain	Type	Category	Severity	Workflow	Actions
Access Contract (SGACL) access policy installation failed on the device	Know Your Network	NETWORK	ERROR	2	Incident	Edit
Add device failed	Site Management	NETWORK	TASK_FAILURE	3	Incident	Edit
Add device successful	Site Management	NETWORK	TASK_COMPLETE	4	Incident	Edit

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Manage] > [Configurations] > [Event Settings] の順に選択します。

ステップ 2 表示される [Event Settings] テーブルを確認します。

次の [Event Settings] 情報が表示されます。

- [Event Name] : Cisco DNA Center イベントの名前。
- [Domain] : Cisco DNA Center イベントのドメイン。
- [Type] : イベントのネットワーク、アプリ、システム、セキュリティ、または統合のタイプ。
- [Category] : エラー、警告、情報、アラート、タスクの進捗状況、タスクの完了。
- [Severity] : 1 ~ 5。

(注) シビラティ (重大度) 1 が最も優先順位が高く、最も重要または重大なイベントに割り当てます。

- [Workflow] : インシデント、問題、イベント、または RFC。
- [Actions] : 編集。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、テーブルに表示される内容を調整することができます。たとえば、すべてのアクセスポイントの通知を表示するには、[Find] フィールドに「AP」と入力します。すべてのネットワーク通知を表示するには、[Find] フィールドに「Network」と入力します。シビラティ (重大度) 1 のすべての通知を表示するには、[Find] フィールドに「1」と入力します。

その通知をネットワークの標準の表記法に合わせてカスタマイズするように、イベントを編集できます。

**ステップ 3** [Actions] カラムの [Edit] をクリックして、イベントを編集します。

下向き矢印をクリックして設定を選択し、値を調整します。たとえば、[Network] をクリックして、[App] に調整します。これにより、イベントタイプはネットワークタイプからアプリケーションタイプに変更されます。[Severity] をクリックし、「5」から「1」に調整します。これにより、シビラティ (重大度) レベルが 5 から 1 に上がります。

**ステップ 4** イベント名の横にあるボックスをクリックして、通知を有効にします。

これにより、将来イベントが発生した場合、Cisco DNA Center により通知が有効になります。

**ステップ 5** [Save] をクリックして設定を保存します。

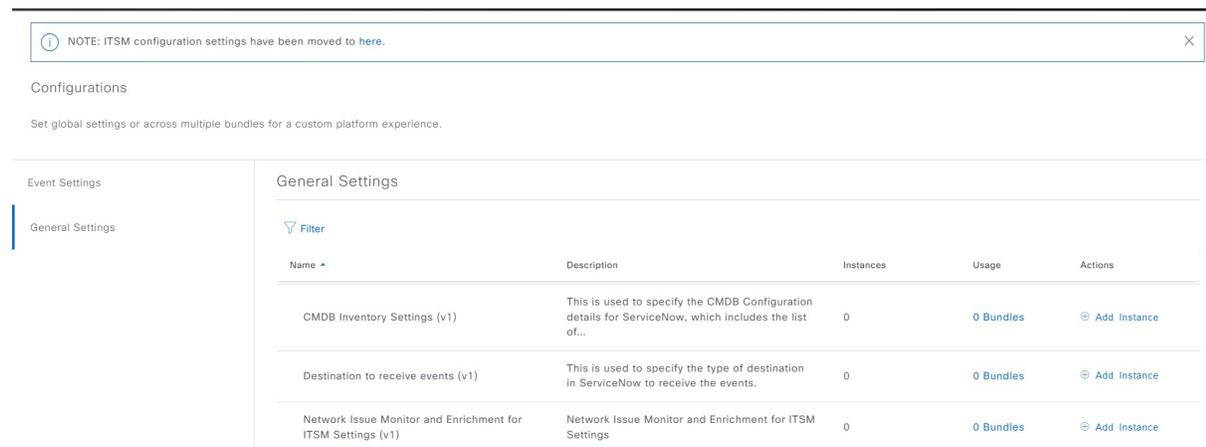
### 次のタスク

- 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Platform] > [Runtime Dashboard] の順に選択します。  
[Events Summary] フィールドにイベントの通知が表示されます。
- [View Details] をクリックして通知を表示します。

# 全般設定の設定：インスタンスの編集

[Configurations] を使用して、1つまたは複数のバンドル内のインスタンスを編集できます。

図 13: Cisco DNA Center プラットフォーム [Configurations] ウィンドウ



## 始める前に

[Bundles] でネットワークのバンドルを有効化、設定、アクティベートします。[Bundles] の詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Manage] > [Configurations] > [General Settings] の順に選択します。

**ステップ 2** 表示される [General Settings] テーブルを確認します。

次の [General Settings] 情報が表示されます。

- [Name]：インスタンスの名前とバージョン。
- [Description]：インスタンスに含まれる設定の説明。
- [Instances]：現在設定されているインスタンスの数。
- [Usage]：1つまたは複数のインスタンスが使用されるバンドルの数。
- [Actions]：設定で実行可能な特定のタスク（設定のためのインスタンスの編集または追加など）。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、テーブルに表示される内容を調整することができます。

**ステップ 3** 表示されたいずれかのインスタンスの矢印をクリックします。たとえば、[CMDB Synchronization Settings (v1)] または [Destination to Receive Events (v1)] の矢印をクリックします。

設定のインスタンスの一覧が表示されます。

**ステップ 4** [Usage] 列で、[Bundles] の上にマウス ポインタを重ねます。

Cisco DNA Center には、指定されたインスタンスを使用するバンドルが表示されます。

**ステップ 5** [Actions] カラムの [Edit] アイコン（「パッドとペン」アイコン）をクリックし、既存のインスタンスを編集します。

以降の手順で、要件に合わせて適切なインスタンスを編集します。

**ステップ 6** （オプション） [CMDB Synchronization Settings] インスタンスの CMDB の同期の詳細を編集するには、**[Edit] > [Actions]** の順にクリックし、表示される slide-in pane で、次のインスタンスフィールドの 1 つまたは複数を選択します。

- [ServiceNow Access Settings]：ドロップダウンメニューからインスタンスを選択します。
- [CMDB Inventory Settings]：[Instance Name] と [Description] に入力します。
- [Select Destination]：[Destination Type] と [Destination URI] に入力します。オプションには、[Synchronize device inventory directly with CMDB] または [Post device inventory details to staging table] があります。
- [Select Inventory Data Fields]：同期するインベントリ データフィールドを選択し、データフィールドが属性であるか参照であるかを選択します。
- [Update Transforms]：デバイスファミリーに対して CI クラスを承認または更新します。
- [Set Source Identifier and Operational Limit]：検索ソースと上限を設定します。
- [Summary]：構成を確認し、変更を加えてから保存します。

**ステップ 7** （オプション） [Destination to receive events] インスタンスを編集するには、**[Edit] > [Actions]** の順に選択し、slide-in pane で、次のフィールドの 1 つまたは複数を選択します。

- [Instance Name]：インスタンスの名前。
- [Description]：インスタンスの説明。
- [Destination to Receive Events]：次のいずれかを選択します。
  - [Event Management]：Cisco DNA アプリを使用せずに Cisco DNA Center と ServiceNow の統合を設定する場合は、[Event Management] オプションを選択します。[Event Management] オプションを選択する場合は、ServiceNow インスタンス内でイベント管理プラグインを設定する必要もあります。
  - [REST API Endpoint]：[REST API Endpoint] オプションは、Cisco DNA アプリで使用できます。データは、[REST API Endpoint] オプションを使用して Cisco DNA アプリ内の REST API エンドポイントに送信されます。
  - [Generic REST Endpoint in ServiceNow]：[Generic REST Endpoint in ServiceNow] オプションの場合、ServiceNow の別のステージングテーブルにデータを送信できます。
- [Destination URI]：[Generic REST Endpoint in ServiceNow] オプションの宛先 URI を入力します。このオプションでは、このフィールドは必須です。

Cisco DNA Center と ServiceNow の統合の詳細については、このリリースの『*Cisco DNA Center ITSM Integration Guide*』を参照してください。

- ステップ 8** [Update] をクリックして編集したものをインスタンスに保存します。  
 インスタンスへの編集は即座に実行されます。

## 全般設定の設定：インスタンスの追加

[Configurations] を使用して、1 つまたは複数のバンドル内にインスタンスを追加できます。

### 始める前に

[Bundles] でネットワークのバンドルを有効化、設定、アクティベートします。[Bundles] の詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Manage] > [Configurations] > [General Settings] の順に選択します。

- ステップ 2** 表示される [General Settings] テーブルを確認します。

次の [General Settings] 情報が表示されます。

- [Name]：インスタンスの名前とバージョン。
- [Description]：インスタンスに含まれる設定の説明。
- [Instances]：設定のインスタンスの数。
- [Usage]：1 つまたは複数のインスタンスが使用されるバンドルの数。
- [Actions]：設定で実行可能な特定のタスク（設定のためのインスタンスの編集または追加など）。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、テーブルに表示される内容を調整することができます。

- ステップ 3** 表示されたいずれかのインスタンスの矢印をクリックします。たとえば、[CMDB Synchronization Settings (v1)] または [Destination to Receive Events (v1)] の矢印をクリックします。

設定のインスタンスの一覧が表示されます。

- ステップ 4** [Usage] 列で、[Bundles] の上にマウス ポインタを重ねます。

Cisco DNA Center には、指定されたインスタンスを使用するバンドルが表示されます。

- ステップ 5** インスタンスを追加するには、[Actions] 列の [Add Instances] リンクをクリックします。

以降の手順で、要件に合わせて適切なインスタンスを追加します。

**ステップ 6** (オプション) [CMDB Synchronization Settings] インスタンスを追加するには、[Actions] 列で [Add Instance] をクリックし、表示される slide-in pane で次のインスタンスフィールドに入力します。

- [ServiceNow Access Settings] : ドロップダウンメニューからインスタンスを選択します。
- [CMDB Inventory Settings] : [Instance Name] と [Description] に入力します。
- [Select Destination] : [Destination Type] と [Destination URI] に入力します。オプションには、[Synchronize device inventory directly with CMDB] または [Post device inventory details to staging table] があります。
- [Select Inventory Data Fields] : 同期するインベントリ データ フィールドを選択し、データフィールドが属性であるか参照であるかを選択します。
- [Update Transforms] : デバイスファミリに対して CI クラスを承認または更新します。
- [Set Source Identifier and Operational Limit] : 検索ソースと上限を設定します。
- [Summary] : 構成を確認し、変更を加えてから保存します。

**ステップ 7** (オプション) [Destination to receive events] インスタンスを追加するには、[Actions] 列で [Add Instance] をクリックし、slide-in pane で次のインスタンスフィールドに入力します。

- [Instance Name] : インスタンスの名前。
- [Description] : インスタンスの説明。
- [Destination to Receive Events] : 次のいずれかを選択します。
  - [Event Management] : Cisco DNA アプリを使用せずに Cisco DNA Center と ServiceNow の統合を設定する場合は、[Event Management] オプションを選択します。[Event Management] オプションを選択する場合、ServiceNow インスタンス内でイベント管理プラグインを設定する必要もあります。
  - [REST API Endpoint] : [REST API Endpoint] オプションは、Cisco DNA アプリで使用できます。データは、[REST API Endpoint] オプションを使用して Cisco DNA アプリ内の REST API エンドポイントに送信されます。
  - [Generic REST Endpoint in ServiceNow] : [Generic REST Endpoint in ServiceNow] オプションの場合、ServiceNow の別のステージングテーブルにデータを送信できます。
- [Destination URI] : [Generic REST Endpoint in ServiceNow] オプションの宛先 URI を入力します。このオプションでは、このフィールドは必須です。

Cisco DNA Center と ServiceNow の統合の詳細については、このリリースの『*Cisco DNA Center ITSM Integration Guide*』を参照してください。

**ステップ 8** [Add] をクリックしてインスタンスの追加を保存します。

インスタンスへの追加は即座に実行されます。

# ウェブフックの宛先の設定

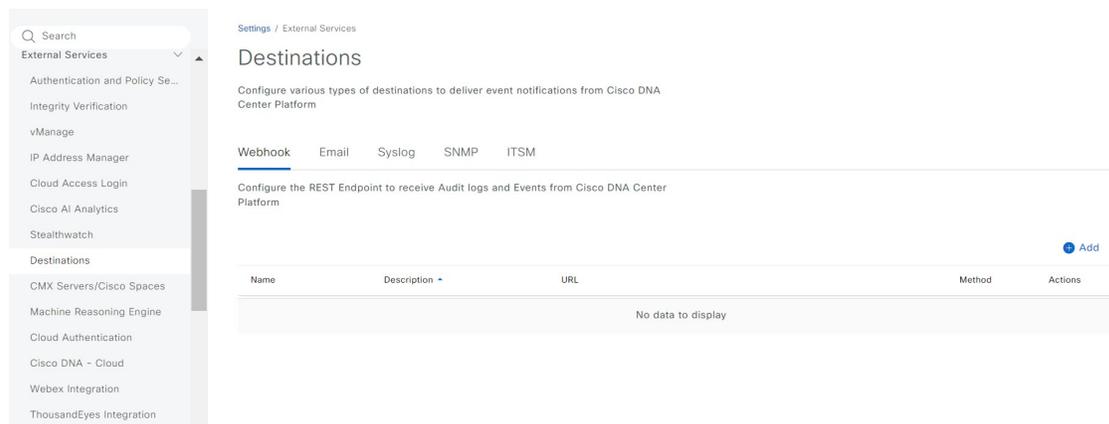
Cisco DNA Center では、イベントとレポートの両方の宛先としてウェブフックをサポートしています。

イベントまたはレポートのウェブフックの宛先を設定するには、Cisco DNA Center の GUI を使用して次の手順を実行します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System]>[Settings]>[External Services]>[Destination]>[Webhook] の順に選択します。

**ステップ 2** [Webhook] タブを確認します。

図 14: [Webhook] タブ



次のフィールドが表示されます。

- [Name] : ウェブフックの名前。
- [Description] : ウェブフックの説明（ユーザーが指定）。
- [URL] : ウェブフックの URL（コールバック URL）。
- [Method] : ウェブフックの REST API メソッド（POST）。
- [Edit] : 設定済みのウェブフックを編集するためのフィールドを開くリンク。ウェブフック設定を編集したら、[Update] をクリックして変更を保存します。

このリリースでは、[URL] に IPv6 値を設定できます。

**ステップ 3** [Add] をクリックしてウェブフックを設定します。

[Add Webhook] スライドインペインが表示されます。

**ステップ 4** [Add Webhook] スライドインペインのフィールドに値を入力してウェブフックを設定します。

図 15: [Add Webhook]

- [Name] : ウェブフックの名前。
- [Description] : ウェブフックの説明。
- [URL] : ウェブフックの URL アドレス (コールバック URL) 。

**ステップ 5** ウェブフックの構成に応じて、ウェブフックの URL に信頼できる証明書が関連付けられているかどうかを選択します。

[Trust Certificate] オプションボタンで、[Yes] または [No] をクリックします。

**ステップ 6** ウェブフックの構成に応じて、ウェブフックの URL に関連付けられている認証タイプを選択します。

[Authentication] オプションボタンで、次のいずれかを選択します。

- [Basic] : クライアントが HTTP 要求を送信することで認証を行います。クライアントは、「**Basic**」という単語の後にスペースで区切って「*username:password*」の形式の base64 でエンコードされた文字列を入力した認証ヘッダーを含む HTTP 要求を送信します。GUI で [Basic] を選択すると、[Header Key] フィールドに「Authorization」という値が自動的に入力されます。

- [Token] : サーバーから提供されたセキュリティトークンを使用してユーザーが認証されます。[Token] を選択すると、下の [Header Key] フィールドに [X-Auth-Token] の値が入力されます。
- [No Authentication] : 認証が不要になります。

ステップ 7 [Headers] で、[Header Name] と [Header Value] の値を入力します。

[Add] をクリックして、ヘッダーの名前と値を追加します。

(注) 選択する認証のタイプに応じて、ヘッダー名とヘッダー値が自動的に入力されます。

ステップ 8 [Save] をクリックして、ウェブフックの宛先の設定を保存します。

### 次のタスク

イベントまたはレポートのウェブフックの宛先を設定します。ウェブフックの宛先を使用してイベントまたはレポートを設定する手順については、[イベント通知の使用 \(114 ページ\)](#) および [最初のレポートの実行 \(54 ページ\)](#) を参照してください。

## 電子メールの宛先の設定

Cisco DNA Center では、イベントとレポートの両方の電子メール通知をサポートしています。

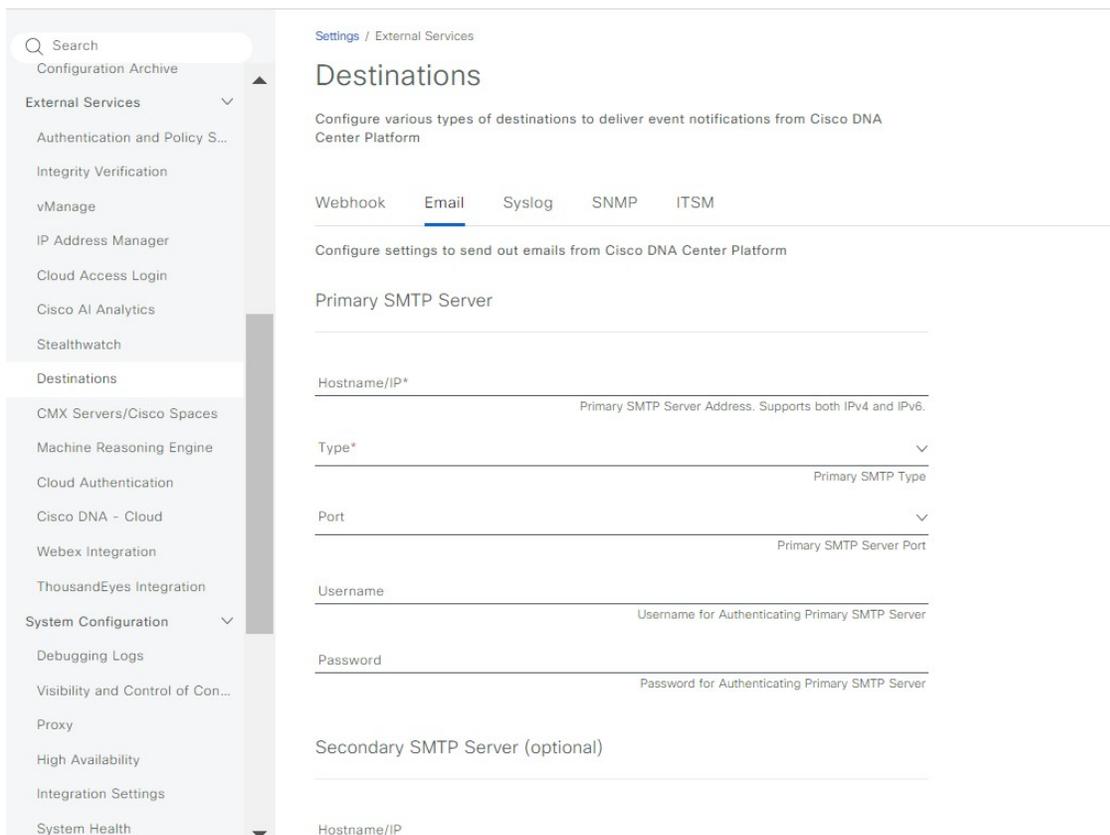


- (注) 電子メールに正しい Cisco DNA Center ハイパーリンクを含めるには、[Integration Settings] ウィンドウで Cisco DNA Center の IP アドレスまたはホスト名を入力します。GUI を使用してこの情報を入力するには、メニューアイコンをクリックして選択 **[System] > [Settings] > [System Configuration] > [Integration Settings]** の順に選択します。詳細については、[統合設定の設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

この手順で説明するタスクを実行するには、適切な権限が必要になります。Cisco DNA Center プラットフォームのロールベース アクセス コントロールについては、[プラットフォーム向けロールベース アクセス コントロールのサポート \(10 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco DNA Center GUI を使用してイベントまたはレポートの電子メールの宛先を設定するには、次の手順を実行します。

図 16 : [Email] タブ



**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[System]** > **[Settings]** > **[External Services]** > **[Destinations]** > **[Email]** の順に選択します。

**ステップ 2** 必須の [Primary SMTP Server] フィールドを設定します。

- [Hostname/IP] : プライマリ SMTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
- [Type] : ドロップダウンリストからプロトコルタイプを選択します。
- [Port] : ドロップダウンリストからサーバーのポート番号を選択します。  
(注) デフォルトのポート番号は 25 です。
- [Username] : プライマリ SMTP サーバーを認証するためのユーザー名を入力します。
- [Password] : プライマリ SMTP サーバーを認証するためのパスワードを入力します。

**ステップ 3** オプションの [Secondary SMTP Server] フィールドを設定します。

- [Hostname/IP] : セカンダリ SMTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
- [Type] : ドロップダウンリストからプロトコルタイプを選択します。
- [Port] : ドロップダウンリストからサーバーのポート番号を選択します。

(注) デフォルトのポート番号は 25 です。

- [Username] : セカンダリ SMTP サーバーを認証するためのユーザー名を入力します。
- [Password] : セカンダリ SMTP サーバーを認証するためのパスワードを入力します。

ステップ 4 [Senders and Receivers] でテスト電子メールのフィールドを設定します。

- [From] : テスト電子メールの送信者。
- [To] : テスト電子メールの受信者。
- [Subject] : テスト電子メールの件名行のテキスト (最大 200 文字) を入力します。

ステップ 5 この電子メール構成をテストするには、[Test] をクリックします。

[Test] をクリックすると、設定したパラメータを使用してテスト電子メールが送信されます (プライマリおよびセカンダリの両方の SMTP サーバーの構成について、「Cisco DNA Center SMTP configuration test email」という件名で送信されます)。テスト電子メールの接続結果に基づいて、成功 (設定の確認) または失敗のメッセージが表示されます。

ステップ 6 構成を保存するには、[Save] をクリックします。

構成をキャンセルするには、[Cancel] をクリックします。

### 次のタスク

イベントまたはレポートの電子メールの宛先を設定します。詳細については、[イベント通知の使用 \(114 ページ\)](#) および[最初のレポートの実行 \(54 ページ\)](#) を参照してください。

## Syslog サーバーの宛先の設定

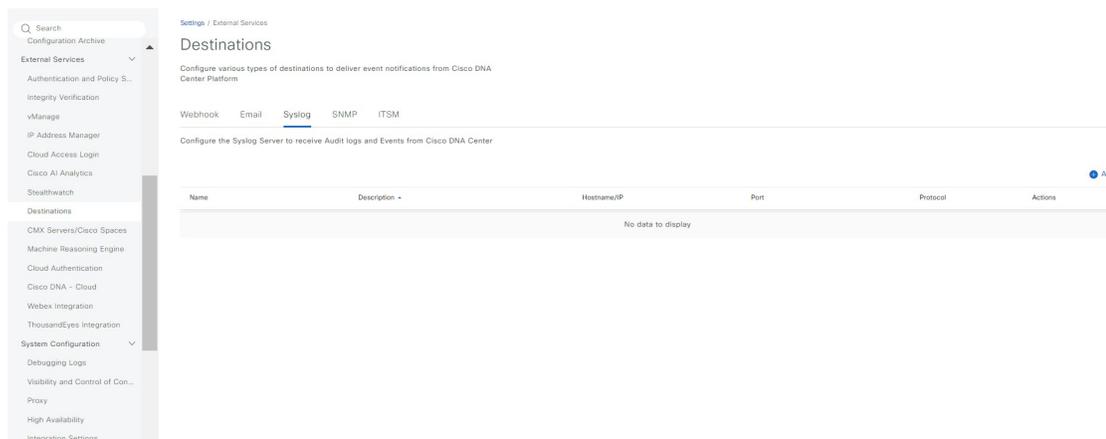
Cisco DNA Center は、イベント通知に関して Syslog サーバーの宛先をサポートしています。

Cisco DNA Center の GUI を使用してイベント通知に関する Syslog サーバーの宛先を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [System] > [Settings] > [External Services] > [Destination] > [Syslog] の順に選択します。 > > >

ステップ 2 [Syslog] タブを確認します。

図 17: [Syslog] タブ



次のフィールドが表示されます。

- [Name] : Syslog サーバーの名前。
- [Description] : Syslog サーバーの説明。
- [Hostname/IP] : Syslog サーバーのホスト名または IP アドレス。
- [Port] : Syslog サーバーのポート番号。
- [Protocol] : TCP または UDP プロトコル。

**ステップ 3** Syslog サーバーを設定するには、[Addition] アイコン (+) をクリックします。

図 18: Syslog サーバーの設定

## Add Syslog Configuration ×

---

Name\*

---

Description\*

---

Hostname/IP Address\*

---

Port\*

514

---

Protocol\* ▼

---

Validate
Save

- ステップ 4 [Name] フィールドに、Syslog サーバーの名前を入力します。
- ステップ 5 [Description] フィールドに、Syslog サーバーの簡単な説明を入力します。
- ステップ 6 [Hostname/IP Address] フィールドに、ホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7 [Port] フィールドに、ポート番号を入力します。
- ステップ 8 [Protocol] フィールドで、ドロップダウンリストからプロトコルを選択します。
- ステップ 9 (任意) 構成をテストするには、[Validate] をクリックします。  
(注) 設定がテストに合格した場合は、検証メッセージが表示されます。
- ステップ 10 Syslog サーバーの宛先の構成を保存するには、[Save] をクリックします。  
構成をキャンセルするには、[Cancel] をクリックします。

### 次のタスク

イベント通知に関する Syslog サーバーの宛先を設定します。詳細については、[イベント通知の使用 \(114 ページ\)](#) を参照してください。

## トラップ通知の設定

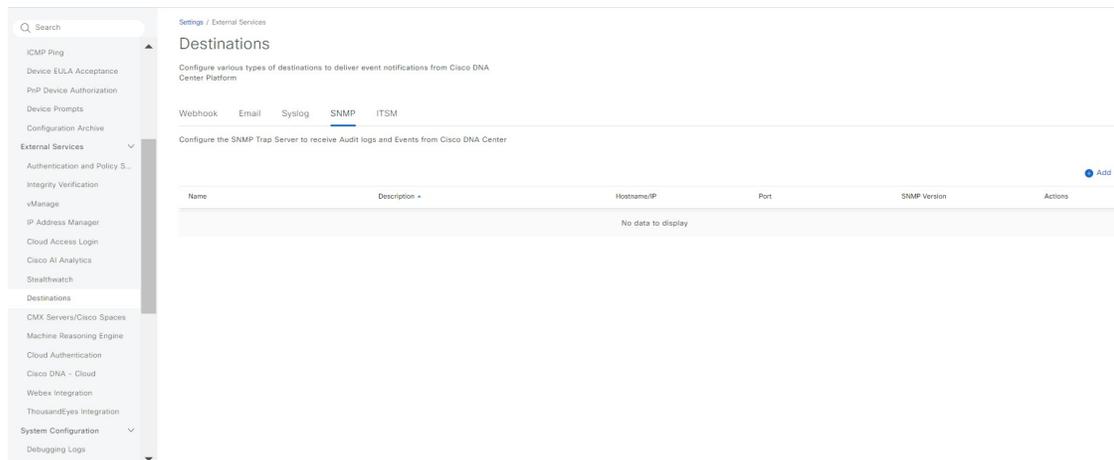
Cisco DNA Center は、SNMP トラップイベント通知をサポートしています。

Cisco DNA Center GUI を使用して SNMP トラップイベント通知を設定するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[System]** > **[Settings]** > **[External Services]** > **[Destination]** > **[SNMP]** の順に選択します。

**ステップ 2** **[SNMP]** ウィンドウを確認します。

図 19: **[SNMP]** タブ



**ステップ 3** **[Add]** をクリックしてトラップを設定します。

図 20: トラップ設定の追加

ステップ 4 slide-in pane の次のフィールドを設定します。

- [Name] : イベントの名前。
- [Description] : イベントに関する単語またはフレーズ。
- [Hostname/IP Address] : SNMP トラップレシーバ (サーバー) のホスト名または IP アドレスを入力します。  
[Hostname/IP address] に IPv6 値を設定できます。
- [Port] : SNMP トラップレシーバ (サーバー) のポート番号を入力します。
- [SNMP Version] : ドロップダウンリストから、SNMP バージョンを選択します。
  - [SNMP V2C] : SNMP バージョン 2C の場合は、コミュニティストリングを入力します。

- [SNMP V3] : SNMP バージョン 3 の場合は、次の追加情報を入力します。
  - ユーザー名
  - [Mode] : ドロップダウンリストからモードを選択します。
    - [No Authentication, No Privacy] を選択した場合は、それ以上の設定は必要ありません。
    - [Authentication, No Privacy] の場合は、[Authentication Type] (SHA または MD5) 、 [Authentication Password]、 [Confirm Authentication Password] を設定します。
    - [Authentication and Privacy] の場合は、[Authentication Type] (SHA または MD5) 、 [Authentication Password]、 [Confirm Authentication Password] を設定します。さらに、[Privacy Type] (AES128、DES) 、 [Privacy Password]、および [Confirm Privacy Password] を設定します。

**ステップ 5** [Save] をクリックします。

#### 次のタスク

[Event Notifications] ウィンドウにアクセスして、1 つ以上のイベントを選択し、設定された SNMP トラップの宛先に登録します。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Platform] > [Developer Toolkit] > [Event Notifications]** の順に選択します。SNMP トラップの宛先へのサブスクリプションをサポートするイベント (SYSTEM タイプのイベント) を選択し、登録します。





## 第 7 章

# レポート

- レポートの概要 (53 ページ)
- 最初のレポートの実行 (54 ページ)
- アクセスポイントレポートの実行 (57 ページ)
- クライアントレポートの実行 (64 ページ)
- コンプライアンスレポートの実行 (68 ページ)
- 設定アーカイブレポートの実行 (71 ページ)
- サポート終了レポートの実行 (73 ページ)
- エグゼクティブサマリーレポートの実行 (76 ページ)
- インベントリレポートの実行 (80 ページ)
- ライセンスレポートの実行 (83 ページ)
- ネットワークデバイスレポートの実行 (86 ページ)
- 不正および aWIPS レポートの実行 (89 ページ)
- ROI レポートの実行 (93 ページ)
- セキュリティアドバイザリレポートの実行 (94 ページ)
- SWIM レポートの実行 (98 ページ)
- フレキシブルレポートの生成 (101 ページ)
- 生成されたレポートの表示 (105 ページ)

## レポートの概要

レポート機能のデータを使用すると、ネットワークとその動作に関する洞察を得ることができます。データが複数の形式でレポートされることと、柔軟なスケジューリングおよび設定オプションが提供されることにより、データとレポートの両方を運用上のニーズに合わせて容易にカスタマイズできます。

[Reports] 機能は、次の使用例をサポートしています。

- キャパシティプランニング：アプリケーションがネットワーク内のデバイスをどのように利用しているのかを理解できます。

- パターンの変更：ネットワークでの使用パターンの傾向の変化を追跡します。使用パターンの傾向には、クライアント、デバイス、バンド、またはアプリケーションが含まれます。
- 運用レポート：アップグレード完了やプロビジョニング障害などのネットワーク運用に関するレポートを確認できます。
- ネットワークの正常性：レポートによってネットワークの全体的な正常性を判断できます。

## 最初のレポートの実行

ネットワークについての専門的なデータレポートの実行を開始するには、この手順を実行します。

### 始める前に

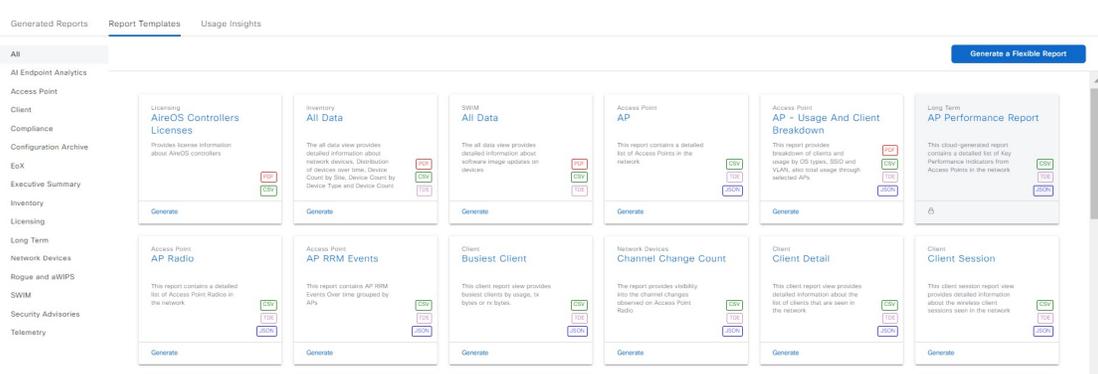
正常なディスクバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスクバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** [Reports]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：。

**ステップ 2** [Run Your First Report] ウィンドウで、[Start] をクリックします。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

図 21: [Report Templates] ウィンドウ



(注) 使用可能なオプションは、選択したレポートのタイプによって異なります。

**ステップ 3** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

各タイルはテンプレートを表し、それらのタイルにはレポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプ（PDF、CSV、TDE、JSON）が各タイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 4** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

そのサンプルレポートの [Preview] ウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、次のデータを示すサンプルレポート全体を確認します。

- 適用されたフィルタ（レポートの構築で使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。
- データのグラフィカル表示（回線、バー、円グラフを含む）。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 5** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 6** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで [Generate] リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 7** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックしてウィザードを開始します。

または、メニューアイコンをクリックして選択 [Workflows] > [Generating a New Report] を選択して、新しいレポートを生成するためのウィザードを起動します。

**ステップ 8** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

[Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を入力して範囲を選択します。

[Report Name] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックします。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template Group] に応じて変わります。

[Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

作成しているレポートに応じて、次の [File Type] オプションを使用できます。

- PDF
- CSV

- **Tableau Data Extract**
- **JSON**

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションを使用して、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性を選択します。

**ステップ 11** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。次に、[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートをリンクまたは添付ファイルとして受信します。  
(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。

- [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

- [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
- インポートプロセスは進行中です。
- レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト（[Subscription Profile] フィールド）からウェブフックを選択します。

(注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUIの[Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

ウェブフック通知の形式でレポートのステータス（「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」など）が届きます。これらの通知は、GUIで表示することもできます。

**ステップ 13** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 14** [View all Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

---

## アクセスポイントレポートの実行

ネットワークについてのアクセスポイントレポートを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

正常なディスカバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

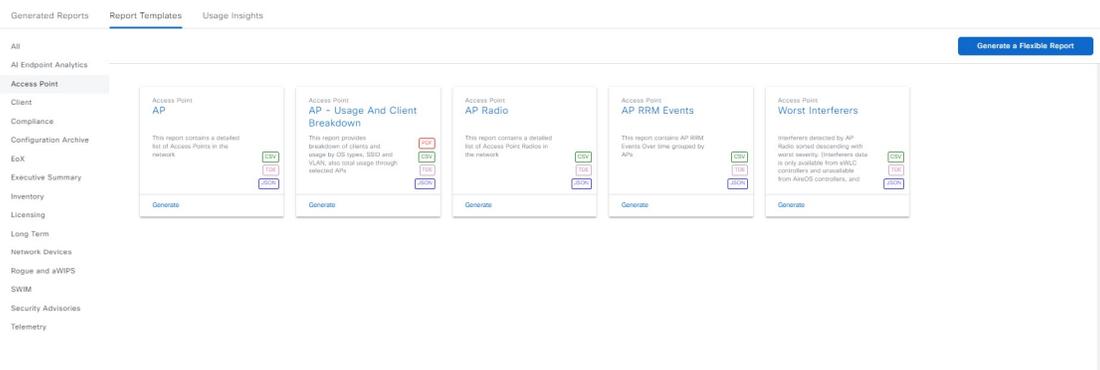
---

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports] > [Report Templates] の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウが開き、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 22: アクセスポイントレポート



[Report Templates] ウィンドウでは、各テンプレートはタイルで表され、レポートに関する情報とレポートを設定（生成）するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。アクセスポイントレポートでは、[AP]、[APRadio]、または[APRRM Events] レポートを作成できます。

(注) このリリース以降、[AP パフォーマンス] レポートは、[アクセスポイント] レポートから [長期] レポートに移動しました。

[長期] レポートを有効にするには、AI Network Analytics を有効にする必要があります。AI Network Analytics の有効化の詳細については、『Cisco DNA Center Administrator Guide』の「Configure Cisco AI Network Analytics」のトピックを参照してください。

アクセスポイントレポートの場合、サポートされるファイルタイプは CSV、TDE、および JSON です。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

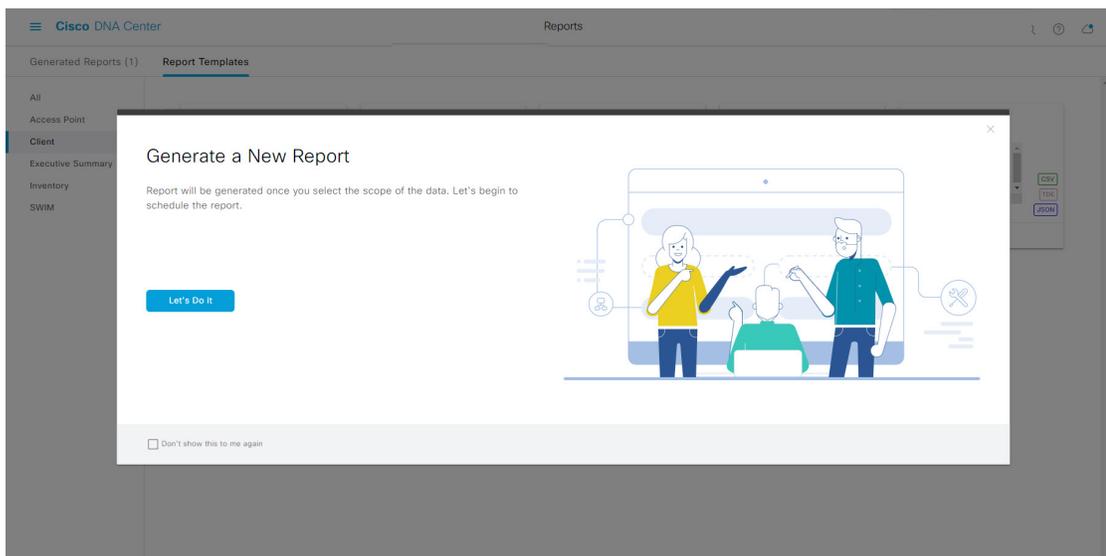
**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで [Generate] リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウが開きます。このウィンドウで、レポートのフォーマットタイプの選択やデータのフィルタの適用のほか、実際のレポート生成スケジュールの設定が可能です。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックして生成を開始します。

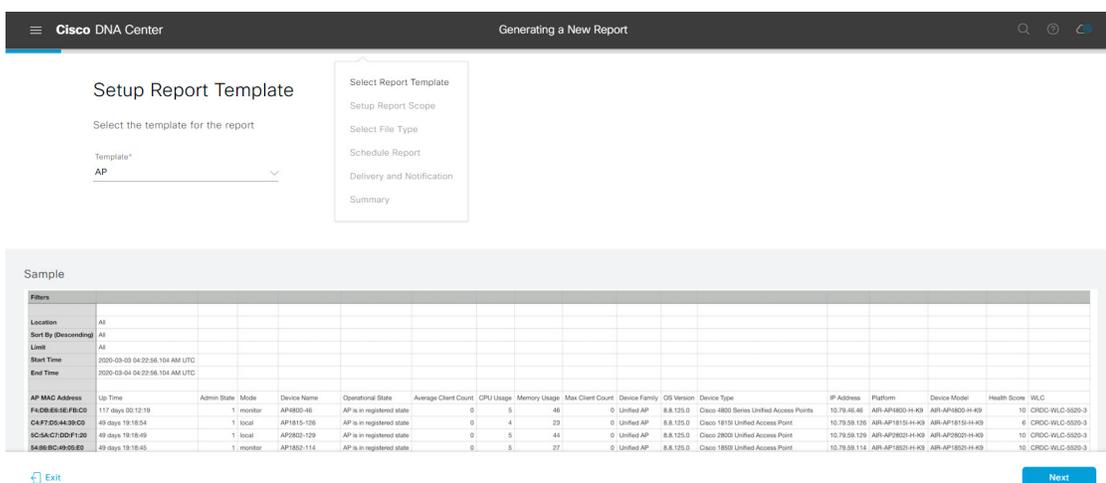
今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

図 23: [Generate a New Report]



- ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、[Template] ドロップダウンリストからテンプレートを選択します。
- (注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。
- 同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

図 24: [Setup Report Template]



- ステップ 8** [Next] をクリックします。
- [Setup Report Scope] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲を選択します。
- [ReportName] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックします。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。

図 25 : [Setup Report Scope]

**ステップ 10** [Next] をクリックします。

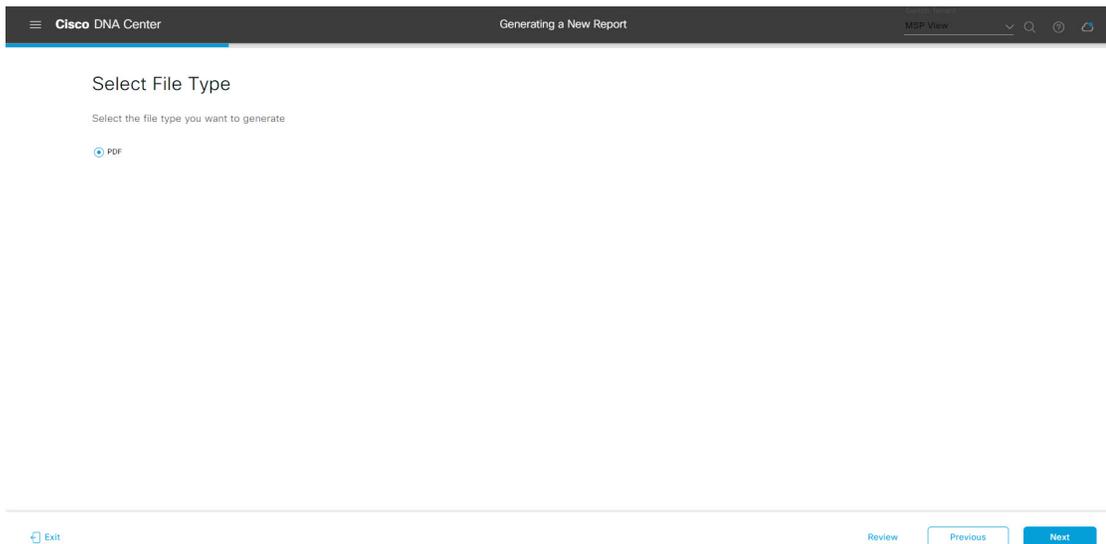
**ステップ 11** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- **PDF**
- **CSV**
- **Tableau Data Extract**
- **JSON**

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションが表示され、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

## 図 26: [Select File Type]



ステップ 12 [Next] をクリックします。

ステップ 13 [Schedule Report] ウィンドウで、レポートの時間範囲とスケジュールを選択します。

[Time Range] のオプションは次のとおりです。

- Last 3 hours
- Last 24 hours
- Last 7 days
- Custom

(注) [Custom] をクリックすると、特定のレポートタイプごとに期間の日時と時間範囲のタイムゾーン (GMT) を選択できるフィールドが表示されます。

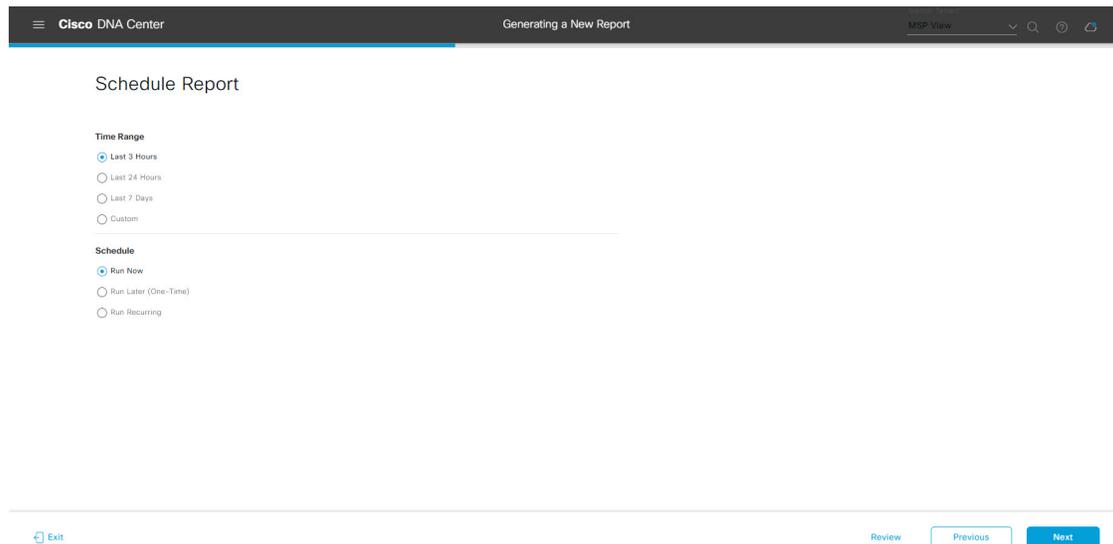
レポートのスケジュール設定では、次の [Schedule] オプションを使用できます。

- Run Now
- Run Later (One-Time)
- Run Recurring

Cisco DNA Center では、次の [Schedule] オプションの設定時にレポートのタイムゾーンを選択することもできます。

- Custom
- Run Later (One Time)
- Run Recurring

図 27: レポートのスケジュール



**ステップ 14** [Next] をクリックします。

**ステップ 15** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] タブの順にクリックします。

- [As a Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ページへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

- [As an Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。

- インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- **[Webhook Notification]** : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト ([Subscription Profile] フィールド) からウェブフックを選択します。
- (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUIの**[Webhook]** タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、**[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook]** タブの順にクリックします。

Cisco DNA Center は、レポートについて、次のステータスのウェブフック通知を送信します。

- In Queue
- In Progress
- Success

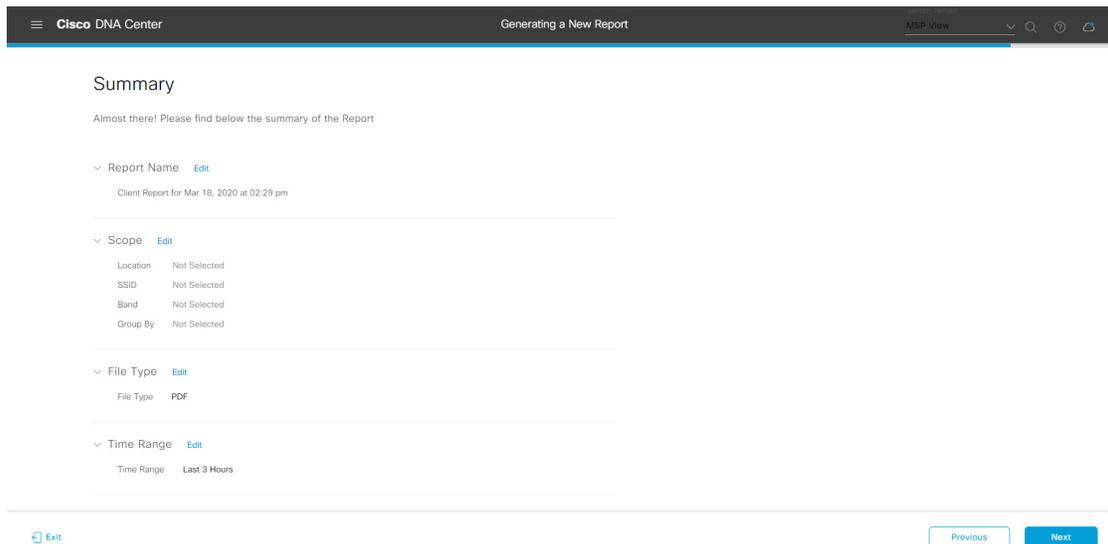
図 28 : **[Delivery and Notification]**

The screenshot shows the Cisco DNA Center interface for generating a report. The page title is "Generating a New Report". The main section is "Delivery and Notification". Under "Email Report", the "As a Link" radio button is selected. Below it is an "Add Email" text input field. There is also an unselected "Webhook Notification" radio button. At the bottom of the page, there are four buttons: "Exit", "Review", "Previous", and "Next".

**ステップ 16** [Next] をクリックします。

**ステップ 17** [Summary] ウィンドウで、設定を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

## 図 29: [Summary]



[Next] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 18** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウが開き、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

## 図 30: [Generated Reports]

Report Name	Schedule	Last Run	Reports	Format	Template Category	Report Template	Actions
Client Report for Mar 18, 2020 at 02:29 pm	One-Time on Mar 18, 2020 at 2:32 pm	In Queue	1	PDF	Client	Client Summary	--
Client Report for Mar 16, 2020 at 03:13 pm	One-Time on Mar 16, 2020 at 3:13 pm	Mar 16, 2020 at 3:14 pm ↓	1	CSV	Client	Client Detail	--

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## クライアントレポートの実行

ネットワークについての専門的なクライアントレポートを設定するには、次の手順を実行します。

## 始める前に

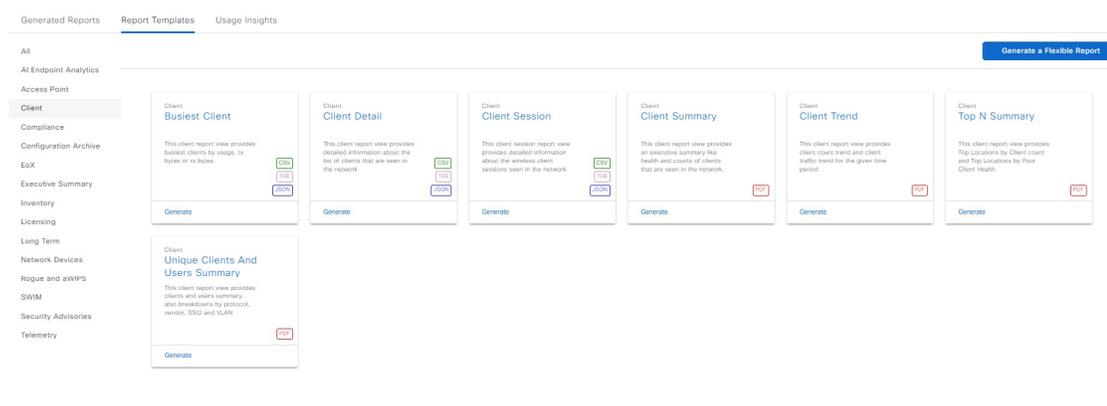
正常なディスクバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスクバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports] > [Report Templates] の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、選択されたカテゴリでサポートされているレポートが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 31: クライアントレポート



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。一部のクライアントレポートで表示されるデータを次に示します。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。
- データのグラフィカル表示（回線、バー、円グラフを含む）。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで [Generate] リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックして生成を開始します。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

ドロップダウンリストから [Template] を選択します。

(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲を選択します。

[Report Name] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、[Time Range] を選択します。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。クライアントレポートのデータは最大 90 日間保持されます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- PDF
- CSV
- Tableau Data Extract
- JSON

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

**ステップ 11** [Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。次に、[Next] をクリックします。

**ステップ 13** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。

- **[Link]** : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、**[Reports]** の **[Generated Reports]** ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大20の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enterを押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

- **[Attachment]** : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大20MBの電子メール通知添付ファイルと最大10の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enterを押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
  - インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- **[Webhook Notification]** : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト（**[Subscription Profile]** フィールド）からウェブフックを選択します。
- (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUIの**[Webhook]** タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、**[System]** > **[Settings]** > **[External Services]** > **[Destinations]** > **[Webhook]** の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (InQueue)」、「進行中 (InProgress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUIで表示することもできます。

**ステップ 14** **[Next]** をクリックします。

**ステップ 15** **[Summary]** ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

**[Generate Report]** をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 16** **[View the Generated Reports]** リンクをクリックします。

**[Generated Reports]** ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## コンプライアンスレポートの実行

Cisco DNA Center では、個々のネットワークデバイスのコンプライアンスステータスを示す統合されたコンプライアンス監査レポートを取得できます。このレポートを使用すると、ネットワークを完全に可視化できます。

次の手順では、ネットワークに関する [AP Performance] レポートを設定する方法について説明します。

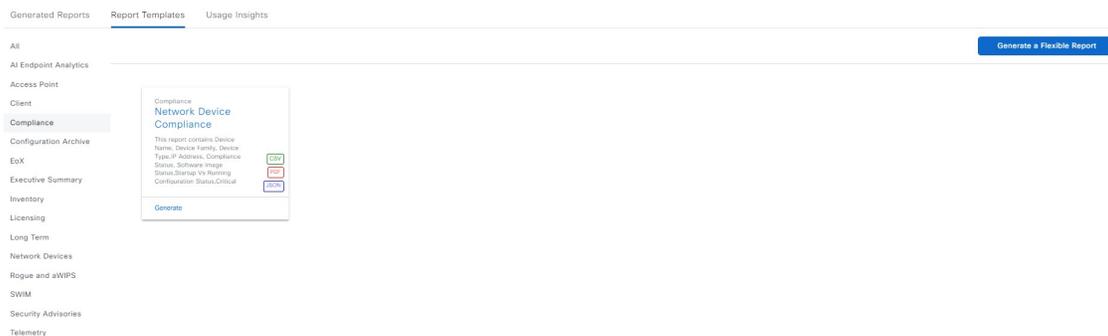
**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports] > [Report Templates]** の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。

**ステップ 2** 左側のペインで、**[Compliance]** をクリックして、コンプライアンスのテンプレートを表示します。

各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。

図 32: コンプライアンスレポート



**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで **[Generate]** リンクをクリックします。

**ステップ 6** **[Generate a New Report]** ウィンドウで、**[Let's Do It]** をクリックして生成を開始します。

今後この画面をスキップするには、**[Don't show this to me again]** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、[Template] ドロップダウンリストからテンプレートを変更できません。

(注) 同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

[Setup Report Scope] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 9** [Report Name] フィールドに、レポート名を入力します。

**ステップ 10** [Scope] 領域で、レポートに含める [Compliance Status]、[Compliance Category]、[Device Family]、[Device Type] を選択します。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択したテンプレートに応じて変わります。

**ステップ 11** [Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

Cisco DNA Center には、コンプライアンスレポートタイプの次の [File Type] オプションが表示されます。

- PDF
- CSV
- JSON

ファイルタイプが [CSV] および [JSON] の場合、[Fields] オプションで、CSV および JSON の結果についての属性を選択できます。

**ステップ 13** [Next] をクリックします。

**ステップ 14** [Schedule Report] ウィンドウが表示されます。レポートのスケジュールを選択します。次に、[Next] をクリックします。

**ステップ 15** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

電子メールの SMTP サーバーが設定されていない場合は、Cisco DNA Center により、設定するように求められます。リンクをクリックし、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] で電子メールの宛先を設定します。

- [AsaLink] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ページへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームにより電子メールアドレスが検証され、構文が正しくない場合は通知されます。

- [As an Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。
  - (注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームにより電子メールアドレスが検証され、構文が正しくない場合は通知されます。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
- インポートプロセスは進行中です。
- レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。

- (注) ウェブフックが作成されていない場合は、Cisco DNA Center により、作成するように求められます。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の [Webhook] タブでリンクをクリックしてウェブフックを設定します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次のステータスウェブフック通知を送信します。

- In Queue
- In Progress
- Success

[Platform] > [Runtime Dashboard] > [Event Summary] でイベント通知ステータスを確認できます。

**ステップ 16** [Next] をクリックします。

**ステップ 17** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

**ステップ 18** [Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 19** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウが開き、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、「[生成されたレポートの表示](#)」を参照してください。

# 設定アーカイブレポートの実行

ネットワークデバイスの設定変更の統合レポートを取得するには、次の手順を使用します。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports]>[Report Templates]**の順に選択します。
- [Report Templates]** ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。
- ステップ 2** 左側のペインで **[Configuration Archive]** をクリックしてテンプレートを表示します。
- 各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。
- ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。
- サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。
- ステップ 4** **[X]** をクリックして、プレビューを閉じます。
- ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで **[Generate]** リンクをクリックします。
- ステップ 6** **[Generate a New Report]** ウィンドウで、**[Let's Do It]** をクリックして生成を開始します。
- 今後この画面をスキップするには、**[Don't show this to me again]** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** **[Select Report Template]** ウィンドウで、**[Template]** ドロップダウンリストからテンプレートを変更できません。
- (注) 同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。
- ステップ 8** **[Next]** をクリックします。
- [Setup Report Scope]** ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** **[Report Name]** フィールドに、レポート名を入力します。
- ステップ 10** **[Scope]** エリアで、ドロップダウンリストから **[Category]** を選択します。
- [In band]** は、Cisco DNA Center によって行われた設定変更を指します。
- [Out Of Band]** は、Cisco DNA Center 外部で行われた設定変更を指します。
- ステップ 11** レポートに含める **[Device Family]** と **[Device Type]** を選択します。
- (注) **[Setup Report Scope]** オプションは、選択したテンプレートに応じて変わります。
- ステップ 12** **[Next]** をクリックします。
- ステップ 13** **[Select File Type]** ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。
- Cisco DNA Center には、構成アーカイブレポートタイプの次の **[File Type]** オプションが表示されます。

- PDF
- CSV
- JSON

ファイルタイプが [CSV] および [JSON] の場合、[Fields] オプションで、**CSV** および **JSON** の結果についての属性を選択できます。

**ステップ 14** [Next] をクリックします。

**ステップ 15** [Schedule Report] ウィンドウが表示されます。レポートのスケジュールを選択します。次に、[Next] をクリックします。

**ステップ 16** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

電子メールの SMTP サーバーが設定されていない場合は、Cisco DNA Center により、設定するように求められます。リンクをクリックし、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] で電子メールの宛先を設定します。

- [As a Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ページへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）[Enter] を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームにより電子メールアドレスが検証され、構文が正しくない場合は通知されます。

- [As an Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）[Enter] を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームにより電子メールアドレスが検証され、構文が正しくない場合は通知されます。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
- インポートプロセスは進行中です。
- レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。

(注) ウェブフックが作成されていない場合は、Cisco DNA Center により、作成するように求められます。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の [Webhook] タブでリンクをクリックしてウェブフックを設定します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次のステータスウェブフック通知を送信します。

- In Queue
- In Progress
- Success

[Platform] > [Runtime Dashboard] > [Event Summary] でイベント通知ステータスを確認できます。

**ステップ 17** [Next] をクリックします。

**ステップ 18** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

**ステップ 19** [Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 20** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウが開き、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、「[生成されたレポートの表示](#)」を参照してください。

## サポート終了レポートの実行

次の手順では、ネットワークに関する [End of Life (EoX)] レポートを設定する方法について説明します。

### 始める前に

- ソフトウェアをダウンロードする前、またはデバイスをプロビジョニングする前に、エンドユーザーライセンス契約 (EULA) に同意する必要があります。詳細については、『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「Accept the License Agreement」のトピックを参照してください。
- Cisco CX クラウド接続が有効になっていることを確認します。詳細については、[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#) の [Update the Machine Reasoning Knowledge Base] を参照してください。
- 正常なディスクバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスクバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports]>[Report Templates]**の順に選択します。

**[Report Templates]** ウィンドウが開き、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。

**[Report Templates]** ウィンドウでは、各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。

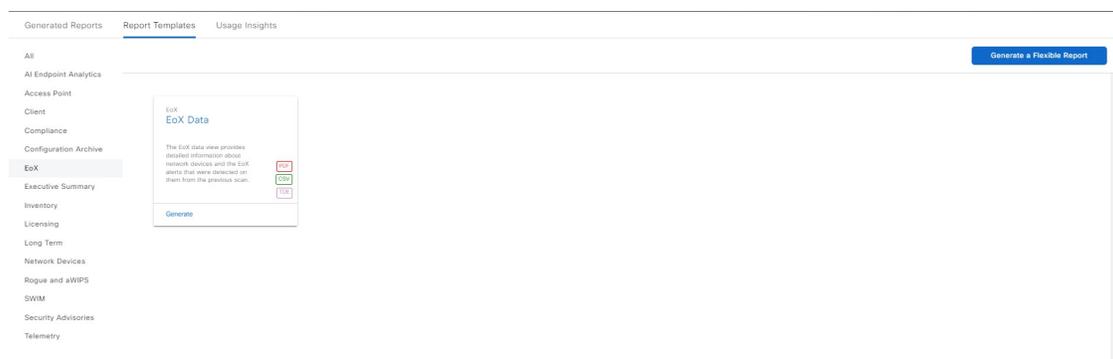
**ステップ 2** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。

**ステップ 3** **[X]** をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 4** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで **[Generate]** リンクをクリックします。

図 33: EoX レポート



**ステップ 5** **[Generate a New Report]** ウィンドウで、**[Let's Do It]** をクリックして生成を開始します。

今後この画面をスキップするには、**[Don't show this to me again]** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** **[Select Report Template]** ウィンドウで、**[Template]** ドロップダウンリストからテンプレートを選択します。

(注) **[Template]** には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

**ステップ 7** **[Next]** をクリックします。

**[Setup Report Scope]** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** **[Report Name]** フィールドに、レポート名を入力します。

**ステップ 9** **[Scope]** 領域で、レポートに含める **[Device Type]** と **[Location]** を選択します。

(注) **[Setup Report Scope]** オプションは、選択したテンプレートに応じて変わります。

**ステップ 10** [Next] をクリックします。

**ステップ 11** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

Cisco DNA Center では、レポートに基づいて次の [File Type] オプションが表示されます。

- PDF
- CSV
- Tableau Data Extract

ファイルタイプが [CSV] および [Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、**CSV** および **Tableau Data Extract** の結果についての属性（追加フィールド）を選択できます。

**ステップ 12** [Next] をクリックします。

[Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。

**ステップ 13** [Next] をクリックします。

**ステップ 14** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

Cisco DNA Center GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。

電子メールの SMTP サーバーが設定されていない場合は、Cisco DNA Center により、設定するように求められます。

- [As a Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ページへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームにより電子メールアドレスが検証され、構文が正しくない場合は通知されます。

- [As an Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームにより電子メールアドレスが検証され、構文が正しくない場合は通知されます。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。

- インポートプロセスは進行中です。
- レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- **[Webhook Notification]** : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。

(注) ウェブフックが作成されていない場合は、Cisco DNA Center により、作成するように求められます。Cisco DNA Center GUI の **[Webhook]** タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次のステータスウェブフック通知を送信します。

- In Queue
- In Progress
- Success

これらの通知は、GUI で表示できます。

**ステップ 15** **[Next]** をクリックします。

**ステップ 16** **[Summary]** ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

**ステップ 17** **[Generate Report]** をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 18** **[View the Generated Reports]** リンクをクリックします。

**[Generated Reports]** ウィンドウが開き、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

**[Generated Reports]** ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、「[生成されたレポートの表示](#)」を参照してください。

---

## エグゼクティブサマリーレポートの実行

ネットワークについての **[Executive Summary]** レポートを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

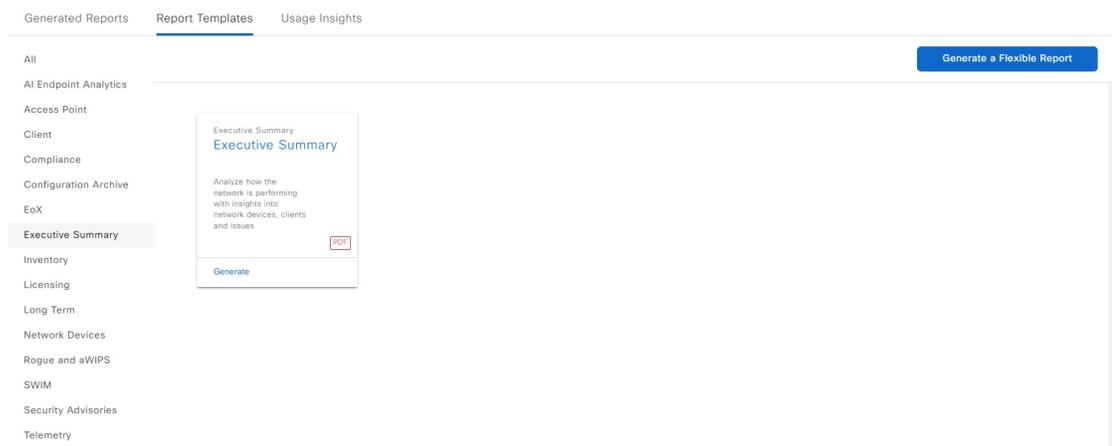
正常なディスカバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。 **[Device Inventory]** でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Provision]** > **[Inventory]** の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports]>[Report Templates]**の順に選択します。

**[Report Templates]** ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの **[Report Templates]** ウィンドウを確認します。

図 34: [エグゼクティブサマリー (Executive Summary) ] レポート



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- データメトリックとサマリー。
- データのグラフィカル表示（回線、バー、円グラフを含む）。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** **[X]** をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで **[Generate]** リンクをクリックします。

**[Generate]** ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** **[Generate a New Report]** ウィンドウで、**[Let's Do It]** をクリックして生成を開始します。

- ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。  
ドロップダウンリストから [Template] を選択します。  
(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。  
同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。  
[Next] をクリックします。
- ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲と時間範囲を選択します。  
[ReportName] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、[Time Range] を選択します。  
(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。[Executive Summary] レポートのデータは最大 90 日間保持されます。  
[Next] をクリックします。
- ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。  
[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。
- PDF
  - CSV
  - Tableau Data Extract
  - JSON
- ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。  
[Next] をクリックします。
- ステップ 10** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。次に、[Next] をクリックします。
- ステップ 11** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。
- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
  - [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。  
(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。
  - [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大20の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enterを押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

• [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enterを押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
- インポートプロセスは進行中です。
- レポートのコンパイルが正常に完了しました。

• [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト（[Subscription Profile] フィールド）からウェブフックを選択します。

(注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUIの[Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUIで表示することもできます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 13** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

# インベントリレポートの実行

ネットワークについてのインベントリレポートを設定するには、次の手順を実行します。

## 始める前に

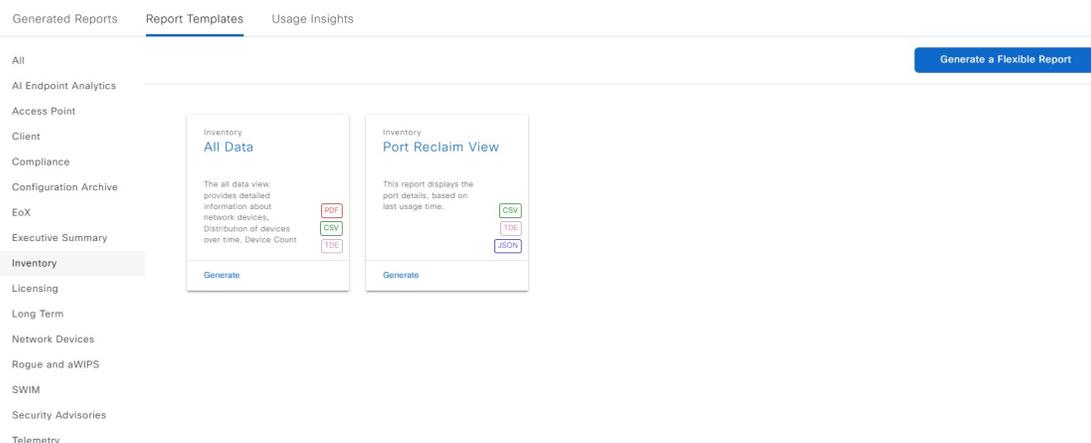
正常なディスクバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスクバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports] > [Report Templates] の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 35: [インベントリレポート (Inventory Report) ]



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。

- データのグラフィカル表示（回線、バー、円グラフを含む）。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで [Generate] リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックして生成を開始します。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

ドロップダウンリストから [Template] を選択します。

(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲を選択します。

[ReportName] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックします。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。

[Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

**ステップ 10** [Next] をクリックします。

**ステップ 11** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。

[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。

- **[Link]** : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、**[Reports]** の **[Generated Reports]** ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) **Enter** を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

- **[Attachment]** : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) **Enter** を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
  - インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- **[Webhook Notification]** : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト (**[Subscription Profile]** フィールド) からウェブフックを選択します。

(注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUI の **[Webhook]** タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、**[System]** > **[Settings]** > **[External Services]** > **[Destinations]** > **[Webhook]** の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUI で表示することもできます。

**[Next]** をクリックします。

**ステップ 13** **[Summary]** ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

**[Generate Report]** をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 14** **[View the Generated Reports]** リンクをクリックします。

**[Generated Reports]** ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## ライセンスレポートの実行

ネットワークについてのライセンスレポートを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

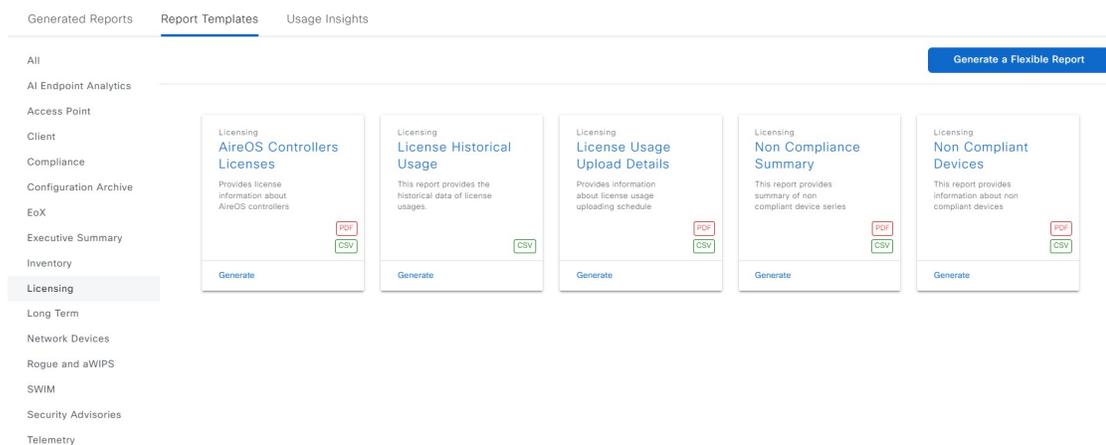
正常なディスカバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Provision] > [Inventory]** の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports] > [Report Templates]** の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 36: ライセンスレポート



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで [Generate] リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックして生成を開始します。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

ドロップダウンリストから [Template] を選択します。

(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲と時間範囲を選択します。

[Report Name] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールド内をクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、[Time Range] を選択します。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。

[Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- PDF
- CSV
- Tableau Data Extract
- JSON

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。

[Next] をクリックします。

**ステップ 11** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。
  - (注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。
- [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、レポートへのリンクと、[Reports] の [Generate Reports] ウィンドウへのリンクがあります。ここから、レポートを表示およびダウンロードできます。
  - (注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。
- [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。
  - (注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
- インポートプロセスは進行中です。
- レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト ([Subscription Profile] フィールド) からウェブフックを選択します。
  - (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUI の [Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知 (「In Queue」、「In Progress」、「Success」など) が届きます。これらの通知は、GUI で表示することもできます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 13** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

---

## ネットワーク デバイス レポートの実行

ネットワークについてのネットワーク デバイス レポートを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

正常なディスカバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

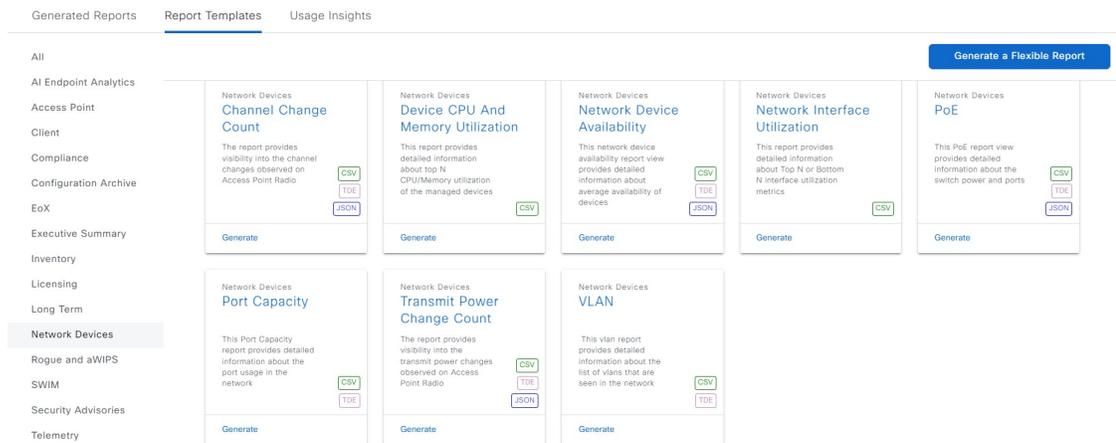
---

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports] > [Report Templates] の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。各カテゴリはリンクで表されます。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 37: ネットワークデバイス レポート



各テンプレートはタイルで表され、レポートに関する情報とレポートを設定（生成）するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。
- データのグラフィカル表示（回線、バー、円グラフを含む）。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで [Generate] リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックして生成を開始します。

**ステップ 7** [Setup the Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

[Template] ドロップダウンメニューからいずれかを選択します。

(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲と時間範囲を選択します。  
[Report Name] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、[Time Range] を選択します。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。

[Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。  
[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- PDF
- CSV
- Tableau Data Extract
- JSON

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。

[Next] をクリックします。

**ステップ 11** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。
  - (注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。
- [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知に、元のレポートと [Reports] の [Generated Reports] ウィンドウへのリンクが含まれます。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。
  - (注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。
- [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

- (注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
  - インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンメニュー（[Subscription Profile] フィールド）からウェブフックを選択します。
- (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUIの[Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUI で表示することもできます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 13** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## 不正および aWIPS レポートの実行

ネットワークについての不正および aWIPS レポートを設定するには、次の手順を実行します。

## 始める前に

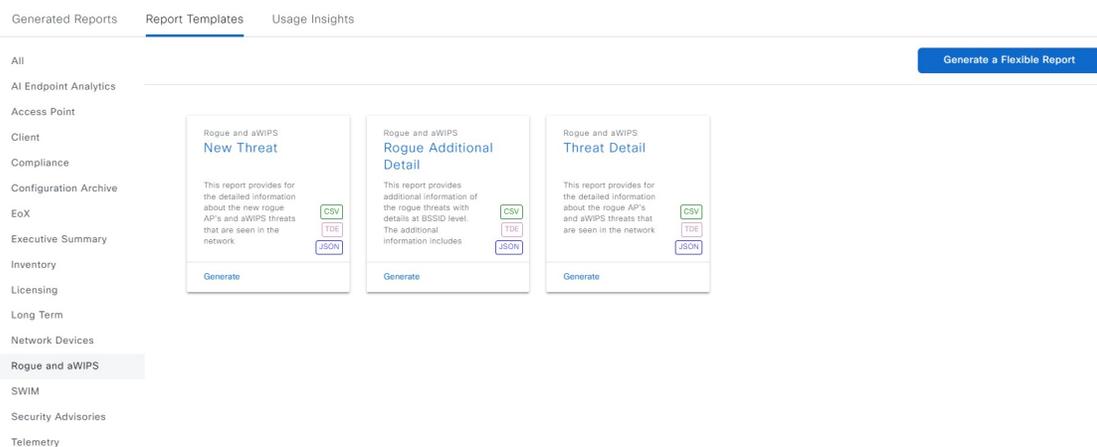
正常なディスカバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports] > [Report Templates] の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 38:不正および aWIPS レポート



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。
- データのグラフィカル表示（回線、バー、円グラフを含む）。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイトルで [Generate] リンクをクリックします。  
[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、[Let's Do It] をクリックして生成を開始します。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

ドロップダウンリストから [Template] を選択します。

(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲と時間範囲を選択します。

[Report Name] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、[Time Range] を選択します。

(注) • [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。

- ネットワーク内のすべての AP がフロアに割り当てられておらず、[Location] フィルタで [Global] を選択した場合、不正および aWIPS レポートには、グローバル階層の下で割り当てられた AP に関連付けられた脅威のみが表示されます。割り当てられていない AP に関連する脅威を表示するには、[Location] フィルタを空のままにしておく必要があります。

[Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- PDF
- CSV
- Tableau Data Extract
- JSON

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。

[Next] をクリックします。

**ステップ 11** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。  
(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。

- [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

- [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
  - インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト（[Subscription Profile] フィールド）からウェブフックを選択します。  
(注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUI の [Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUI で表示することもできます。

[Next] をクリックします。

ステップ 12 [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 13** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## ROI レポートの実行

Cisco DNA Center プラットフォームの ROI インサイトレポートは、Cisco DNA Center によるネットワーク運用の生産性向上、および従来の NMS と比較した ROI に関する知見を示すカスタマイズされたレポートです。

次の手順では、ネットワーク運用に関する ROI レポートを設定する方法について説明します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports] > [Usage Insights]** の順に選択します。

[Usage Insights] ウィンドウには、次の情報が表示されます。

- [SAVINGS] : 選択した時間範囲について、Cisco DNA Center によるネットワーク運用で節約された時間とコストが表示されます。
- [ROI Insights] : [Features]、[Time Saved]、[Cost Saved]、[Usage KPI]、[Traditional NMS] の時間、[Cisco DNA Center] の時間、[Actions] に基づいて作成された ROI インサイトレポートが一覧表示されます。
- [Savings Trends] : ROI インサイトレポートの [Cost] と [Time] の節約傾向が表示されます。

(注) [Savings Trends] 領域は、選択した時間範囲が1か月を超えている場合にのみ表示されます。

**ステップ 2** [Campus Network Assurance]、[Network Device Onboarding]、[Campus Software Image Management]、[Campus Network Segmentation] の各領域で、従来の NMS および Cisco DNA Center の [Hours] と [Minutes] の名前フィールドに時間の節約を入力します。

- [Traditional NMS] : Cisco DNA Center なしでネットワークの問題を検出して解決するのに要する平均時間。
- [Cisco DNA Center] : Cisco DNA Center でネットワークの問題を検出して解決するのに要する平均時間。

**ステップ 3** [Cost Inputs] と [IT Inputs] を変更するには、[Customize ROI Insights] をクリックして変更を加えます。

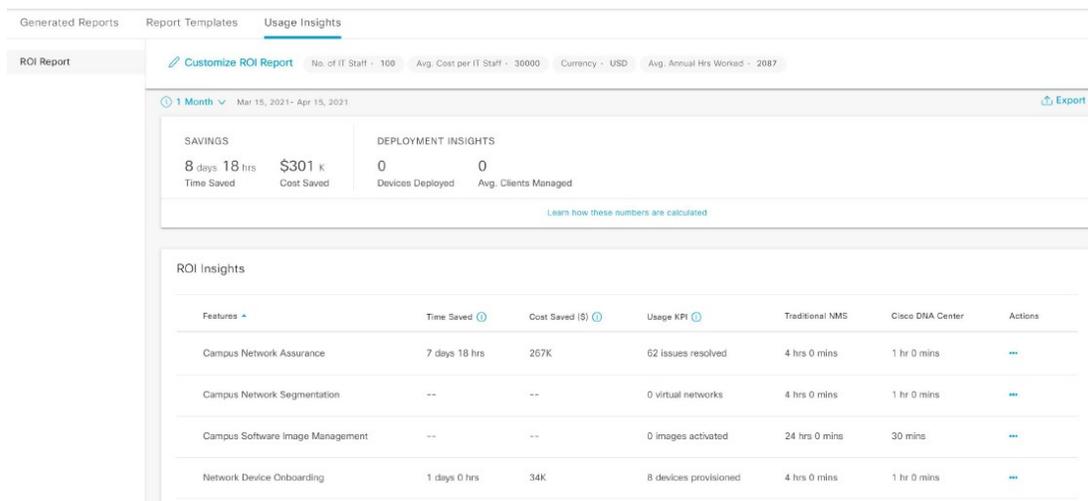
[Customize ROI Insights] 領域には、事前設定済みの [Cost per IT Staff]、[Currency]、[No. of IT Staff]、[Avg. Annual Hrs Worked] が表示されます。

**ステップ4** 機能について時間の節約を編集するには、[Actions]列の下にある対応する[Edit]リンクをクリックし、後続のポップアップウィンドウで時間を更新します。

**ステップ5** ROIレポートを表示する時間範囲を選択するには、[Customize ROI Insights]ペインの下にある時間範囲のドロップダウンリストをクリックし、時間範囲のオプションボタンをクリックします。

- 利用可能な時間範囲オプション（[1 Month]、[3 Months]、[6 Months]、[1 Year]）から選択します。
- ROIレポートの時間範囲をカスタマイズするには、時間範囲のドロップダウンリストをクリックし、[Custom]をクリックして、[Start Date]と[End Date]を定義します。

図 39: [Usage Insights] レポートダッシュボード



**ステップ6** 計算の詳細を表示するには、中央のペインの[ROI Insights]テーブルの上にある[Learn how these numbers are calculated]をクリックします。

[Calculation Details] ウィンドウには、[Time Saved]と[Cost Saved]の計算方法が表示されます。

**ステップ7** ROIレポートをエクスポートするには、[Export]をクリックします。

レポートでサポートされているファイルタイプは、PDFとCSVです。

## セキュリティアドバイザリレポートの実行

ネットワークについてのセキュリティアドバイザリレポートを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

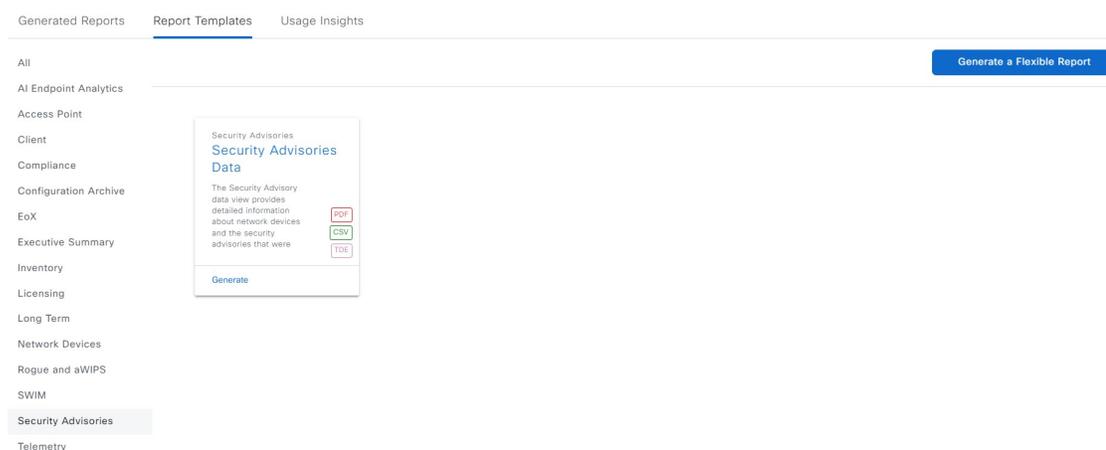
正常なディスカバリジョブをCisco DNA Centerで実行します。[Device Inventory]でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory]の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports]>[Report Templates]**の順に選択します。

**[Report Templates]** ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの **[Report Templates]** ウィンドウを確認します。

図 40: セキュリティアドバイザリレポート



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。
- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** **[X]** をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイルで **[Generate]** リンクをクリックします。

**[Generate]** ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** **[Generate a New Report]** ウィンドウで、**[Let's Do It]** をクリックして生成を開始します。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

ドロップダウンリストから [Template] を選択します。

(注) [Template] には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲と時間範囲を選択します。

[ReportName] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、[Time Range] を選択します。

(注) [Setup Report Scope] オプションは、選択した [Template] に応じて異なります。

[Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- PDF
- CSV
- Tableau Data Extract
- JSON

ファイルタイプが [CSV]、[JSON]、[Tableau Data Extract] の場合、[Fields] オプションで、CSV、JSON、Tableau Data Extract から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートのスケジュールを選択します。

[Next] をクリックします。

**ステップ 11** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。

(注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。

- [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

(注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大20の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enterを押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

• [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

(注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに（キーボードの）Enterを押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
  - インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス（コールバック URL）へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト（[Subscription Profile] フィールド）からウェブフックを選択します。
- (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUIの[Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUIで表示することもできます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Generate Report] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 13** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

# SWIM レポートの実行

ネットワークについての **SWIM** レポートを設定するには、次の手順を実行します。

## 始める前に

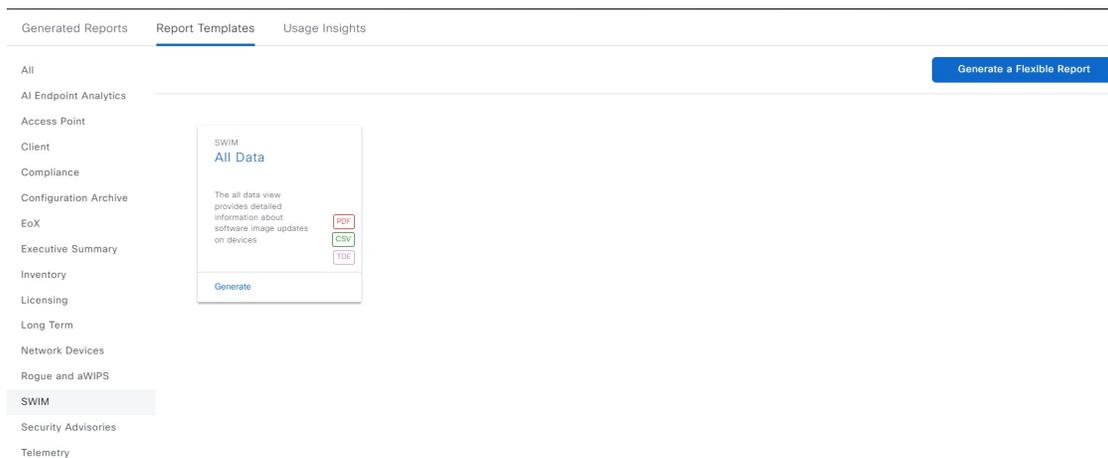
正常なディスクバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスクバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports] > [Report Templates] の順に選択します。

[Report Templates] ウィンドウに、サポートされているレポートカテゴリが表示されます。リンクは各カテゴリを表します。リンクをクリックすると、そのカテゴリでサポートされているレポートのみが表示されます。

**ステップ 2** リンクをクリックした後、選択したカテゴリの [Report Templates] ウィンドウを確認します。

図 41: SWIM レポート



各テンプレートはタイル表示され、レポートに関する情報とレポートを生成するためのリンクが含まれています。表示されたテンプレートからレポートの生成に使用するテンプレートを選びます。サポートされるレポートのファイルタイプがタイル内にアイコンで示されます。

**ステップ 3** サンプルレポートを表示するには、タイルでヘッダーをクリックします。

サンプルレポートのウィンドウが表示されます。ウィンドウのサイドバーを使用して下にスクロールし、サンプルレポート全体を確認します。次のデータが表示されます。

- 適用されたフィルタ（レポートを構築するために使用されたデータフィルタ）。
- データメトリックとサマリー。

- データの分析を支援するテーブル。

(注) サンプルレポートを使用して、レポートの表示方法を計画できます。

**ステップ 4** [X] をクリックして、プレビューを閉じます。

**ステップ 5** レポートを作成するためのパラメータを設定するには、タイトルで **[Generate]** リンクをクリックします。

[Generate] ウィンドウでは、レポートのフォーマットタイプを選択し、レポートにデータフィルタを適用し、実際のレポート生成スケジュールを設定することができます。

**ステップ 6** [Generate a New Report] ウィンドウで、**[Let's Do It]** をクリックして生成を開始します。

今後この画面をスキップするには、**[Don't show this to me again]** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [Select Report Template] ウィンドウで、レポートのテンプレートを選択します。

ドロップダウンリストから **[Template]** を選択します。

(注) **[Template]** には、リリースに対応するカテゴリの個々のレポートタイプが表示されます。

同じウィンドウで自動生成されたサンプルを確認できます。

**[Next]** をクリックします。

**ステップ 8** [Setup Report Scope] ウィンドウで、レポートの名前を指定して範囲と時間範囲を選択します。

[ReportName] フィールドにレポート名を入力し、[Scope] フィールドをクリックして使用可能なフィルタを表示します。レポートに使用するフィルタオプションをクリックし、**[Time Range]** を選択します。

(注) **[Setup Report Scope]** オプションは、選択した **[Template]** に応じて異なります。

**[Next]** をクリックします。

**ステップ 9** [Select File Type] ウィンドウで、レポートのファイルタイプを選択します。

[File Type] では、作成するレポートに応じて次のオプションを選択できます。

- **PDF**
- **CSV**
- **Tableau Data Extract**
- **JSON**

ファイルタイプが **[CSV]**、**[JSON]**、**[Tableau Data Extract]** の場合、**[Fields]** オプションで、**CSV**、**JSON**、**Tableau Data Extract** から作成するレポートの属性（追加フィールド）を選択できます。

**[Next]** をクリックします。

**ステップ 10** [Schedule Report] ウィンドウで、レポートの時間範囲とスケジュールを選択します。

**[Next]** をクリックします。

**ステップ 11** [Delivery and Notification] ウィンドウで、レポートの配信方法を選択します。

- [None] : 電子メールまたはウェブフックの通知を送信しません。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。
  - (注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。

- [Link] : レポートが正常にコンパイルされたことを伝える電子メール通知には、元の通知に戻るリンクと、[Reports] の [Generated Reports] ウィンドウへのリンクがあります。ここからリンクを使用して、レポートを表示およびダウンロードできます。

- (注) レポートへのリンクが埋め込まれた電子メール通知は、最大 20 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

- [Attachment] : レポートが電子メール通知に添付されます。

- (注) PDF レポートは、最大 20 MB の電子メール通知添付ファイルと最大 10 の電子メールアドレスをサポートします。複数の電子メールアドレスを追加するには、各電子メールアドレスを個別に追加し、追加するたびに (キーボードの) Enter を押す必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームは電子メールアドレスを検証し、構文が正しくない場合は通知します。

Cisco DNA Center は、レポートに関する次の電子メール通知を送信します。

- レポートは、実行待ちのキュー内にあります。
  - インポートプロセスは進行中です。
  - レポートのコンパイルが正常に完了しました。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト ([Subscription Profile] フィールド) からウェブフックを選択します。
    - (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUI の [Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

レポートのステータスウェブフック通知を受信します。たとえば、「キュー内 (In Queue)」、「進行中 (In Progress)」、「成功 (Success)」のウェブフック通知が届きます。これらの通知は、GUI で表示することもできます。

[Next] をクリックします。

ステップ 12 [Summary] ウィンドウで、構成を確認し、必要に応じてファイルを編集します。

[Next] をクリックします。

レポートが生成されると、成功したことを示すウィンドウが表示されます。

**ステップ 13** [View the Generated Reports] リンクをクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、スケジュールされたレポートのインスタンスの詳細が表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## フレキシブルレポートの生成

Cisco DNA Center では、有線およびワイヤレスネットワーク用にカスタマイズされたレポートを柔軟に生成できます。この手順では、選択したエンティティ、属性、集約、およびフィルタに基づく柔軟なレポートを設定する方法について説明します。

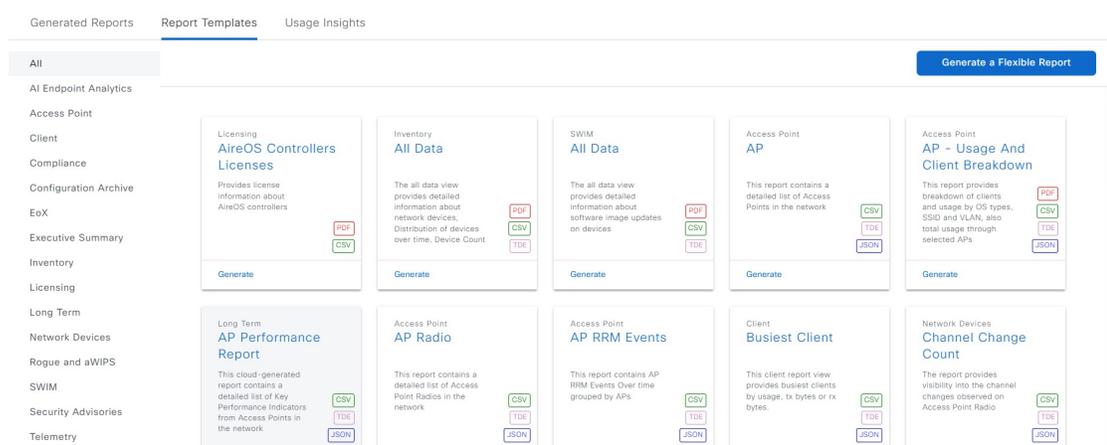
Cisco DNA Center GUI の [Reports] ウィンドウを使用して、柔軟なレポートを設定できます。

### 始める前に

正常なディスカバリジョブを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスカバリジョブが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Provision]** > **[Inventory]** の順に選択して結果を表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Reports]** > **[Report Templates]** の順に選択します。

図 42: フレキシブルレポートの生成



**ステップ 2** [Generate a Flexible Report] をクリックします。

(注) または、メニューアイコンをクリックして選択 **[Workflows]** > **[Flexible Report]** の順に選択します。

**ステップ 3** **[Flexible Report]** ウィンドウで、**[Let's Do it]** をクリックして生成を開始します。

**[Name Your Report and Select a Time Range for this Report]** ウィンドウが表示されます。

(注) 今後 **[Flexible Report]** ダイアログボックスをスキップするには、**[Don't show this to me again]** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** **[Report Name]** フィールドに、レポートの名前を入力します。**[Time Range]** を選択します。

(注) クライアントレポートでサポートされる時間範囲は90日です。ネットワークデバイス、PoE、および AP レポートの場合、サポートされる時間範囲は30日です。

**ステップ 5** **[Next]** をクリックします。

**ステップ 6** **[Create a Subreport]** ウィンドウで **[Subreport Name]** を入力し、エンティティ、レポートタイプ、フィルタ条件、およびそれぞれの属性を選択します。

このリリースでは、**[Select an entity]** ドロップダウンリストで次のオプションを使用できます。

- ネットワーク デバイス (**Network Device**)
- PoE
- AP
- **[SWIM]**
- クライアント

次の **[Report Type]** オプションを使用できます。

- **Trend**
- **Summary**
- **Top N**
- **Distribution**

選択したレポートタイプのフィルタ条件を選択します。

たとえば、**[Trend]** レポートタイプの場合は、ドロップダウンリストから **[Trending Interval]** を選択します。

**[Attributes available for this report type]** エリアから属性を選択します。

各属性で使用可能なグループ別、ソート基準、および集約オプションに基づいてグループを設定できます。

(注) **[Trend]** および **[Distribution]** レポートタイプでは、グループ別および集約オプションをサポートする属性の選択が必須です。**[Top N]** レポートタイプでは、ソート基準オプションをサポートする属性の選択が必須です。

**ステップ 7** [Next] をクリックします。

**ステップ 8** [Configure Group By, Aggregates and Sorting Options as Applicable] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [Configure Group By] を選択します。

(注) [Configure Group By] は、選択したレポートタイプによって必須または任意です。

- サポートされている各属性の [Aggregate Options] を、ドロップダウンリストから選択します。
- [Configure Sorting Option] では、各サブレポートの [Target Attributes] または [Sort Type] を選択し、ドロップダウンリストからそれぞれのオプションを選択できます。

**ステップ 9** [Next] をクリックします。

[Filters for the Current Subreport] ウィンドウが開きます。

- ドロップダウンリストからフィルタオプションを選択し、対応するフィルタの値を設定します。  
必要に応じて、[Apply this filter for the entire report] チェックボックスをオンにします。

- レポートで使用可能なフィールドのフィルタを設定します。

ドロップダウンリストから、フィルタを選択します。選択を基に [Operator] オプションと [Value] オプションを設定するか、範囲を選択してから、対応する [Unit] を選択します。

(注) このリリースでは、演算子ベースのフィルタオプションをクライアント、AP、およびネットワークデバイスの各エンティティで使用できます。

**ステップ 10** [Next] をクリックします。

[Would you like to add another Subreport] ウィンドウが開きます。

**ステップ 11** 別のサブレポートを追加するには、[Yes] を選択します。

[Subreports Created] エリアで、必要に応じて任意のサブレポートのパラメータを編集できます。

[Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Schedule the Report, Select Output Format and Choose the Delivery Method] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- レポートのスケジュールを選択します。
- ファイルの出力形式を選択します。

(注) このリリースでは、サポートされているレポートファイル形式は **CSV** です。フレキシブルレポートを使用すると、サブレポートごとに個別の **CSV** ファイルを生成または表示したり、関連するサブレポートを **ZIP** ファイルとしてまとめてダウンロードまたは表示できます。

- レポートの配信方法を選択します。

(注) 配信オプションを有効にするために利用可能なリンクを用いて、統合の設定を構成できます。

レポートの配信オプションは次のとおりです。

- [None] : レポートの表示のみを選択できます。
- [Email Report] : 電子メールレポートがリンクまたは添付ファイルとして送信されます。
  - (注) 電子メールの SMTP サーバーをまだ設定していない場合は、設定するように求められます。GUI の [Email] タブのプロンプトに従って SMTP サーバーを設定します。  
[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。
- [Webhook Notification] : 設定されたウェブフック URL アドレス (コールバック URL) へのウェブフックとして通知が送信されます。ドロップダウンリスト ([Subscription Profile] フィールド) からウェブフックを選択します。
  - (注) まだウェブフックを作成していない場合は作成するように求められます。GUI の [Webhook] タブのプロンプトに従ってウェブフックを設定します。一般に、ウェブフックを設定するには、[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。

Cisco DNA Center は、レポートについて、次のステータスのウェブフック通知を送信します。

- In Queue
- In Progress
- Success

これらの通知は、GUI で表示することもできます。

**ステップ 13** [Next] をクリックします。

[Summary] ウィンドウでサブレポートを確認し、必要に応じてパラメータを編集できます。

**ステップ 14** [Generate Report] をクリックします。

レポートを生成すると、次のオプションを含む成功ウィンドウが表示されます。

- 別のフレキシブルレポートの作成
- 生成されたレポートの表示

**ステップ 15** [View the Generated Reports] をクリックします。

[Generated Reports] ウィンドウに、フレキシブルレポートの詳細が新たに表示されます。

[Generated Reports] ウィンドウで、レポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除できます。詳細については、[生成されたレポートの表示 \(105 ページ\)](#) を参照してください。

## 生成されたレポートの表示

以前生成したレポートをダウンロード、確認、編集、複製、または削除するには、この手順を実行します。

図 43 : [Generated Reports]

Report Name	Schedule	Last Run	Reports	Format	Template Category	Report Template	Actions
Network Devices Report - Network Interface Utilization - May 31 2023 at 10:38	One-Time on May 31, 2023 at 10:38 am	Expired	0	CSV	Network Devices	Network Interface Utilization	...
Network Devices Report - Network Interface Utilization - May 31 2023 at 10:52	One-Time on May 31, 2023 at 10:53 am	Expired	0	CSV	Network Devices	Network Interface Utilization	...
Network Devices Report - Device CPU and Memory Utilization - May 31 2023 at 11:04	One-Time on May 31, 2023 at 11:04 am	Expired	0	CSV	Network Devices	Device CPU and Memory Utilization	...
Client Report - Top N Summary - May 31 2023 at 11:38	One-Time on May 31, 2023 at 11:39 am	Expired	0	PDF	Client	Top N Summary	...
Client Report - Top N Summary - May 31 2023 at 11:39	One-Time on May 31, 2023 at 11:40 am	Expired	0	PDF	Client	Top N Summary	...

Showing 62 of 62

### 始める前に

- 正常なディスクバリエーションを Cisco DNA Center で実行します。[Device Inventory] でディスクバリエーションが成功しているかどうか確認できます。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択して結果を表示します。
- [Catalog] の [Schedule] 機能を使って、レポートを作成します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Reports]。

**ステップ 2** [Generated Reports] をクリックします。

次の情報が表示されます。

- [Report Name]：レポートの名前。

レポートに名前を指定しなかった場合は、レポートの日付と時刻とともにレポートタイプを含むデフォルト名がレポートに指定されます。

(注) レポート名はリンクになっており、クリックすると [Generated Reports] ウィンドウ内でそのレポートが表示されます。[Download] リンクを使用すると、レポートのコピーをダウンロードできます。

- [Schedule]：生成された 1 回限りのレポートまたは繰り返しのレポート。レポートの生成スケジュールについての簡単な説明も表示されます。
- [Last Run]：レポートの実行ステータスと詳細が表示されます。次のレポート実行ステータスタイプが表示される場合があります。

- [Not Initiated] : スケジュールされたが、まだ開始されていないレポート。
  - [In Queue] : スケジュールされ、実行する処理キュー内にあるレポート。
  - [In Progress] : 現在実行中のレポート。
  - [Completed] : 実行が完了したレポート。完了時の日付と時刻が表示されます。  
アイコン（下矢印）をクリックすると、最後に生成されたレポートがダウンロードされます。
  - [Expired] : 期限切れになり、Cisco DNA Center で使用できなくなっているレポート。
  - [Error] : レポートの実行に失敗しました。
- [Reports] : 合計で最大 7 個のレポート数。

表示されたレポート数にマウスのカーソルを合わせると、[View Report List] が表示されます。レポートダイアログボックスを表示するには、[View Report List] をクリックします。レポートダイアログボックスには、すべてのレポート実行とそのステータス ([Not Initiated]、[In Queue]、[In Progress]、[Completed]、[Expired]、[Error])、およびコピーをダウンロードするための [Download] ボタンが表示されます。[Error] をクリックすると、レポートの実行に関するエラーと警告が表示されます。

**重要** Cisco DNA Center は合計 7 個のレポートを保持します。具体的には、Cisco DNA Center は、実行された最後の 7 個のレポートと、過去 7 日間（週）に実行された最後の 7 個のレポートを保持します。たとえば、1 日に 8 個のレポートを実行した場合、Cisco DNA Center は最後の 7 個のレポートのみを保持します。毎日 1 個のレポートをスケジュールすると、Cisco DNA Center は過去 7 日間（週）にわたる最新の 7 個のレポートのみを保持します。Cisco DNA Center からさまざまな形式でレポートをエクスポートし、それらを安全な場所にアーカイブすることができます。

- [Format] : PDF や CSV などのファイル形式タイプ。
- [Template Category] : カタログオプション（クライアント、エグゼクティブサマリー、SWIM、インベントリ）に基づくレポートのタイプ。
- [Report Template] : レポートの生成に使用されたテンプレート。
- [Actions] : レポートで実行できるタスクのリスト。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、GUI に表示されるダウンロードを調整することができます。

**ステップ 3** 次の 1 つ以上のタスクを実行するには、[Actions] をクリックします。

- [Edit] : レポートに設定されたパラメータ（スケジュールを含む）が表示されるウィンドウを開きます。このウィンドウでは、設定されているレポートパラメータを確認できます。ただし、この読み取り専用ウィンドウでは、レポート設定を変更できません。構成を編集する必要がある場合は、[Edit] をクリックします。[Edit] をクリックすると、レポート設定を表示および編集できます。
- [Edit] : レポートに設定されたパラメータ（スケジュールを含む）が表示されるウィンドウを開きます。このウィンドウでは、パラメータの確認および編集もできます。レポートを編集した後、[Save] をクリックします。

- 重要** レポート構成を編集して更新すると、以降のレポート実行にはこの新しい構成が反映されます。このことは、繰り返しのスケジュールでレポートが生成されている場合に重要です。また、レポート構成を編集して更新すると、Cisco DNA Center の以前のレポートはすべて削除されます。[Save] ボタンをクリックすると、削除に関する警告が GUI に表示されます。[Save] ボタンをクリックして以前のすべてのレポートを削除するために設定で編集を行う必要はありません。
- **[Duplicate]** : レポートのパラメータを表示または設定できる [Duplicate] ウィンドウが開きます。[Generate Report] をクリックして、レポートを再度生成します。
    - (注) 既存のレポートとその構成に基づいて新しいレポートを作成する場合は、[Duplicate] オプションを使用し、構成を変更します。これにより、既存のレポートとその構成を保持したまま、既存のレポートと同様の新しいレポートを作成できます。既存のレポートを廃棄して新しいレポートに完全に置き換える場合は、前述のように [View Config] オプションと [Edit] オプションを使用します。
  - **[Run Now]** : レポートを実行するプロセスを開始します。レポートの実行が成功すると、成功メッセージが表示されます。
    - (注) レポートを実行しようとしたときに以前のレポートが 7 個ある場合、最後の 7 個のレポートのみが保存されることを示す警告が GUI に表示されます。レポートの既存のスケジュール以外でレポートを生成する必要がある場合は、[Run Now] オプションを使用します。
  - **[Delete]** : レポートを削除します。レポートを削除する前に、このアクションを確認するよう求められます。
-





## 第 8 章

# 開発者用ツールキット GUI

- [開発者用ツールキットについて \(109 ページ\)](#)
- [API での作業 \(109 ページ\)](#)
- [統合フローの使用 \(112 ページ\)](#)
- [イベント通知の使用 \(114 ページ\)](#)

## 開発者用ツールキットについて

Cisco DNA Center プラットフォームは、次のソフトウェア開発者ツールを提供します。これらにより、Cisco DNA Center でアクセスしてプログラムするとともに、Cisco DNA Center と他のアプリケーションを統合することができます。

- **[APIs]** : 機能ごとにカテゴリ内で整理された API ([Operational Tasks] API や [Site Management] API など) を利用できます。
- **[Integration Flows]** : カテゴリ タイプごとに整理された統合フローを利用できます。
- **イベント通知** : ネットワークで発生する可能性のある特定のイベントを表示、登録できます。

## API での作業

このプロシージャを実行して、使用可能な API の確認、API を使用するためのコード例の生成、Cisco DNA Center プラットフォーム上でのインタラクティブな API の試用を行います。

Cisco DNA Center GUI には、要求方式と URL、クエリパラメータ、リクエストヘッダーのパラメータ、応答、およびスキーマ、要求をプレビューまたはテストする方法を含め、各 API コールに関するドキュメントが表示されます。

### 始める前に

- 前のセクションで説明されているとおり、サポートされているプログラミング言語と認証条件を満たしていることを確認してください。詳細については、[APIの前提条件](#)（9 ページ）を参照してください。
- これらの特定の API を表示するには、まず [Rogue and aWIPS] バンドルを有効にする必要があります。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform] > [Manage] > [Bundles] > [Rogue and aWIPS] > [Enable]** の順に選択します。このバンドルを有効にすると、[Contents] タブでバンドル内の API を確認したり、**[Platform] > [Developer Toolkit] > [APIs] > [Know Your Network] > [Devices]** の順に選択したりできます。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform] > [Developer Toolkit] > [APIs]** の順に選択します。

**ステップ 2** サポートされている API の一覧を確認します。

必要に応じて、[>] アイコンをクリックして、API サブドメインを表示します。

**ステップ 3** ドメインとサブドメインから API を選択します。

API を選択した後、各列に次の情報が表示されます。

- [Method] : サポートされるメソッドには、GET、POST、PUT、および DELETE が含まれます。
- [Name] : slide-in pane および説明、機能、タグ、パラメータ、応答、モデルスキーマなどの追加情報にアクセスするためのリンク。
- [Description] : メソッドの簡単な説明。
- [URL] : メソッドの URL 値。
- [Actions] : [Try] オプションを使用してコードプレビュースニペットを作成します。

(注) 特定の API 構成が進行中で、後から再度確認することを示す青色のメッセージが表示されることがあります。API が登録されている場合は画面が自動更新されます。その後、API アクティビティを続行できます。きわめて可能性は低いですが、API を設定できないことを示す赤で色分けされたメッセージが表示された場合は、Cisco DNA Center 管理者に連絡して、問題を解決するための支援をシスコに依頼してください。

**ステップ 4** API メソッドの名前（リンク）をクリックします。

API メソッドに関する次の情報が表示されます。

- [DESCRIPTION] : API の簡単な説明。
- [FEATURES] : メソッドと URL の情報。
- [TAGS] : API を使用する状況を含む API 識別子。タグがない API もあることに注意してください。
- [PARAMETERS] : 説明、データタイプ（ブール値または文字列）、デフォルト値、必要な値を含む API のパラメータ。

- [RESPONSES] : 考えられる HTTP 応答。
- [MODEL SCHEMAS] : データモデル ([Model] タブ) または実際の応答の JSON 形式 ([Model Schema] タブ) として応答を提供します。サンプルコードは、[Code Preview] ボタンから入手可能です。
- [POLICIES] : API レート制限機能。ポリシーは特定の API に適用されます。これらのポリシーは、クライアント IP アドレスごとの時間間隔あたりの API コール数を設定します。

**ステップ 5** (オプション) [Code Preview] をクリックして、コードプレビューを生成します。

(注) 独自のプログラムを作成している場合は、コードプレビューのサンプルを切り取って、独自のプログラムに貼り付けることができます。

**ステップ 6** (オプション) [Code Preview] ウィンドウで、ドロップダウンからコードを生成するための言語を選択します。

次の言語がサポートされています。

- シェル
- ノード : HTTP
- ノード : Unirest
- ノード : Request
- Python
- Ruby
- javascript
- JQuery
- PHP
- Go
- Ansible

使用するコードプレビューサンプルを確認またはコピーした後、[Close] をクリックします。

**ステップ 7** (オプション) [Try] をクリックして、メソッドを試します。

**ステップ 8** (オプション) [Try] ウィンドウで、要求された値 (URL アドレスや値など) を入力し、[Run] をクリックします。

応答またはエラーコードを確認した後、[Close] をクリックします。

Cisco DNA Center が 202 (承認) HTTP ステータスコードを返した場合、結果の本文には、元のリクエストが生成した非同期タスクに関する詳細情報のクエリに使用できるタスク ID と URL が含まれます。たとえば、非常に長いタスクが完了したかどうかを判断するためにこの情報を使用できます。詳細については、「[Getting Information about Asynchronous Operations](#)」を参照してください。

- (注) 応答は Cisco DNA Center 自体からのライブ応答で、結果はネットワークの実際の状態を反映しています。対照的に、コードプレビューは静的で、入力する必要がある値のプレースホルダが含まれています。

## 統合フローの使用

統合フローは、Cisco DNA Center プラットフォームと、ネットワーク問題を追跡、トラブルシューティング、および解決するために使用される ITSM システムなどのサードパーティ製システムとの相互作用を定義します。

Cisco DNA Center プラットフォームは、スケジュールベースの統合フローをサポートします。このタイプの統合フローはスケジュールに従って実行され、タスクを実行し、REST エンドポイントまたはその他のベンダーの特定の宛先への情報をプッシュします。スケジュールベースの統合フローは、これらを実行するスケジュールを指定する GUI で [Integration Flows] ウィンドウを使用して編集できます。



- (注) [Developer Toolkit] で使用可能な統合フローは、[Manage] > [Bundles] 内のさまざまなバンドルによって使用されます。バンドルは、ユーザー独自のアプリケーションを Cisco DNA Center と統合したり、Cisco DNA Center 自体のパフォーマンスを向上させたりするために使用されます。バンドル内で使用されている統合フローを表示するには、[Manage] 内でバンドルをクリックし、[Contents] タブをクリックします。バンドルの統合フローが、[Contents] タブの下にリストされます。

### 始める前に

[Integration Flows] ウィンドウで統合フローを表示および管理できるようにするには、それらを有効にする必要があります。Cisco DNA Center プラットフォームで個々のバンドルから統合フローを有効にする必要があります。たとえば、メニューアイコンをクリックして選択 [Platform] > [Manage] > [Bundles] > [Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization] の順にクリックします。[Contents] タブをクリックし、[Enable] をクリックします。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Developer Toolkit] > [Integration Flows] の順にクリックします。
- ステップ 2** GUI によって表示される統合フローを確認します。
- ステップ 3** ITSM 統合グループから統合フローを選択します。

次の情報が表示されます。

- [Name] : 統合フローと追加情報が入手可能な slide-in pane にアクセスするリンクの名前。

統合フローがRESTベースのトリガータイプの場合、統合フロー名をクリックすると、説明、タグ、パラメータ、応答、モデルスキーマ、ポリシーなどの追加データが表示されます。

統合フローがスケジュールベースのトリガータイプの場合、統合フロー名をクリックすると、スケジュールを設定するための slide-in pane が表示されます。この slide-in pane には、[DESCRIPTION]、[TAGS]、および [HOW TO USE THIS FLOW] の内容が表示されます。

- [Description] : 統合フローの簡単な説明。
- [Trigger] : RESTベースまたはスケジュールベース。
- アイコン ([...]) : コードプレビューまたは [Try] オプションを作成するためのリンク。統合フローがスケジュールベースの場合、このアイコンは [Schedule Flow] オプションにアクセスします。

**ステップ 4** REST ベースの統合フローの場合は、統合フローの名前（リンク）をクリックします。

slide-in pane が開き、REST ベースの統合フローに関する詳細が表示されます。詳細を確認し、slide-in pane を閉じます。

**ステップ 5** REST ベースの統合フローの場合は、アイコン ([...]) にマウス オーバーして [Generate Code Preview] をクリックし、コードプレビュースニペットを生成します。

これらの選択肢は、REST ベースでトリガーされた統合フローの場合にのみ表示されます。スケジュールベースの統合フローでは、マウスを合わせたときに、[Schedule Flow] メニュー項目が提示されます。

**ステップ 6** [Code Preview] ウィンドウで、ドロップダウンからコードを生成するためのプログラミング言語を選択します。

使用するコードを確認またはコピーした後、[Close] をクリックします。

**ステップ 7** REST リクエストのパスをインタラクティブに試すには、アイコン ([...]) にマウスオーバーして、[Try] をクリックします。

**ステップ 8** [Try] ウィンドウで、要求された値（URL アドレスや値など）を入力し、[Run] をクリックします。

メソッドを試した後、[Try] ウィンドウ内で応答/エラーコードを確認し、[Close] をクリックします。

Cisco DNA Center が 202（承認） HTTP ステータスコードを返した場合、結果の本文には、元のリクエストが生成した非同期タスクに関する詳細情報のクエリに使用できるタスク ID と URL が含まれます。たとえば、非常に長いタスクが完了したかどうかを判断するためにこの情報を使用できます。詳細については、「[Getting Information about Asynchronous Operations](#)」を参照してください。

(注) 応答については、Cisco DNA Center API はタスクベースの応答アーキテクチャを使用するため、複数のリクエストと応答が同時に送信されます。そのため、すべての PUT、POST、および DELETE リクエストでは、タスクベースの応答があります。応答に関する詳細を表示するには、タスク URL に GET リクエストを送信します（スクリプトから、または URL として）。エラーコードの場合、Cisco DNA Center API は標準の HTTP ステータスコードに従います。

**ステップ 9** スケジュールベースの統合フローの場合は、アイコン ([...]) にマウスオーバーして [Schedule Flow] をクリックします。

**ステップ 10** 次の表示されたデータを確認してください。

- [DESCRIPTION] : 統合フローの説明と目的。
- [TAGS] : タグは、どの Cisco DNA Center コンポーネントが、バンドルによって使用されるか、または影響を受けるかを示します。
- [HOW TO USE THIS FLOW] : スケジュール設定オプション。

GUI を使用して、統合フローをスケジュールすることができます。

**ステップ 11** 次の GUI オプションを使用して、統合フローのスケジュールを設定します。

- [Run Now] : [Run Now] を選択し、[Schedule] ボタンをクリックして統合フローを実行します。
- [Run Later] : [Run Later] を選択し、日付、時刻、およびタイムゾーンを入力します。[Schedule] ボタンをクリックして、指定した日付、時刻、およびタイムゾーンで統合フローを実行します。
- [Recurring] : [Recurring] を選択し、次のオプションを設定します。
  - [Repeats] : 統合フローを繰り返す頻度として毎日または毎週を選択します。
  - [Run at Interval] : 統合フローを実行する時間間隔を設定します。
  - [Set Schedule Start] : 開始日を設定します。
  - [Set Schedule End] : 終了日を設定します。

設定された時間に統合を実行するには、[Schedule] ボタンをクリックします。

---

## イベント通知の使用

ネットワークで発生する可能性のある特定のイベントに通知を関連付けることができます。通知がイベントに関連付けられた後で、イベントが発生した場合でも、REST API または電子メールで通知を受け取ります。Cisco DNA Center プラットフォーム GUI の [Event Notifications] ウィンドウを使用して、通知をイベントに関連付けます。

### 始める前に

- REST API 通知の場合は、Cisco DNA Center の [Webhook] タブでウェブフックの宛先を設定しておきます。[Webhook] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。ウェブフックの宛先の設定の詳細については、[ウェブフックの宛先の設定 \(42 ページ\)](#) を参照してください。
- イベントの電子メール通知の場合は、Cisco DNA Center の [Email] タブで電子メールの宛先を設定しておきます。[Email] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択し

ます。電子メールの宛先の設定の詳細については、[電子メールの宛先の設定 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

- イベントの Syslog サーバー通知の場合は、Cisco DNA Center の [Syslog] タブで Syslog サーバーの宛先を設定しておきます。[Syslog] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択 **[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Syslog]** の順に選択します。Syslog サーバーの宛先の設定の詳細については、[Syslog サーバーの宛先の設定 \(46 ページ\)](#) を参照してください。
- イベントの SNMP トラップ通知の場合は、Cisco DNA Center の [SNMP] タブで SNMP トラップの宛先を設定しておきます。[SNMP] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択 **[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [SNMP]** の順に選択します。トラップの宛先の設定に関する詳細については、[トラップ通知の設定 \(49 ページ\)](#) を参照してください。
- [Event Settings] ウィンドウにアクセスして、ネットワークで発生する可能性がある ITSM の統合についてのイベントのリストを確認し、Cisco DNA Center でキャプチャできるイベントを必要に応じて編集しておきます。[Events Settings] ウィンドウにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択 **[Platform] > [Manage] > [Configurations] > [Event Settings]** の順に選択します。

---

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform] > [Developer Toolkit] > [Event Notifications]** の順に選択します。

[Events Notifications] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Notifications] タブをクリックして、通知タイルを表示します。

各通知はタイルで表され、通知の詳細を表示するためのリンクが含まれています。

**ステップ 3** 左側のペインの [CHANNELS] エリアで、それぞれの通知タイルを表示するチャンネルの横にあるオプションボタンをクリックします。

サポートされているチャンネルは、[REST]、[PAGERDUTY]、[SNMP]、[SYSLOG]、[WEBEX]、[EMAIL] です。アシュアランス イベントでは、SNMP はサポートされません。

- (注)
- それぞれのチャンネルでイベントの通知を作成し、通知をトリガーする必要があります。詳細については、[Cisco DNA Center ユーザガイド](#) の「[イベント通知の作成](#)」を参照してください。
  - 1 つのイベント通知で複数のチャンネルがサポートされます。

**ステップ 4** 通知の詳細を表示する通知タイルリンクをクリックします。

[Notification Details] スライドインペインには、選択したチャンネルに基づいて次の通知の詳細が表示されます。

- [Name] : イベントの名前。
- [Description] : イベントの説明

- [Sites]
- [Event]
- [REST] : REST 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。[REST] エリアには、次の情報が表示されます。
  - [URL] : イベントが送信される REST API エンドポイントの URL アドレス。
  - [Method] : PUT メソッドまたは POST メソッド。
  - [Trust certificate] : REST API エンドポイント通知に信頼できる証明書が必要かどうか。
  - [Headers] : [Header Name] と [Header Value]。
- [PAGERDUTY] : PAGERDUTY 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。[PAGERDUTY] エリアには、次の情報が表示されます。
  - [PagerDuty Events API URL]
  - [PagerDuty Integration Key]
  - [PagerDuty Events API Version]
- [SNMP] : [SNMP] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。
- [SYSLOG] : [SYSLOG] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。
- [WEBEX] : [WEBEX] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。
- [EMAIL] : [EMAIL] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。[EMAIL] エリアには、E メール受信者の [From] と [To] と E メールの [Subject] が表示されます。

**ステップ 5** [Notification Details] slide-in pane で、右上隅にあるトグルボタンをクリックして、それぞれの通知を有効または無効にします。

**ステップ 6** 特定の通知を編集するには、[Actions] ドロップダウンリストをクリックし、[Edit] を選択します。

**ステップ 7** [EDIT NOTIFICATION] ウィンドウで、選択したチャンネルに基づいて以下を設定します。

1. [Name] フィールドに一意の名前を入力します。
2. [Description] フィールドに、それぞれのイベントの説明を入力します。
3. [Site and Events] を展開し、[Select a site] ドロップダウンリストからサイトを選択します。
4. イベントの横にあるプラスアイコンをクリックするか、[Add All] をクリックしてすべてのイベントをそれぞれの通知に追加します。
5. 通知からイベントを削除するには、削除するイベントの横にあるプラスアイコンをクリックするか、[Remove All] をクリックして、それぞれの通知からすべてのイベントを削除します。
6. [Configuration] を展開して、選択した通知チャンネルの構成を編集します。  
 [Configuration] エリアで詳細を指定するには、『Cisco DNA Center ユーザーガイド』の「**Create an Event Notification**」を参照してください。

(注) [Configuration] エリアに表示されるフィールドは、選択した通知チャンネルのタイプによって異なります。

**ステップ 8** 右上隅にあるトグルボタンをクリックして、タイルビューとリストビューを切り替えます。

**ステップ 9** [Event Catalog] タブをクリックして、作成されたイベントのリストを表示します。

(注) [Search] フィールドにキーワードを入力することで表示されるイベントを調整できます。

**ステップ 10** テーブル内の個々のイベントのデータを確認します。

[Event Details] タブに表示されるデータは次のとおりです。

- [Description] : イベントとそれを発生させるトリガーの簡単な説明。
- [Event ID] : イベントの識別番号。
- [Version] : イベントのバージョン番号。
- [Namespace] : イベントの名前空間。
- [Severity] : 1 ~ 5。

(注) シビラティ (重大度) 1 は最も重要または重大な優先度であり、このタイプのイベントに割り当てる必要があります。

- [Domain] : イベントが属する REST API ドメイン。
- [Subdomain] : イベントが属する REST API ドメインの配下のサブグループ。
- [Category] : エラー、警告、情報、アラート、タスクの進捗状況、タスクの完了。
- [Note] : イベントの理解に役立つ追加情報。
- [Event Link] : REST URL を使用したイベントブロードキャスト。
- [Tags] : イベントの影響を受ける Cisco DNA Center のコンポーネントを示すタグ。
- [Channels] : イベント通知でサポートされているチャンネル (REST API、電子メール、Webex など)。
- [Model Schema] : イベントに関するモデルスキーマが提示されます。
  - [Details] : イベントのモデルスキーマの詳細の例。
  - [REST Schema] : イベントの REST スキーマのフォーマット。

**ステップ 11** [Notifications] タブをクリックして、それぞれのイベントに関連付けられたアクティブな通知を表示します。

通知をイベントに関連付けると、[Event Catalog] タブに [Try-It Now] ボタンが表示されます。イベント通知シミュレーションを実行するには、[Try-It Now] をクリックします。詳細については、「[イベント通知シミュレーションの使用](#)」を参照してください。

## イベント通知シミュレーションの使用

Cisco DNA Center プラットフォームはイベントシミュレーションをサポートしており、イベントのサブスクリプション（電子メール、REST API、SNMPトラップ通知、syslogサーバー、または Webex）をテストできます。イベントシミュレーションの実行後、結果（成功または失敗）が GUI に表示されます。

### 始める前に

- イベントの Syslog サーバー通知の場合は、Cisco DNA Center の [Syslog] タブで Syslog サーバーの宛先を設定しておきます。[Syslog] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Syslog] の順に選択します。Syslog サーバーの宛先の設定の詳細については、[Syslog サーバーの宛先の設定（46 ページ）](#) を参照してください。
- 電子メール通知の場合は、Cisco DNA Center の [Email] タブで電子メールの宛先を設定しておきます。[Email] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Email] の順に選択します。電子メールの宛先の設定の詳細については、[電子メールの宛先の設定（44 ページ）](#) を参照してください。
- REST API 通知の場合は、Cisco DNA Center の [Webhook] タブでウェブフックの宛先を設定しておきます。[Webhook] タブにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択[System] > [Settings] > [External Services] > [Destinations] > [Webhook] の順に選択します。ウェブフックの宛先の設定の詳細については、[ウェブフックの宛先の設定（42 ページ）](#) を参照してください。
- [Event Settings] ウィンドウにアクセスして、ネットワークで発生する可能性がある ITSM の統合についてのイベントのリストを確認し、Cisco DNA Center でキャプチャできるイベントを必要に応じて編集しておきます。[Events Settings] ウィンドウにアクセスするには、メニューアイコンをクリックして選択[Platform] > [Manage] > [Configurations] > [Event Settings] の順に選択します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Developer Toolkit] > [Event Notifications] > [Event Catalog] の順に選択します。

**ステップ 2** [Event Catalog] タブで、イベントをクリックします。Cisco DNA Center がそのイベントに登録している場合、slide-in pane に [Try-It Now] ボタンが表示されます。[Try-It Now] をクリックします。

次のデータが表示されます。[Details] フィールドのみ編集できます。

- [Event Name] : Cisco DNA Center におけるイベントのシステム名。
- [Event ID] : イベントの識別番号。
- [Instance ID] : イベントのインスタンスの ID 番号。
- [Name] : イベントの名前。

- [Description] : イベントとそれを発生させるトリガーの簡単な説明。
- [Namespace] : イベントの名前空間。  
このリリースでは、すべてのイベントのデフォルト値は ASSURANCE です。
- [Context] : イベントのコンテキストのフィールド  
デフォルト値は EXTERNAL です。
- [Source] : 送信元フィールド。  
デフォルト値は EXTERNAL です。
- [Type] : [Network]、[App]、[System]、[Security]、または [Integrations] のイベントタイプ。
- [Category] : エラー、警告、情報、アラート、タスクの進捗状況、タスクの完了。
- [Severity] : 1 ~ 5。
- [Domain] : イベントが属する REST API ドメイン。
- [Sub Domain] : イベントが属する REST API ドメインの配下のサブグループ。
- [Details] : イベントに関する追加の詳細のフィールド (ユーザーが入力) 。

**ステップ 3** [X] をクリックしてフィールドを終了します。

**ステップ 4** [Publish] をクリックしてイベントシミュレーションを実行し、結果を確認します。

次の結果が表示されます。

- [Subscription Name] : ユーザーが作成したサブスクリプション名。
  - [Connector Type] : 電子メール、REST API、SNMP トラップ、または Syslog。
  - [Status] : ロード中、成功、または失敗。
  - [Message] : コネクタタイプが REST (REST API サブスクリプション) の場合、HTTPS 応答が表示されます。
-





## 第 9 章

# Runtime Dashboard

- [Runtime Dashboard について \(121 ページ\)](#)
- [イベントの概要の確認 \(121 ページ\)](#)
- [API の概要の確認 \(130 ページ\)](#)
- [CMDB 同期の概要の確認 \(131 ページ\)](#)
- [統合フローの概要の確認 \(133 ページ\)](#)

## Runtime Dashboard について

Runtime Dashboard では、次の概要をすばやく確認できます。

- **[API Summary]** : 最近の API コール、結果、およびパフォーマンスの概要。[View Details] をクリックすると、slide-in paneが開き、個別の API コール数およびコール時間に関する情報が表示されます。

[Runtime Dashboard] には、Cisco DNA Center から ServiceNow API 統合へのデータのみが表示されます。

- **[Event Summary]** : REST エンドポイントまたは統合フローを含む Cisco DNA Center イベント。イベント名 (リンク) をクリックすると、slide-in paneが開き、追加の詳細なイベント情報が表示されます。
- **[CMDB Synchronization Summary]** : インベントリから選択したデバイスの構成管理データベース (CMDB) 同期ステータスを表示する概要。
- **[Integration Flow Summary]** : 統合フローのインスタンス、結果、およびパフォーマンスの概要。適切なタブをクリックすると、RESTベースまたはスケジュールベースの統合フローに関する追加の詳細情報が表示されます。

## イベントの概要の確認

[Events Summary] Cisco DNA Center プラットフォーム を確認するには、この手順を実行します。[Event Summary] には、イベントのタイプに基づいて外部システムに発行されたイベント

の合計数が表示されます。[Events Summary] を使用し、Cisco DNA Center プラットフォームのモニタリングとトラブルシューティング、および他システムとの統合を支援できます。

Cisco DNA Center GUI の [Runtime Dashboard] ウィンドウで、[Event Summary] を確認します。

### 始める前に

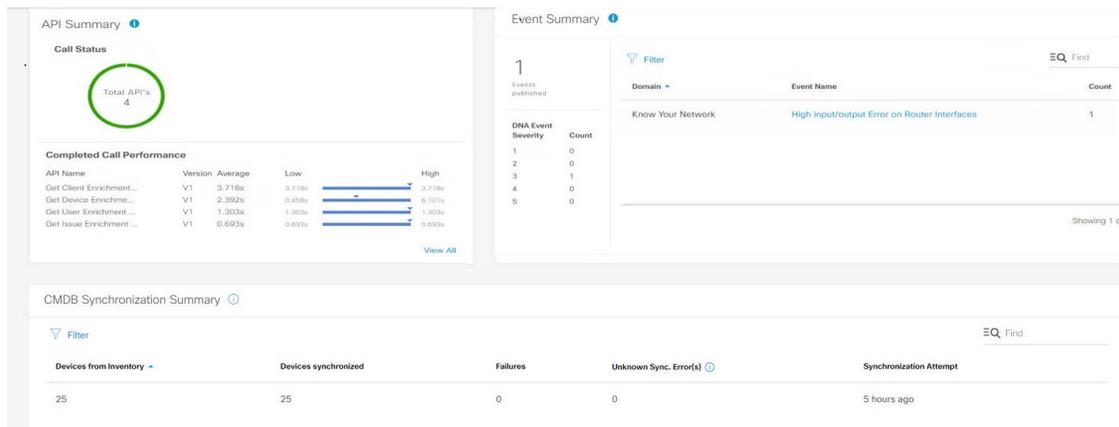
[Event Summary] フィールドでイベントを表示するには、[Bundles] でバンドルを有効化、設定、アクティベートする必要があります。また、[Event Settings] でバンドルに関連するイベント通知を有効にする必要があります。[Bundles] の詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。[Event Settings] の情報については、[イベント設定の構成 \(36 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform] > [Runtime Dashboard]** の順に選択します。

**ステップ 2** GUI メニューバーの右上にある **[Last 1 Week]** をクリックして、[Event Summary] の時間間隔を選択します。直近の 6、12、24 時間、またはその週のイベントの概要を表示できます。

**ステップ 3** [Runtime Dashboard] ウィンドウの [Event Summary] フィールドを確認します。

図 44 : [Events Summary] フィールド



現在のイベントに対して、次の情報が表示されます。

- [Events Published] : Cisco DNA Center プラットフォームによってキャプチャされ発行された (GUI に表示された) イベントの合計数。
- [Event Severity] : 重大度 (1 ~ 5 の数値) 別のイベントの合計数。
- [Count] : イベントの数。
- [Events] : ドメイン (カテゴリ)、イベント名 (リンク)、およびカウント (イベント数) 別のイベントのリスト。

(注) リスト全体を表示するには、フィールドの右側にあるスクロールバーを使用して下にスクロールします。

**ステップ 4** イベント名（リンク）をクリックして追加の詳細データを確認します。

例として、イベント [Router Unreachable] または [BGP Tunnel Connectivity] が GUI ウィンドウに表示されている場合は、そのリンクをクリックします。

イベント名（リンク）をクリックすると、slide-in paneが開きます。

**ステップ 5** このタイプのイベントのリスト（履歴）をslide-in paneで確認します。

図 45: Event History

Event Id	Source	Destination	ITSM Workflow	ITSM Status	ITSM Id	ITSM Link	ITSM Last UpdatedTime	ITSM
<a href="#">2c15ca52-f7cc-40ae-be73-3ae1a2f8e440</a>	ServiceNow	Cisco DNA Center	Incident	Resolved	INC0011958	<a href="https://ven03180.servicenow.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0badf57db78410b5e41f9e589619cc">https://ven03180.servicenow.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0badf57db78410b5e41f9e589619cc</a>	March 19th 2020, 9:55:00 pm	5 - 1

個々のイベントには、次の情報が表示されます。

- [Event ID] : Cisco DNA Center で生成された Cisco DNA Center イベント ID 番号。
- [Source] : イベントの発信元の場所。たとえば、Cisco DNA Center プラットフォーム (DNACP) または ITSM システム (ServiceNow) です。
- [Destination] : イベントの送信先の場所。たとえば、Cisco DNA Center プラットフォーム (Cisco DNA Center) や ITSM システム (ServiceNow) などです。
- [ITSM Workflow] : ITSM ワークフローのタイプ ([Incident] や [Problem] など)。
- [ITSM Status] : イベントの現在のステータス。イベントのステータスには、[Open]、[New]、[Closed]、[N/A] などがあります。
- [ITSM ID] : ITSM (ServiceNow) で生成された ITSM イベント ID 番号。
- [ITSM Link] : ITSM イベントの ITSM サーバーへのリンク。
- [ITSM Last Updated Time] : イベント更新の最後の日付と時刻。

- [ITSM Entity Severity/Priority] : イベントに割り当てられている ITSM のシビラティ (重大度) または優先度。
- [Event Severity] : Cisco DNA Center によってイベントに割り当てられた重大度 (1 ~ 5) 。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、テーブルに表示されるイベントを調整することができます。

**ステップ 6** イベント ID 番号 (リンク) をクリックすると、その特定のイベントに関連付けられているデータのみが表示されます。

イベント ID 番号 (リンク) をクリックすると、slide-in paneが開きます。

**ステップ 7** slide-in paneでイベント ID データを確認します。

図 46: イベント ID データ

The screenshot shows a table titled "Event History - 2c15ca52-f7cc-40ae-be73-3ae1a2fbc440" with columns for Source, Destination, ITSM Workflow, ITSM Status, ITSM Id, ITSM Link, ITSM Last UpdatedTime, ITSM Entity Severity/Priority, and DNA Event Severity. The table contains four records of incidents.

Source	Destination	ITSM Workflow	ITSM Status	ITSM Id	ITSM Link	ITSM Last UpdatedTime	ITSM Entity Severity/Priority	DNA Event Severity
ServiceNow	Cisco DNA Center	Incident	Resolved	INC0011958	<a href="https://ven03180.service-now.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0badf57dba78410b5a41ffa689619cc">https://ven03180.service-now.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0badf57dba78410b5a41ffa689619cc</a>	March 19th 2020, 9:55:00 pm	5 - Planning	2
Cisco DNA Center	ServiceNow	Incident	New	NA	NA	March 19th 2020, 9:53:59 pm	NA	2
ServiceNow	Cisco DNA Center	Incident	New	INC0011958	<a href="https://ven03180.service-now.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0badf57dba78410b5a41ffa689619cc">https://ven03180.service-now.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0badf57dba78410b5a41ffa689619cc</a>	March 19th 2020, 9:53:59 pm	5 - Planning	2
Cisco DNA Center	ServiceNow	Incident	NA	NA	NA	March 19th 2020, 9:50:27 pm	NA	2

その単一イベントについて、次の情報が表示されます。

- [Source] : イベントの発信元場所 (Cisco DNA Center プラットフォームや DNACP など) 。
- [Destination] : イベントの送信先場所。REST エンドポイントなどです。
- [ITSM Workflow] : ITSM ワークフローのタイプ ([Incident] や [Problem] など) 。
- [ITSM Status] : イベントの現在のステータス。イベントのステータスには、[Open]、[New]、[Resolved] などがあります。
- [ITSM ID] : ITSM イベント ID 番号。
- [ITSM Link] : ITSM (ServiceNow) へのリンク。

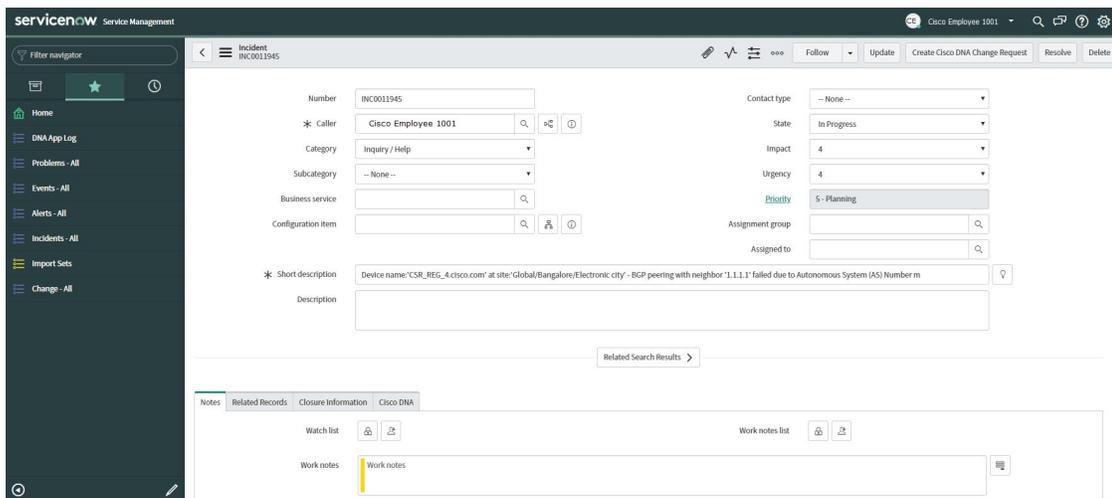
- [ITSM Last Updated Time] : イベント更新の最後の日付と時刻。
- [ITSM Entity Severity/Priority] : イベントに割り当てられている ITSM のシビラティ（重大度）または優先度。
- [Event Severity] : Cisco DNA Center によってイベントに割り当てられた重大度（1～5）。

slide-in paneを閉じて前のウィンドウに戻るには、ウィンドウの左上にあるイベントのリンクをクリックします。

新しいウィンドウでslide-in paneを閉じて [Runtime Dashboard] に戻るには、もう一度左上のリンクをクリックします。

**ステップ 8** （オプション） [ITSM Link] をクリックして、ITSM プログラム（ServiceNow サービス管理 GUI）を起動し、特定のインシデントにアクセスします。

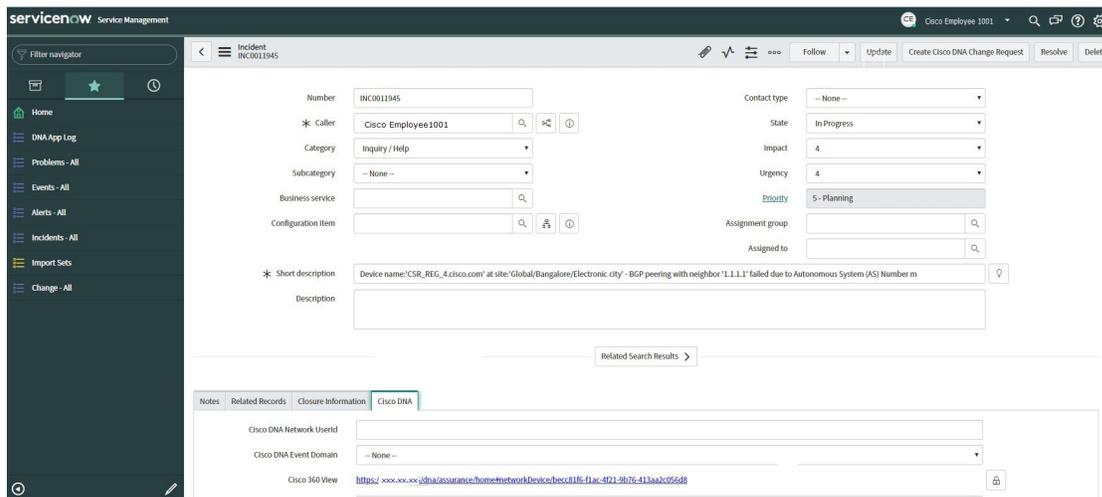
図 47: ServiceNow インシデント



(注) ITSM プログラムへの [Runtime] のイベントリンクを使用するには、『Cisco DNA Center ITSM Integration Guide』で説明されている手順に従って Cisco DNA Center プラットフォーム と ServiceNow の統合をセットアップする必要があります。

**ステップ 9** （オプション） ServiceNow サービス管理 GUI の [Cisco DNA] タブをクリックして、イベントの詳細を確認します。

図 48 : [Cisco DNA] タブ



[Cisco DNA] タブで次の情報を確認できます。

- [Cisco DNA Network UserID]
- [Cisco 360 View]
- [Cisco DNA Network Details]
- [Cisco DNA Event Domain]
- [Cisco DNA Event Details and Suggested Actions]
- [Cisco DNA Event ID]
- [Approval Status]

### 次のタスク

[Runtime Dashboard] に表示された、追加の Cisco DNA Center プラットフォーム データを確認します。

## ITSM イベントの再試行

ITSM イベントを再試行するために、Cisco DNA Center GUI の [Event Summary] ウィンドウを使用して Cisco DNA Center プラットフォームから ITSM (ServiceNow) にイベントを再送信し、再処理できます。

[Runtime Dashboard] の [Event Summary] ウィンドウには、イベントのタイプに基づいて外部システムに発行されたイベントの合計数が表示されます。[Event Summary] を使用し、Cisco DNA Center プラットフォームのモニターリングとトラブルシューティング、および他システムとの統合を支援できます。

### 始める前に

[Event Summary] フィールドでイベントを表示するには、[Bundles] でバンドルを有効化、設定、アクティベートする必要があります。また、[Event Settings] でバンドルに関連するイベント通知を有効にする必要があります。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform] > [Runtime Dashboard]** の順に選択します。

**ステップ 2** GUI メニューバーの右上にある **[Last 1 Week]** をクリックして、**[Event Summary]** の時間間隔を選択します。

直近の 6、12、24 時間、またはその週のイベントの概要を表示できます。

**ステップ 3** **[Runtime Dashboard]** ウィンドウの **[Event Summary]** フィールドを確認します。

現在のイベントに対して、次の情報が表示されます。

- **[Events Published]** : Cisco DNA Center プラットフォームによってキャプチャされ発行された (GUI に表示された) イベントの合計数。
- **[Event Severity]** : 重大度 (1 ~ 5) 別のイベントの合計数。
- **[Count]** : イベントの数。
- **[Events]** : ドメイン (カテゴリ)、イベント名 (リンク)、およびカウント (イベント数) 別のイベントのリスト。

(注) リスト全体を表示するには、フィールドの右側にあるスクロールバーを使用して下にスクロールします。

**ステップ 4** ITSM イベント名 (リンク) をクリックして追加の詳細データを確認します。

たとえば、「SWIMアップグレード要求作成イメージのアクティブ化 (SWIM Upgrade Request Creation Image Activation)」のような ITSM イベントが GUI ウィンドウに表示されていれば、そのリンクをクリックします。

イベント名 (リンク) をクリックすると、slide-in paneが開きます。

**ステップ 5** このタイプのイベントのリスト (履歴) をslide-in paneで確認します。

図 49: Event History

BGP Tunnel Connectivity (1)

Last 1 week

Last Updated: a few seconds ago Refresh

Filter Retry Find

Last In-Event Flow

<input type="checkbox"/>	Event Id	Source	Destination	ITSM Workflow	ITSM Status	ITSM Id	ITSM Link	ITSM Last UpdatedTime	ITSM
<input type="checkbox"/>	2c15ca52-f7cc-409e-be73-3ae1a2fba440	ServiceNow	Cisco DNA Center	Incident	Resolved	INC0011958	<a href="https://ven03180.service-now.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0baef57dba78410b5e41fa689619cc">https://ven03180.service-now.com/nav_to.do?uri=incident.do?sys_id=b0baef57dba78410b5e41fa689619cc</a>	March 19th 2020, 9:55:00 pm	5 - 1

個々のイベントには、次の情報が表示されます。

- [Event ID] : Cisco DNA Center で生成された Cisco DNA Center イベント ID 番号。
- [Source] : イベントの発信元の場所。たとえば、Cisco DNA Center プラットフォーム (DNACP) または ITSM システム (ServiceNow) です。
- [Destination] : イベントの送信先の場所。たとえば、Cisco DNA Center プラットフォーム (Cisco DNA Center) や ITSM システム (ServiceNow) などです。
- [ITSM Workflow] : ITSM ワークフローのタイプ ([Incident] や [Problem] など)。
- [ITSM Status] : イベントの現在のステータス。イベントのステータスには、[Open]、[New]、[Closed]、[N/A]、[Resolved] などがあります。
- [ITSM ID] : ITSM (ServiceNow) で生成された ITSM イベント ID 番号。
- [ITSM Link] : ITSM イベントの ITSM サーバーへのリンク。
- [ITSM Last updated Time] : イベント更新の最後の日付と時刻。
- [ITSM Entity severity/priority] : イベントに割り当てられている ITSM のシビラティ (重大度) または優先度。
- [Event Severity] : イベントに割り当てられた Cisco DNA Center の重大度 (1 ~ 5)。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、テーブルに表示されるイベントを調整することができます。

**ステップ 6** 再送信して再処理する必要がある ITSM イベントを特定します。

ITSM イベントの [ITSM Workflow]、[ITSM Status]、または [ITSM ID] の値が [N/A] と表示されている場合（イベントの送信元は ServiceNow でイベントの送信先は Cisco DNA Center）、再試行が必要な問題であることを示します。また、再試行が必要な ITSM イベントには、[Filter] 列にチェックボックスが表示されます。

**ステップ 7** [Filter] 列のチェックボックスをオンにして ITSM イベントを選択すると、[Retry] ボタンが有効になります。

**ステップ 8** [Retry] をクリックします。

イベントが送信先の ITSM に再送信されると、次のいずれかの状態になります。

- **再試行成功**：イベントの [ITSM Workflow]、[ITSM Status]、および [ITSM ID] の各列に該当する値が表示されます。たとえば、[ITSM Workflow] 列に [RFC]、[ITSM Status] 列に [New]、[ITSM ID] 列に英数字の ID が表示されます。
- **再試行失敗**：イベントの再試行に失敗した場合、イベントの [ITSM Workflow]、[ITSM Status]、または [ITSM ID] の値が [N/A] のままになります。2 回目の再試行に失敗した場合の対処方法については、次の手順を参照してください。

**ステップ 9** （オプション）再試行に失敗した場合は、Cisco DNA Center GUI で、メニューアイコンをクリックして選択 **[Platform] > [Developer Toolkit] > [APIs] > [Ecosystem Integrations] > [ITSM] > [Get Failed ITSM Events]** の順に選択します。

この API メソッドにアクセスして ITSM 統合のエラーに関する情報を取得できます。

**ステップ 10** [Try It] をクリックし、[Runtime] ダッシュボードに表示された失敗したイベントのインスタンス ID (**instanceId**) を入力します。

**ステップ 11** [Run] をクリックします。

この API を使用して、次の応答データを取得できます。

- **eventStatus** : ITSM (ServiceNow) イベントのステータス
- **errorCode** : ITSM (ServiceNow) イベントのエラーコード
- **errorDescription** : ITSM (ServiceNow) イベントのエラーの説明
- **responseReceivedFromITSMSystem** : ITSM (ServiceNow) の応答

API で取得した情報を使用して、イベントが失敗した理由を特定して修正します。

---

### 次のタスク

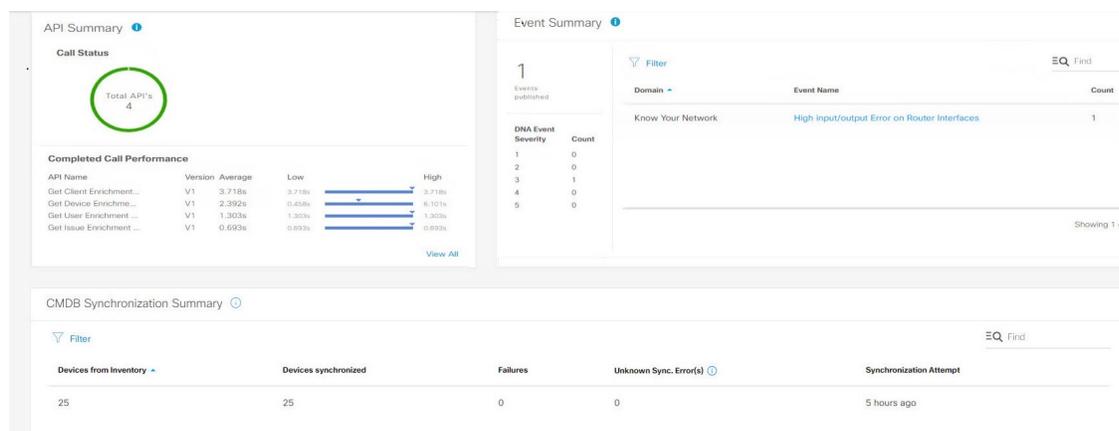
必要に応じて、他の ITSM イベントを再試行（再送信および再処理）します。

## API の概要の確認

[API Summary]Cisco DNA Center プラットフォーム を確認するには、この手順を実行します。[API Summary]には、API コールの合計数、API コール時間、および API コールステータスが表示されます。このデータを使って、Cisco DNA Center プラットフォーム API のパフォーマンスのモニターリングをサポートできます。この情報は、Cisco DNA Center プラットフォームのモニターリングやトラブルシューティング、他のシステムとの統合の際に役立ちます。

Cisco DNA Center GUI の [Runtime Dashboard] ウィンドウを使って、[API Summary]を確認します。

図 50: Cisco DNA Center プラットフォームの [Runtime Dashboard] ウィンドウ



### 始める前に

[API Summary] フィールドでイベントを表示するには、[Bundles] でモニターするイベントを提供するバンドルを有効化、設定、アクティベートする必要があります。[Bundles]の詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Runtime Dashboard] の順に選択します。

**ステップ 2** GUI メニューバーの右上にある [Last 1 Week] をクリックして、[API Summary] の時間間隔を選択します。直近の 6、12、24 時間、またはその週の API の概要を表示できます。

**ステップ 3** [API Summary] フィールドを確認します。

[API Summary] フィールドには、次の情報が表示されます。

- [Call Status] : API コールの合計数とステータスが表示されます。緑色は成功した API コールを表し、赤色は失敗した API コールを表します。
- [Completed Call Performance] : 完了した API コールのパフォーマンス一覧（アルファベット順、単位：秒）（低、平均、高）。

- [View Details] : 追加の API 詳細を表示するリンク。

**ステップ 4** [View Details] をクリックして、API に関する追加の詳細を確認します。

[All APIs calls] slide-in paneが開きます。

**ステップ 5** [All APIs calls] slide-in paneの情報を確認します。

次の情報が表示されます。

- API (名前順)。
- API バージョン。
- API コールの合計数、成功した API コール (緑のアイコン) の数、失敗した API コール (赤のアイコン) の数を含む API コールカウントテーブル。
- 最小時間、最大時間、平均時間を含む API 通話時間テーブル。

[Filter] アイコンをクリックしてフィルタを使用するか、[Find] フィールドにキーワードを入力することで、テーブルに表示される API を調整することができます。

---

#### 次のタスク

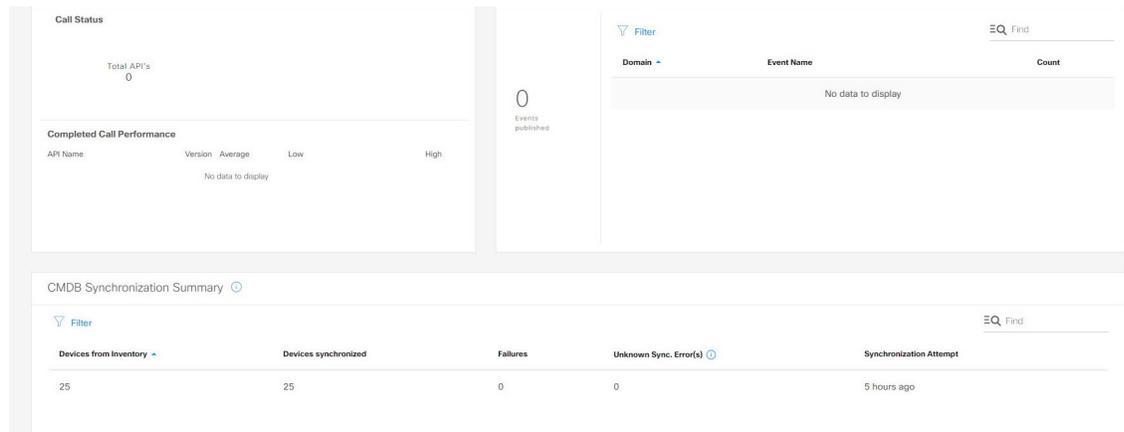
[Runtime Dashboard] に表示された、追加の Cisco DNA Center プラットフォーム データを確認します。

## CMDB 同期の概要の確認

Cisco DNA Center プラットフォームの [CMDB Synchronization Summary] を確認するには、この手順を実行します。[CMDB Synchronization Summary] には、ServiceNow に対するインベントリ デバイスデータの同期ステータスが表示されます。この概要は、ServiceNow とのデバイスデータ同期をモニターおよびトラブルシューティングするために役立てることができます。

Cisco DNA Center GUI の [Runtime Dashboard] ウィンドウを使って、[CMDB Synchronization Summary] を確認します。

図 51 : Cisco DNA Center プラットフォームの [Runtime] ウィンドウ



### 始める前に

[CMDB Synchronization Summary] フィールドでイベントを表示するには、[Bundles] でバンドルを有効化、設定、アクティベートする必要があります。また、[Event Settings] でバンドルに関連するイベント通知を有効にする必要があります。[Bundles] の詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。[Event Settings] の情報については、[イベント設定の構成 \(36 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Platform] > [Runtime Dashboard]** の順に選択します。

**ステップ 2** 次の情報が表示される [CMDB Synchronization Summary] フィールドを確認します。

- [Devices from inventory] : Cisco DNA Center から収集された [Inventory] からのデバイスの総数。
- [Devices synchronized] : ServiceNow との同期に成功したデバイスのリスト。
- [Failures] : Cisco DNA Center と ServiceNow の間で失敗した同期試行の回数。  
詳細については、[\[Learn More...\]](#) をクリックしてください。
- [Unknown Synch Errors] : Cisco DNA Center と ServiceNow の間で部分的に成功した同期試行の回数  
詳細については、[\[Learn More...\]](#) をクリックしてください。
- [Synchronization Attempt] : Cisco DNA Center と ServiceNow の間で最後に行われた同期試行の日時。

**ステップ 3** (オプション) 同期の失敗については、[\[Learn More...\]](#) リンクをクリックしてください。

**ステップ 4** デバイスの同期失敗に関して表示されたデータを確認します。

表には次の情報が表示されます。

- [Device ID] : デバイス識別番号。
- [Host Name] : デバイスが接続されているホストの名前。

- [Device Type] : スイッチ、ルータ、AP などのデバイスのタイプ。
- [MAC Address] : デバイスの MAC アドレス。
- [Management IP Address] : デバイスのアクセスおよびトラブルシューティングに使用できる、デバイスの管理アドレス。
- [Serial Number] : デバイスのシリアル番号。

**ステップ 5** [DeviceID] リンクをクリックして、[Inventory] ウィンドウでデバイスに関する追加情報を確認します。

### 次のタスク

Cisco DNA Center によって表示されるデータを確認して、デバイスと ServiceNow の間の同期に関する問題をトラブルシューティングします。

[Runtime Dashboard] に表示された、追加の Cisco DNA Center プラットフォーム データを確認します。

## 統合フローの概要の確認

[Integration Flow Summary] Cisco DNA Center プラットフォーム を確認するには、この手順を実行します。[Integration Flow Summary] を使って、Cisco DNA Center プラットフォーム 統合フローのパフォーマンスのモニターリングをサポートできます。この情報は、Cisco DNA Center プラットフォームのモニターリングやトラブルシューティング、他のシステムとの統合の際に役立ちます。

Cisco DNA Center GUI の [Runtime Dashboard] ウィンドウを使って、[Integration Flow Summary] を確認します。

図 52: Cisco DNA Center プラットフォームの [Runtime Dashboard] ウィンドウ

The screenshot displays the Cisco DNA Center Runtime Dashboard interface. It includes several sections:

- Total APIs:** Shows 0 APIs.
- Completed Call Performance:** A table with columns for API Name, Version, Average, Low, and High. It displays "No data to display".
- DNA Event Severity:** A table with columns for Severity and Count.
 

DNA Event Severity	Count
1	0
2	0
3	1
4	0
5	0
- Know Your Network:** Shows a link for "High Input/output Error on Router Interfaces" with a count of 1.
- CMDB Synchronization Summary:** Displays an error message: "Error occurred while getting CMDB summary."
- Integration Flow Summary:** Shows a table of integration flows.
 

Domain	Name	Version	Instances	Performance
Integrations	Get Asset from DNAC	V1	9 (0 failed, 0 pending, 9 success)	Minimum: 0.02s, Maximum: 0.977s, Average: 0.143s

### 始める前に

[Integration Flow Summary] フィールド (2つのタブ) でデータを表示するには、[Bundles] でモニターするイベントを提供するバンドルを有効化、設定、アクティベートする必要があります。[Bundles] の詳細については、[バンドル機能 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Platform] > [Runtime Dashboard] の順に選択します。

**ステップ 2** GUI メニューバーの右上にある [Last 1 Week] をクリックして、[integration flow summary] の時間間隔を選択します。

直近の 6、12、24 時間、またはその週の統合フローの概要を表示できます。

**ステップ 3** 次の情報が表示される [Integration Flow Summary] フィールドを確認します。

- [REST-Based] : ドメイン、統合フロー名とリンク、バージョン、インスタンスの合計、インスタンスのステータス (成功 (緑)、失敗 (赤)、進行中 (青)) およびパフォーマンス (最低、最高、平均のコールパフォーマンス時間 (ミリ秒))。
- [Schedule-Based] : ドメイン、統合フロー名とリンク、バージョン、インスタンスの合計、インスタンスのステータス (成功 (緑)、失敗 (赤)、進行中 (青)) およびパフォーマンス (最低、最高、平均のコールパフォーマンス時間 (ミリ秒))。

**ステップ 4** REST ベースの統合フローで生成されたデータの概要を表示するには、[REST-Based] タブをクリックします。

**ステップ 5** [REST-Based] のデータを確認します。

統合フロー名 (リンク) をクリックして、インスタンスに関する追加情報を表示します。次の追加情報が slide-in pane に表示されます。

- [Instance ID] : 統合フローへのインスタンスの ID 番号 (とリンク)。インスタンスを 1 つ以上の統合フローに設定できます。
- [Status] : インスタンスのステータス (成功または失敗)。
- [Start Time] : インスタンスコールの開始日時。
- [End Time] : インスタンスコールの終了日時。
- [Duration] : コールの時間 (秒単位)。

**ステップ 6** 個々のインスタンス ID (リンク) をクリックして、それぞれに関する詳細な情報を表示します。

次の追加情報が slide-in pane に表示されます。

- [RUN SUMMARY] : 開始日時と終了日時、所要時間、ステータス。
- [ERRORS] : エラー応答 (ある場合)。
- [LOGS] : ログエントリ (使用可能な場合)。

[X] アイコンをクリックして **slide-in pane** を閉じて、前のウィンドウに戻ります。

**ステップ 7** スケジュールベースの統合フローで生成されたデータの概要については、[Schedule-Based] タブをクリックします。

**ステップ 8** [Schedule-Based] のデータを確認します。

統合フロー名（リンク）をクリックして、インスタンスに関する追加情報を表示します。次の追加情報が **slide-in pane** に表示されます。

- [Instance ID] : 統合フロー内のインスタンスの ID 番号。
- [Status] : インスタンスのステータス（成功または失敗）。
- [Start Time] : インスタンスコールの開始日時。
- [End Time] : インスタンスコールの終了日時。
- [Duration] : コールの時間（秒単位）。

**ステップ 9** 個々のインスタンス ID（リンク）をクリックして、それぞれに関する詳細な情報を表示します。

次の追加情報が **slide-in pane** に表示されます。

- [RUN SUMMARY] : 開始日時と終了日時、所要時間、ステータス。
- [ERRORS] : エラー応答（ある場合）。
- [LOGS] : ログエントリ（使用可能な場合）。

[X] アイコンをクリックして **slide-in pane** を閉じて、前のウィンドウに戻ります。

---

### 次のタスク

[Runtime Dashboard] に表示された、追加の Cisco DNA Center プラットフォーム データを確認します。





## 第 10 章

# Cisco DNA Center プラットフォームのリソースおよびドキュメンテーション

- [Cisco DNA Center プラットフォームのリソースおよびドキュメンテーション](#) (137 ページ)

## Cisco DNA Center プラットフォームのリソースおよびドキュメンテーション

次の表に、Cisco DNA Center プラットフォームの運用を開始するときに使用できるリソースとドキュメントを示します。

表 3: Cisco DNA Center プラットフォームのリソースおよびドキュメンテーション

リソース	リンク
<b>Cisco DNA Center ITSM 統合ガイド</b> このガイドは、Cisco DNA Center プラットフォームと ServiceNow の運用を開始する場合に使用します。	<a href="#">Cisco DNA Center ITSM 統合ガイド</a>
<b>Cisco DNA Center プラットフォームの概要</b> このリソースを使用して、インテント API と統合 API に関する概要情報を参照します。	<a href="#">Cisco DNA Center プラットフォームの概要</a>
<b>Cisco DNA Center プラットフォームインテント API スタートアップガイド</b> インテント API と Cisco DNA Center プラットフォームの運用を開始する場合は、このリソースを使用します。	<a href="#">Cisco DNA Center プラットフォームインテント API スタートアップガイド</a>
<b>Cisco Code Exchange</b> シスコのテクノロジーに関連するコードリポジトリ。	<a href="#">Cisco Code Exchange</a>



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。